
シラバス

授業科目、科目責任者及び単位数 (第1学年)

区分		科目	科目責任者			単位	1学期	2学期	
感性と創造	人と文化	久留米大学の理念と歴史	医学部看護学科	教授	益守 かつき	1	■		
		音楽と癒し	医学部看護学科	教授	田中 佳代	2		○	
		文学	文学部	講師	藤本 晃嗣	2		○	
		スポーツ科学 I	人間健康学部	教授	右田 孝志	1	○ (集中講義)		
		スポーツ科学 II	非常勤講師		光安 ひかり	1	○	○	
		倫理学	非常勤講師		丸山 望美	2	■		
		比較文化論	非常勤講師		永吉 守	2		○	
		教育学	文学部	講師	小田 茜	2	○		
		心理学	文学部	助教	石田 有紀	2	○		
	人と言語	国語表現法	文学部	教授	大庭 卓也	1		■	
		英語 I	外国語教育研究所	教授	島村 恭輔	1	■	■	
		オーラルイングリッシュ I	文学部	教授	ア-サー ミアソ	1	■	■	
			非常勤講師		ラツデ イウ イット				
		ドイツ語	文学部	准教授	大場 はるか	1	○		
		中国語	外国語教育研究所	教授	李 偉	1	○		
	韓国語	外国語教育研究所	教授	李 熙卿	1	○			
	くらしと社会	社会学	文学部	特任教授	中西 吉則	2	○		
		生活と経済	非常勤講師		矢野 生子	2		○	
		くらしと法	法学部	准教授	藺田 史	2		○	
	人と自然	環境科学	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2	○		
		くらしとサイエンス	医学部自然科学教室 (化学)	教授	東元 祐一郎	2	■		
		人間工学	非常勤講師		松尾 重明	2		○	
		情報学	医学教育研究センター	准教授	柏木 孝仁	1	■		
		統計・推計学	病院経営室	准教授	宮本 貴宣	1		■	
	人間と健康	からだの構造とはたらき	からだの構造と機能 I	医学部看護学科	教授	嵯峨 堅	2	■	
			からだの構造と機能 II	医学部看護学科	教授	嵯峨 堅	2		■
			からだの代謝	医学部医化学講座	講師	原田 二郎	1		■
こころの構造とはたらき		こころの生涯発達	医学部看護学科	准教授	舞弓 京子	1		■	
		ボランティア活動	非常勤講師		土井 幸治	1	○		
健康と健康障害		家族社会学	非常勤講師		井上 智史	1		○	
		微生物と感染	医学部感染制御学講座	教授	渡邊 浩	1		■	
		病理学	医学部病理学講座	後任教授		2		■	
看護の実践		看護の基本	看護学概論 I	医学部看護学科	教授	加悦 美恵	1	■	
	生命・看護倫理		医学部看護学科	准教授	恒松 佳代子	1		■	
	生活援助技術 I		医学部看護学科	教授	加悦 美恵	2	■		
	生活援助技術 II		医学部看護学科	准教授	恒松 佳代子	1		■	
	対象理解と看護活動	地域・在宅看護概論	医学部看護学科	講師	渡邊 理恵	1		■	
		公衆衛生看護学概論	医学部看護学科	教授	重松 由佳子	2		■	
	臨地実習	生活支援実習	医学部看護学科	教授	加悦 美恵	1		■	

■は必修科目
○は選択科目

授業科目、科目責任者及び単位数 (第2学年)

区分		科目	科目責任者			単位	1学期	2学期	
感性と創造	人と言語	英語Ⅱ	非常勤講師		藤原 恵子	1	■	■	
		オーラルイングリッシュⅡ	外国語教育研究所	教授	キリシトフ ラウ	1	■	■	
			外国語教育研究所	准教授	シャロツト ムラカミ				
人間と健康	からだの構造とはたらき	からだの構造と機能Ⅲ	医学部看護学科	教授	嵯峨 堅	1	■		
	健康と健康障害	社会福祉と社会保障	文学部	教授	片岡 靖子	1	■		
		免疫	医学部免疫学講座	教授	溝口 充志	1	■		
		疫学	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2		■	
		症候学	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2	■		
		疾病治療論Ⅰ	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2	■		
		疾病治療論Ⅱ	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2		■	
		臨床薬理	医学部薬理学講座	教授	西 昭徳	2		■	
		臨床栄養	栄養部	副部長補佐	山田 泰士	1		■	
看護の 実践	看護の 基本	診療に伴う援助技術	医学部看護学科	講師	前野 里子	2	■		
		フィジカルアセスメント技術	医学部看護学科	講師	河原田 康貴	1	■		
		人間関係方法論	医学部看護学科	准教授	舞弓 京子	1	■		
		回復期援助技術	医学部看護学科	講師	孫田 千恵	1		■	
		看護過程Ⅰ	医学部看護学科	講師	前野 里子	1		■	
	対象理解 と 看護活動	地域・在宅生活支援論	医学部看護学科	講師	渡邊 理恵	1	■		
		生涯発達看護概論	医学部看護学科	教授	益守 かづき	3	■		
		女性生涯看護概論	医学部看護学科	教授	田中 佳代	1	■		
		ウィメンズヘルス論	医学部看護学科	教授	田中 佳代	1		■	
		小児生活支援論	医学部看護学科	教授	益守 かづき	1		■	
		高齢者生活支援論	医学部看護学科	教授	古村 美津代	1		■	
		急性期看護論	医学部看護学科	教授	崎浜 智子	2		■	
		慢性期・回復期看護論	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	2		■	
		公衆衛生健康支援論	医学部看護学科	講師	徳澤 麻梨子	2		■	
	臨地実習	療養生活支援実習	医学部看護学科	教授	加悦 美恵	2		■	
	看護の 統合	研究	研究Ⅰ	医学部看護学科	准教授	加藤 陽子	1	■	
		看護の 発展	家族看護学	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	1		■
災害看護学			医学部看護学科	講師	孫田 千恵	1	■		
国際看護学			医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	1	○		

■は必修科目
○は選択科目

授業科目、科目責任者及び単位数 (第3学年)

区分		科目	科目責任者			単位	1学期	2学期
人間と健康	こころの構造と はたらき	臨床心理学	非常勤講師		高松 真理	1	■	
	健康と健康障害	保健医療統計学	医学部看護学科	准教授	椛 勇三郎	2	■	
		保健医療福祉行政論	医学部看護学科	准教授	椛 勇三郎	2	■	
看護の 実践	看護の 基本	健康教育方法論	医学部看護学科	講師	河原田 康貴	2	■	
		看護過程Ⅱ	医学部看護学科	講師	姫野 深雪	1	■	
	対象理解 と 看護活動	地域・在宅療養生活支援論	医学部看護学科	講師	渡邊 理恵	2	■	
		母子健康支援論	医学部看護学科	准教授	加藤 陽子	2	■	
		終末期・緩和ケア看護論	医学部看護学科	教授	崎浜 智子	1	■	
		高齢者療養生活支援論	医学部看護学科	講師	草場 知子	2	■	
		精神療養生活支援論	医学部看護学科	講師	福浦 善友	2	■	
		小児療養生活支援論	医学部看護学科	講師	藤好 貴子	2	■	
		公衆衛生看護活動論	医学部看護学科	准教授	佐藤 祐佳	3	■	
	臨地実習	地域・在宅療養生活支援実習	医学部看護学科	講師	渡邊 理恵	2		■
		クリティカルケア実習	医学部看護学科	教授	崎浜 智子	3		■
		慢性期・回復期支援実習	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	4		■
		精神療養生活支援実習	医学部看護学科	准教授	舞弓 京子	2		■
		母子健康支援実習	医学部看護学科	教授	田中 佳代	2		■
		小児療養生活支援実習	医学部看護学科	教授	益守 かづき	2		■
地域・高齢者生活支援実習		医学部看護学科	教授	古村 美津代	3		■	
看護の 統合	研究	研究Ⅱ	医学部看護学科	教授	益守 かづき	1	■	

■は必修科目

授業科目、科目責任者及び単位数 (第4学年)

区分		科目	科目責任者		単位	1 学期	2 学期
看護の 実践	看護の 基本	看護学概論Ⅱ	医学部看護学科	教授 加悦 美恵	1	■	
	対象理解 と 看護活動	地域看護技術演習	医学部看護学科	准教授 佐藤 祐佳	2	○	
	臨地実習	総合実習	医学部看護学科	准教授 舞弓 京子	2	■	
		地域生活支援実習	医学部看護学科	教授 重松 由佳子	5	○	○
看護の 統合	研究	研究Ⅲ	医学部看護学科	教授 田中 佳代	2	■	■
	看護の 発展	看護管理	医学部看護学科	教授 古村 美津代	1	■	
		看護総合演習	医学部看護学科	准教授 舞弓 京子	1		■
		がん看護学	医学部看護学科	教授 桐明 あゆみ	1	○	
		多職種連携教育	医学部看護学科	教授 古村 美津代	1	■	
		最先端の医療と看護	医学部看護学科	准教授 加藤 陽子	1	○	
		地域看護管理論	医学部看護学科	教授 重松 由佳子	2	○	

■は必修科目
○は選択科目

科目ナンバリングコードについて【2022年度以降入学生適用】

科目ナンバリングコードは科目に学問分野、学習段階、順序等を示す番号を付し、教育課程の体系性を示しています。本学科では次のとおり各科目をナンバリングしています。

型式	内容	看護学科
ABC アルファベット 3文字	学問分野の区分	NUS (Nursing Science) : 看護学
		PHN (Public Health Nursing) : 公衆衛生看護学
		ANT (Anthlopology) : 人類学・民俗学
		BMS (Basic Medical Science) : 基礎医学系
		CLM (Clinical Medicine) : 臨床医学系
		CLP (Clinical Psychology) : 臨床心理学
		ECN (Economics) : 経済学
		ENV (Environment Science) : 環境学
		FLE (Foreign Language Education) : 外国語教育
		HSS (Health Sports Sience) : 健康スポーツ科学
		IFS (Information Science) : 情報科学
		LAW (Law) : 法学
		LIN (Linguistics) : 言語学
		LIT (Literature) : 文学
		NAT (Natural Science) : 自然科学
		PDG (Pedagology) : 教育学
		PHL (Philisophy and Ethics) : 哲学・倫理学
		PSY (Psychology) : 心理学
		RES (Regional Stuides) : 地域学
		SBM (Social Behavioral Medicine) : 社会行動医学系
SOC (Sociology) : 社会学		
STS (Statistical Science) : 統計科学		
SWS (Social Welfare Studies) : 社会福祉学		
THE (Graduation Thesis) : 卒業研究		
1 数字1桁	学修レベル	1 (入門・導入・啓発・初級) 2 (基本・総論・中級) 3 (発展・応用・上級) 4 (学士課程最終)
2 数字1桁	授業形態	1 (講義) 6 (オンディマンド) 2 (演習) 7 (研究指導・論文) 3 (外国語) 8 (他大学単位互換) 4 (実習・実験・実技) 9 (海外研修・留学) 5 (フィールドワーク・学外) 0 (その他)
3 数字1桁	学問分野小分類	・看護学 (NUS) 1 (人間と健康：からだと生活) 5 (看護の実践：展開) 2 (看護の実践：看護の基本) 6 (看護の実践：臨地実習) 3 (看護の実践：看護技術) 7 (看護の統合：発展) 4 (看護の実践：方法) 8 (看護の統合：研究) ・看護学 (NUS) 以外の教養科目、医学系科目、公衆衛生看護学等は久留米大学学問分野小分類に準ずる。
4 数字1桁	科目番号	系統的な科目の順序性を示す (単独科目は全て1)。 なお、教養科目などは久留米大学科目番号に準ずる。
DE アルファベット 2文字	開設部門	全て MN (医学部看護学科)
F 英数字1文字	卒業要件類別	1 (1年必修科目) 5 (3年必修科目) 2 (1年選択科目) 6 (3年選択科目) 3 (2年必修科目) 7 (4年必修科目) 4 (2年選択科目) 8 (4年選択科目)

授業科目一覧(シラバス目次)

1年次科目

久留米大学の理念と歴史	61
音楽と癒し	62
文学	63
スポーツ科学 I	64
スポーツ科学 II	65
倫理学	66
比較文化論	67
教育学	68
心理学	69
国語表現法	70
英語 I	71
オーラルイングリッシュ I	72
ドイツ語	74
中国語	76
韓国語	77
社会学	78
生活と経済	79
くらしと法	80
環境科学	81
くらしとサイエンス	82
人間工学	83
情報学	84
統計・推計学	86
からだの構造と機能 I	87
からだの構造と機能 II	89
からだの代謝	91
こころの生涯発達	92
ボランティア活動	93
家族社会学	94
微生物と感染	95
病理学	96
看護学概論 I	97
生命・看護倫理	99
生活援助技術 I	100
生活援助技術 II	102
地域・在宅看護概論	104
公衆衛生看護学概論	106
生活支援実習	107

2年次科目

英語 II	108
オーラルイングリッシュ II	110
からだの構造と機能 III	112
社会福祉と社会保障	113
免疫	114
疫学	115
症候学	116
疾病治療論 I	118
疾病治療論 II	119
臨床薬理	120
臨床栄養	121
診療に伴う援助技術	122

フィジカルアセスメント技術	123
人間関係方法論	124
回復期援助技術	125
看護過程 I	127
地域・在宅生活支援論	128
生涯発達看護概論	129
女性生涯看護概論	131
ウイメンズヘルス論	132
小児生活支援論	133
高齢者生活支援論	135
急性期看護論	137
慢性期・回復期看護論	139
公衆衛生健康支援論	141
療養生活支援実習	142
研究 I	144
家族看護学	145
災害看護学	147
国際看護学	149

3年次科目

臨床心理学	150
保健医療統計学	151
保健医療福祉行政論	152
健康教育方法論	153
看護過程 II	155
地域・在宅療養生活支援論	157
母子健康支援論	159
終末期・緩和ケア看護論	161
高齢者療養生活支援論	163
精神療養生活支援論	165
小児療養生活支援論	167
公衆衛生看護活動論	169
地域・在宅療養生活支援実習	171
クリティカルケア実習	173
慢性期・回復期支援実習	175
精神療養生活支援実習	177
母子健康支援実習	178
小児療養生活支援実習	180
地域・高齢者生活支援実習	182
研究 II	184

4年次科目

看護学概論 II	185
地域看護技術演習	187
総合実習	189
地域生活支援実習	190
研究 III	192
看護管理	194
看護総合演習	196
がん看護学	197
多職種連携教育	199
最先端の医療と看護	201
地域看護管理論	202

科目名 ナンバリングコード	久留米大学の理念と歴史 RES1511MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義・実習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	久留米大学学長 内村 直尚 医学部看護学科 孫田 千恵、水落 裕美、松本 くらら				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 久留米大学の歴史を理解する。 2) 久留米大学医学部看護学科の歴史を理解する。 3) 久留米の歴史と生活、経済、文化のつながりを中心に、地域住民の健康について考察し、建学の精神との関連を探究する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 久留米大学の建学の精神を説明できる。 2) 久留米大学の歴史について説明できる。 3) 医学部看護学科の歴史について説明できる。 4) 久留米の歴史、久留米の産業や文化について説明できる。 5) 産業や文化より地域住民の健康について説明できる。 				
授業概要	授業と現地学習・体験学習を通して、久留米大学が目指す理念についての理解を深める。課題や現地学習・体験学習を通して、人の生活と密着している経済・文化と健康の関連性について考察する。さらに、産業が発展し、国内外で発展進化する方略についての理解を深め、生活を支援する専門職者としての役割を探究することに繋げる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回	久留米大学の理念と歴史、建学の精神 久留米大学の看護師養成の歴史 久留米と久留米絨とゴム産業について 久留米絨と文化	内村【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 *ゲストスピーカー	【復習】 各授業の配布資料、 学生生活案内を基に 復習。	復習で 20 分程度。	
第 5 回 第 6 回	現地学習：アサヒシューズ工場（久留米とゴム 産業の発展、ゴム惨状と企業再生、シューズと 健康等）	益守・孫田・水落・松本【実習】	【課題】 ①「久留米絨と健康」 ②「ゴム産業と健康」 について文献検索し、 まとめる。	課題① 2 時間、 課題② 2 時間程度。	
第 7 回 第 8 回	現地学習：久留米絨工房「藍生庵」（久留米と 地衣類、文化の継承と科学的探究、久留米絨人 間国宝 松枝玉記の藍への思い）	益守・孫田・水落・松本【実習】			
テキスト	必要時資料を配布する。 学生生活案内を持参すること。				
参考書	必要時提示する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(40%) 課題(30%) 現地実習・体験 学習後のレポー トと態度(30%)	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標 1) ~ 2) においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標 3) 4) 5) においては課題①②を提示し、明文化され、考察できていること。また、現地学習・体験学習への参加は必須とし、現地でのディスカッションや体験への主体的参加状況を評価ポイントとする。 				
課題(レポート等)に対するフィードバック	課題①②は採点后、「現地学習」前に返却する。現地学習・体験学習後のレポートは採点し、返却する。				

科目名 ナンバリングコード	音楽と癒し NUS1111MN2	選択科目	1年次 2学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	非常勤講師 田口 友美				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 音楽の活用に関する基礎的な知識を理解する。 2) 音や音楽の知覚・認知、音楽と人間の心の関係から医療福祉分野における活用方法を習得する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 音楽が心身に与える効能について理解する。 2) 各領域対象者（高齢者・障害児・精神疾患・医療現場等）の音楽の活用方法について理解する。 3) 将来就く仕事や自分の日常生活の中で、どのように音楽を活用するか考察できる。 				
授業概要	演習はグループで協働し進め、発表はセラピスト役、対象者役に分かれて実施する。授業の理解を確認するため、毎回ミニッツペーパーを課す。講義・演習は、能動的音楽療法と受動的音楽療法を、楽器やデジタル機器等を使用して実施する。演習はグループで協働し進め、発表はセラピスト役、対象者役に分かれて実施する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	イントロダクション 音楽と癒し	田口【講義】	テキスト・シラバスの確認	30分	
第2回	私と音楽	田口【演習】	影響を受けた音楽をリストアップしておく	30分	
第3回	高齢者・障害児への音楽の活用方法	田口【講義】	テキスト・シラバスの確認	30分	
第4回	精神疾患・医療現場への音楽の活用方法	田口【講義】	テキスト・シラバスの確認	30分	
第5回	音楽療法の研究	田口【講義】	テキスト・シラバスの確認	30分	
第6回	グループワーク：替え歌	田口【演習】	音楽をリストアップしておく	30分	
第7回	グループワーク：身近な物で楽器を作る	田口【演習】	想定する楽器の材料を身近な物で準備しておく	30分	
第8回	グループワーク：アプリで音楽作り	田口【演習】	シラバスの確認	30分	
第9回	グループワーク：身近な音 (soundscape)	田口【演習】	シラバスの確認	30分	
第10回	領域における音楽の活用（計画）	田口【演習】	計画作成	30分	
第11回	領域における音楽の活用（計画）	田口【演習】	計画作成	30分	
第12回	領域における音楽の活用（計画）	田口【演習】	計画作成	30分	
第13回	領域における音楽の活用（発表）	田口【演習】	各グループで練習の実施	30分	
第14回	領域における音楽の活用（発表）	田口【演習】	各グループで練習の実施	30分	
第15回	総括 看護と音楽	田口【演習】	最終レポート	60分	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初学者にも、ベテランにも役立つ音楽療法 効果・やり方・エビデンスを知る 第4版 : 高橋多喜子 (株) 金芳堂 2021年 ・ 必要な時資料を配布する 				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（20%） 演習（40%） レポート（30%） ミニッツペーパー（10%）	講義への出席状況、グループ演習、ミニッツペーパー、レポートで総合的に評価する。 授業態度は、積極的な態度、演習の取り組み状況から評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは講義の中で行う。 最終のレポートは返却しない。				

科目名 ナンバリングコード	文学 LIT1107MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	文学部 講師 藤本 晃嗣				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力を持ち、主体的に行動することができる能力の① 人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>日本近代文学の作品を通して日本の文化についての知識を習得するとともに、小説を読むための様々な技法を学ぶ中で言語文化に対する理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 近代以降の日本の文学・文化の特徴について説明できる。 2) 日本近代文学の代表的な作品について、その内容と特色について説明できる。 3) 小説作品を自ら解釈し、その解釈の根拠について説得力のある説明ができる。 				
授業概要	前半（第2～6回）は文学史を学ぶ。理解を深めるため、映像教材を使用する。 後半（第7～15回）は作品を読み分析方法を学ぶ。学んだ方法を用いて、自ら作品分析を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	概論 日本近代文学について	藤本【講義】	これまで身につけた近代文学についての知識を確認する。	30分	
第2回	日本近代文学史 序説	藤本【講義】	日本近代の特徴について調べる。	30分	
第3回	日本近代文学史（明治初期～中期）	藤本【講義】	代表作を調べる。	30分	
第4回	日本近代文学史（明治後期～大正期）	藤本【講義】	代表作を調べる。	30分	
第5回	日本近代文学史（昭和初期～戦後）	藤本【講義】	代表作を調べる。	30分	
第6回	日本近代文学史 まとめ	藤本【講義】	学んだ文学史の知識を確認する。	60分	
第7回	文学研究についての概説	藤本【講義】	これまで学んだ小説の読み方をふりかえる。	30分	
第8回	小説の読み方についての概説	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第9回	小説の構造を考察する	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第10回	小説の〈空白〉を考察する	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第11回	同時代の文化事象をもとに読む①	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第12回	同時代の文化事象をもとに読む②	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第13回	同時代の社会事象をもとに読む①	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第14回	同時代の社会事象をもとに読む②	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第15回	まとめ	藤本【講義】	授業を通して学んだことを確認する。	60分	
テキスト	毎時間資料を配付する。				
参考書	日本近代文学会（編集）『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房、2016年12月）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（50%） 受講態度（50%）	到達目標に達しているかどうか、達成度を評価する。 講義中に指示する課題などの取り組み状況に応じて評価する。小テストを行って知識の定着度を測ることもある。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	提出された課題を確認した後にコメントを付す。				

科目名 ナンバリングコード	スポーツ科学I HSS1116MN2	選択科目	1年次 集中講義	講義	1単位
科目責任者	人間健康学部 教授 右田 孝志				
科目担当者	人間健康学部 吉田 典子、奥野 真由				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代社会における健康問題を知る。 2) 運動に伴う身体の生理・生化学的応答、運動がこころや身体に及ぼす効果・影響を学ぶ。 3) 運動実践上の留意点を学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動に伴う心身の生理的応答と運動が心身に及ぼす効果を理解し、説明できるようになる。 2) 日常生活で運動を安全に実践できるようになる。 				
授業概要	3名の分担で、基本的には講義形式で展開し、適宜質問等を問いかけながら進める。また、各自の授業の振り返りを促すことを目的に、各回または担当回をまとめて小テストもしくはレポートを課す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	運動とからだ（1）運動と身体組成	右田【講義】	身体の構成要素をまとめること	60分	
第2回	運動とからだ（2）筋力・パワーと運動	右田【講義】	筋力とパワーの違いをまとめること	60分	
第3回	運動とからだ（3）有酸素運動	右田【講義】	運動に対する循環系の応答をまとめること	60分	
第4回	運動とこころ（1）—モチベーションの心理—	奥野【講義】	モチベーションのしくみ	60分	
第5回	運動とこころ（2）—健康スポーツ・競技スポーツと心理—	奥野【講義】	競技現場で行われている心理面のサポート	60分	
第6回	運動への医学的アプローチ（1）身体活動の効果	吉田【講義】	運動トレーニングの効果	60分	
第7回	運動への医学的アプローチ（2）身体活動と疾病予防	吉田【講義】	心臓リハビリテーション	60分	
第8回	運動への医学的アプローチ（3）運動療法	吉田【講義】	運動処方	60分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	健康づくりへのアプローチ 生活習慣改善マニュアル第4版 石川兵衛 著 文光堂 2010年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（30%） 試験（70%）	担当教員毎に試験実施またはレポートの課題を与え100点満点で評価し、担当講義数で重み付けをした平均を本授業の評価とする。また、私語をはじめとした授業にふさわしくない態度をとる学生、無断退出等の学生には受講を認めない場合がある。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは各回の講義中に行う。 最終のレポートは返却しない。				

科目名 ナンバリングコード	スポーツ科学 II HSS1416MN2	選択科目	1年次 Aクラス1学期 Bクラス2学期	実習	1単位
科目責任者	非常勤講師 光安 ひかり				
教員の実務経験	この科目は専門科目における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 健康維持のために必要なトレーニングやレクリエーションスポーツに親しむ。</p> <p>2) 生涯スポーツを実践することで得られる効果や心身の変化を体感し、その楽しさと重要性を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 生涯スポーツについて基礎的な技能を身に付け、説明することができる。(知識・理解・技能)</p> <p>2) 生涯スポーツを通じて場面に応じた発言や行動ができる。(態度・思考)</p> <p>3) 自己の身体の現状、課題を把握し、今後のライフスタイルで健康に過ごすための自己管理法を述べるすることができる。(関心・意欲)</p>				
授業概要	本授業では全面的な体づくり及び、レクリエーションスポーツなど実技を中心に行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	オリエンテーション	光安【実習】	シラバスを熟読しておく	15分	
第2回	基礎的な体力の向上① (音楽を使ったストレッチ)	光安【実習】	エクササイズの復習	30分	
第3回	基礎的な体力の向上② (基礎的なステップ)	光安【実習】	エクササイズの復習	30分	
第4回	基礎的な体力の向上③ (ボールの活用)	光安【実習】	エクササイズの復習	30分	
第5回	ダンス① (現代的なリズムのダンス)	光安【実習】	参考映像の予習	30分	
第6回	ダンス② (現代的なリズムのダンス)	光安【実習】	参考映像の予習	30分	
第7回	ダンス③ (現代的なリズムのダンス)	光安【実習】	参考映像の予習	30分	
第8回	ダンス④ (フォークダンス)	光安【実習】	参考映像の予習	30分	
第9回	ダンス⑤ (創作ダンス)	光安【実習】	参考映像の予習	30分	
第10回	映像鑑賞	光安【実習】	参考映像の予習	30分	
第11回	レクリエーションスポーツによる運動能力の向上	光安【実習】	予習・復習	30分	
第12回	(⑪～⑮)	光安【実習】	予習・復習	30分	
第13回		光安【実習】	予習・復習	30分	
第14回		光安【実習】	予習・復習	30分	
第15回	ライフスタイルに関するまとめ	光安【実習】	授業全体のまとめ	60分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	明日からトライ!ダンスの授業、全国ダンス表現運動授業研究会、大修館書店、2021年 体育科教育学入門、岡出美則、大修館書店、2021年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
受講態度 (80%) レポート (20%)	授業への積極的に取り組む姿勢、毎時のミニッツペーパーを総合的に評価する。 課題内容に対して、的確に具体的に述べていること。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	フィードバックは各回授業中に行う。最終のレポートは返却しない。				

科目名 ナンバリングコード	比較文化論 ANT1109MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 永吉 守				
教員の実務経験	この科目は専門科目における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の①異なる文化や多様な考えを尊重することの大切さを理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバルな視点を持ち、具体的に行動につなげる思考様式を促す。 2) 世界には様々な文化・社会が存在することを示し、その相違性と共通性の理解から多文化共生を促す。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文化と社会の概念が理解できる。 2) 人間の文化として、言語、生業、社会組織、家族と親族、信仰、性などが存在することを説明できる。 3) 文化や社会の単位として、民族集団やエスニシティなどが重要であることを説明できる。 4) 異文化理解の態度として、文化相対主義的な寛容性が重要であることを説明できる。 5) グローバリゼーションについて、文化的文脈として説明できる。 6) 異文化理解に基づく多文化共生について、現代の日本社会の状況から理解し、地球市民として行動できる。 				
授業概要	本講義は、グローバルな視野で物事をとらえ、医療に活かすために文化人類学を基礎とした具体的な文化の比較を通して、文化相対主義的視点を養うことをめざす。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	イントロダクション	永吉【講義】	シラバスの確認	10 分	
第 2 回	比較文化の手法（文化人類学的視点と方法）	永吉【講義】	手法を事前調査	20 分	
第 3 回	「社会」の概念・「文化」の概念	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 4 回	文化相対主義と自民族中心主義	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 5 回	ことば・衣食住・生業の比較文化	永吉【講義】	具体的事例を事前調査	20 分	
第 6 回	「社会」や「文化」の単位	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 7 回	家族・親族組織・結婚の比較文化（1）	永吉【講義】	具体例を予め想定	20 分	
第 8 回	家族・親族組織・結婚の比較文化（2）	永吉【講義】	具体例を予め想定	20 分	
第 9 回	信仰や宗教の比較文化－「死」の事例から－	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 10 回	グローバリゼーションと異文化理解（1）	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 11 回	グローバリゼーションと異文化理解（2）	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 12 回	多文化共生への道（1）－在日コリアン－	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 13 回	多文化共生への道（2）－エスヌンチュー－	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 14 回	多文化共生への道（3）－定住外国人－	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 15 回	医療・看護と比較文化、まとめ	永吉【講義】	15 回全体を事後まとめ	20 分	
テキスト	特に指定のものは用いないが、毎回講義資料を配布。				
参考書	綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2010 年。ほか適宜指示。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（95%） 受講態度（5%）	講義内容に基づき、到達目標の達成度をオリジナルな具体例と合わせて評価する。 講義への積極的姿勢と質問・感想等をポイント化する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	毎回、質問・感想をフォームに記述し、その応答を次回印刷配布。				

科目名 ナンバリングコード	教育学 PDG1101MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	文学部 講師 小田 茜				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の②自らの考えを論理的に表現し共に議論し考えを創造することを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 教育のイメージを広げる（特に、社会教育、民間教育、青年期教育）とともに、教育と社会の関係に注目することで、教育の現状を身近な社会問題とも結びつけながら理解する。</p> <p>2) 1) について教材に加え DVD 視聴や、個人ワーク、グループワークを通じて主体的・実践的に教育問題に対して向き合うことを目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 教育の諸問題に関する基本的知識を身に付け、自分で説明できるようになる。</p> <p>2) 自らの教育観・学習観を見直し、これら 2 つを客観的に捉え直すことができるようになる。</p>				
授業概要	<p>本授業は、教育・学習に対する見方・考え方の幅を広げるとともに、人びとのキャリア形成にいかに関与してきてきたのかについて、教育をめぐる諸テーマに着目しながら、検討できるようになることを目指します。教育といえば「学校で教師が児童生徒に知識を教える」イメージを持たれがちですが、実際は教育・学習は、学校だけではなく、博物館や図書館、趣味や労働の場など、様々な場に広がっており、また「子ども」に限らず若者・成人、高齢者など様々なライフステージに開かれています。教育・学習のイメージの幅を広げ、今日の教育・学習とキャリア形成の関係を理解できるようになることを目指します。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>オリエンテーション</p> <p>「教育」のイメージを広げる①</p> <p>「教育」のイメージを広げる②</p> <p>社会教育を知る①（公民館、図書館、博物館）</p> <p>社会教育を知る②（生涯学習概念より）</p> <p>部活動の意義と課題を考える①（生徒・保護者の観点）</p> <p>部活動の意義と課題を考える②（教員の観点）</p> <p>青年期の現在を考える①（大学進学理由を振り返る）</p> <p>青年期の現在を考える②（青年の「生きづらさ」と教育）</p> <p>子ども・青年の支援を考える①（不登校、貧困）</p> <p>子ども・青年の支援を考える②（ドキュメント視聴）</p> <p>ジェンダーと教育を考える①</p> <p>ジェンダーと教育を考える②</p> <p>青年のキャリア形成と教育の関係を考える</p> <p>まとめ</p>	<p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p> <p>小田【講義】</p>	<p>予習：関心の持った教育に関する新聞記事やニュースを整理する。</p> <p>復習：授業で示したポイントの整理をする。</p>	<p>各回、予習/復習で最低2時間程度の主体的な学びが必要となる。</p>	
テキスト	適宜配布します。				
参考書	適宜配布します。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
<p>受講態度及びミニレポート（30%）</p> <p>最終レポート（70%）</p>	<p>・到達目標②が達成できているかについて、グループワークへの参加度や、ミニツッペーパー等の記載等から評価します。また、到達目標①が達成できているかどうかについては、授業期間中に提出を求めるミニレポート内容から評価します。</p> <p>・学期末に課す最終レポートで、到達目標①②の理解度・定着度を総合的に評価します。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	その都度、自己評価と他者評価を行う。				

科目名 ナンバリングコード	心理学 PSY1100MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	文学部 助教 石田 有紀				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 看護師にとって不可欠な人間の行動やこころの動きに関する知識を身に付ける。</p> <p>2) 現代社会における身近なトピックのなかでも、とくに他者との関わりに焦点を当てて、エビデンスに基づいた心理学の研究成果を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 日常生活における人間のこころの動きについて説明できる。</p> <p>2) これまでの自分の生活を振り返る作業を通して、反省的実践について述べることができる。</p>				
授業概要	履修主題に関する予習をしたうえで講義とグループ学習、発表を取り入れながら授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>オリエンテーション、心理学とは</p> <p>健康の心理と人間理解 (1)</p> <p>健康の心理と人間理解 (2)</p> <p>健康の心理と人間理解 (3)</p> <p>健康の心理と人間理解 (4)</p> <p>カウンセリングと心理療法 (1)</p> <p>カウンセリングと心理療法 (2)</p> <p>カウンセリングと心理療法 (3)</p> <p>感覚・知覚の心理</p> <p>学習・記憶の心理</p> <p>感情・動機の心理</p> <p>性格・知能の心理</p> <p>発達の心理</p> <p>社会・集団の心理</p> <p>まとめ</p>	<p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p> <p>石田【講義】</p>	<p>各章についての文献検索</p> <p>Hondanaへの課題提出</p>	各 20 分	
テキスト	看護学生のための心理学 編集：長田久雄 医学書院 2016年				
参考書	講義の中で提示する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
課題（40%） レポート（40%） 受講態度（20%）	<p>グループワークや個人ワークの成果物をもとに到達目標の達成度を評価する。</p> <p>毎回提出するレポートをもとに到達目標の達成度を評価する。</p> <p>講義やワークへの積極的な参加姿勢を評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	講義の中で解説する。				

科目名 ナンバリングコード	国語表現法 LIN1123MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	文学部 教授 大庭 卓也				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の②自らの考えを論理的に表現し共に議論し考えを創造することを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 教育学の方法技術には、教える技術（教授学）と学ぶ技術（学習論）があるが、本講義では学ぶ技術に焦点づけ、能力向上を図る。</p> <p>到達目標 1) “明晰な”文章を書き、それを相手に“誤りなく”伝えるための作文技術を身につける。 2) 上記を習得することで、コミュニケーションを不可欠とするチーム医療や、患者に誠意をもって“誤りなく”伝えるインフォームド・コンセントなど、看護の仕事を遂行できるようになる。</p>				
授業概要	日本語表現のあり方について様々な視点から説明および議論をする。また、出来るだけ多く作文をする機会を設ける。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	国語表現の周辺	大庭【講義】			
第2回	自分の文章力を知る（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第3回	自分の文章力を知る（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第4回	日常の文章の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第5回	日常の文章の書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第6回	日常の文章の書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第7回	説明文の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第8回	説明文の書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第9回	説明文の書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第10回	レポート（実験レポート・看護体験レポートなど）の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第11回	レポートの書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第12回	レポートの書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第13回	レポートの書き方（4）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第14回	レポートの書き方（5）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第15回	まとめ	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
テキスト	必要時資料を配布する。				
参考書	木下是雄著 「理科系の作文技術」 中公新書				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（70%） 受講態度（30%）	・文章が熟慮して構成されているか ・文章に文法や字句の誤りが少ないか 積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	小レポートを課した場合は、一読のうえ返却する場合もある。				

科目名 ナンバリングコード	英語 I FLE1351MN1	必修科目	1 年次 A クラス 1 学期 B クラス 2 学期	演習	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 島村 恭輔				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標（社会の動向を踏まえた実践的英語能力を習得する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 英語演習を通して総合的な英語力を向上させる。 2) 英字新聞や英語放送等のメディア英語を学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 英字新聞を読んで基本的な内容を理解し説明できる。 2) 英語放送を視聴して基本的な内容の要点を説明できる。 3) 自分の考えや意見を基本的な英語で記述できる。 				
授業概要	毎回の授業で、ニュース記事の理解に必要な語彙の確認小テスト実施する。1つの英語ニュース記事を取り上げ、その内容を教科書や教員が準備した内容理解ワークシートの質問に沿って読解していく過程を経て、少しずつメディアで使用される英語の文体に慣れて理解できるようになる。さらに、国際情勢や異文化への理解も深められるようにする。そのためには、しっかり英語記事を読み込んで授業に臨む必要があり、各自の予習が非常に重要となる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	イントロダクション（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 2 回	Unit 1（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 3 回	Unit 2（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 4 回	Unit 3（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 5 回	Unit 4（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 6 回	Unit 5（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 7 回	Unit 6（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 8 回	Unit 7（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 9 回	Unit 8（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 10 回	Unit 9（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 11 回	Unit 10（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 12 回	Unit 11（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 13 回	Unit 12（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 14 回	Unit 13（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 15 回	まとめ（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの総復習	1時間	
テキスト	A クラス：15 Selected Units of English through the News Media 高橋、伊藤、Powell 著 朝日出版社（2024 年） B クラス：CNN10 Student News Vol.12 関戸、小暮、Arnold、Mattson 著 朝日出版社（2024 年）				
参考書	講義の中で提示する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
・筆記試験（30%） ・小テスト（25%） ・課題（25%） ・受講態度（20%）	<p>授業で学んだ内容の理解力を筆記試験の得点により評価する。</p> <p>授業で課す課題の提出やその内容、小テストの得点、また事前の十分な予習に基づいた受講であるかを総合的に評価する。</p> <p>授業に積極的な姿勢で臨んでいるかを評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	英作文や小テスト等を課す。英作文はクラス用シラバスに明記しているルーブリックに基づき評価をフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュI FLE1361MN1	必修科目	1年次 B1クラス1学期 A1クラス2学期	講義	1単位
科目責任者	文学部 教授 アーサー ミアマン				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) To develop greater confidence and fluency in English communication.</p> <p>2) To initiate and respond to questions and conversations in English.</p> <p>到達目標</p> <p>1) To practice speaking English in small groups in class.</p> <p>2) To expand learning by doing online activities on a computer or smartphone.</p> <p>3) To be able to use English in social and academic settings.</p>				
授業概要	<p>Students will work together in English using individual, pair and group work.</p> <p>The language of instruction will be English and the students will communicate with the instructor in English.</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	Introduction to the course	ミアマン【講義】	Register online	About 30 minutes to one hour for online activities and textbook review	
第2回	Introducing yourself and your school	ミアマン【講義】	Unit 1 Online work		
第3回	Talking about daily routines	ミアマン【講義】	Unit 2 Online work		
第4回	Describing objects	ミアマン【講義】	Unit 3 Online work		
第5回	Talking about people	ミアマン【講義】	Unit 4 Online work		
第6回	Describing locations	ミアマン【講義】	Unit 5 Online work		
第7回	Talking about money and prices	ミアマン【講義】	Unit 6 Online work		
第8回	Talking about the future, vacations	ミアマン【講義】	Review		
第9回	Speaking Assessment 1	ミアマン【講義】	Unit 7 Online work		
第10回	Talking about the past	ミアマン【講義】	Unit 8 Online work		
第11回	Telling stories	ミアマン【講義】	Unit 9 Online work		
第12回	Discussing large numbers, population	ミアマン【講義】	Unit 10 Online work		
第13回	Talking about jobs	ミアマン【講義】	Unit 11 Online work		
第14回	Asking about school, other information	ミアマン【講義】	Unit 12 Online work		
第15回	Speaking Assessment 2	ミアマン【講義】			
テキスト	COMMUNICATION SPOTLIGHT 3rd Edition 2019 ISBN 978-1-78547-036-3 Written by Alastair Graham-Marr, Published by ABAX ELT Publishing				
参考書	http://www.englishcentral.com				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
Two Speaking Tests (40%)	Speaking tests will take place in class in pairs, focusing on dialogues.				
Class Participation (30%)	Participation will be evaluated according to the student's attitudes to learning.				
Online practice work (30%)	Online practice work will be evaluated on a weekly basis.				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	Evaluation and feedback ongoing throughout the term.				

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュI FLE1361MN1	必修科目	1年次 B2クラス1学期 A2クラス2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 ラッツ デヴィッド				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) To develop greater confidence and fluency in English communication.</p> <p>2) To initiate and respond to questions and conversations in English.</p> <p>到達目標</p> <p>1) To practice speaking English in small groups in class.</p> <p>2) To expand learning by doing online activities on a computer or smartphone.</p> <p>3) To be able to use English in social and academic settings.</p>				
授業概要	<p>Students will work together in English using individual, pair and group work.</p> <p>The language of instruction will be English and the students will communicate with the instructor in English.</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>Introduction to the course</p> <p>Introducing yourself and your school</p> <p>Talking about daily routines</p> <p>Describing objects</p> <p>Talking about people</p> <p>Describing locations</p> <p>Talking about money and prices</p> <p>Talking about the future, vacations</p> <p>Speaking Assessment 1</p> <p>Talking about the past</p> <p>Telling stories</p> <p>Discussing large numbers, population</p> <p>Talking about jobs</p> <p>Asking about school, other information</p> <p>Speaking Assessment 2</p>	<p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p> <p>LATZ DAVID 【講義】</p>	<p>Register online</p> <p>Unit 1 Online work</p> <p>Unit 2 Online work</p> <p>Unit 3 Online work</p> <p>Unit 4 Online work</p> <p>Unit 5 Online work</p> <p>Unit 6 Online work</p> <p>Review</p> <p>Unit 7 Online work</p> <p>Unit 8 Online work</p> <p>Unit 9 Online work</p> <p>Unit 10 Online work</p> <p>Unit 11 Online work</p> <p>Unit 12 Online work</p>	<p>About 30 minutes to one hour for online activities and textbook review</p>	
テキスト	<p>COMMUNICATION SPOTLIGHT 3rd Edition 2019 ISBN 978-1-78547-036-3</p> <p>Written by Alastair Graham-Marr, Published by ABAX ELT Publishing</p>				
参考書	<p>http://www.englishcentral.com</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
Two Speaking Tests (40%) Class Participation (30%) Online practice work (30%)	<p>Speaking tests will take place in class in pairs, focusing on dialogues.</p> <p>Participation will be evaluated according to the student's attitudes to learning.</p> <p>Online practice work will be evaluated on a weekly basis.</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	<p>Evaluation and feedback ongoing throughout the term.</p>				

科目名 ナンバリングコード	ドイツ語 FLE1311MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	文学部 准教授 大場 はるか				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 基礎的なドイツ語の文法や表現を習得しつつ、ドイツ語圏の社会や文化、歴史に関する理解を深めます。この学びを通し、文化的背景が異なる人たちに寄り添う力を身につけます。</p> <p>到達目標 ・副文を伴わない簡単なドイツ語の文の構造を理解し、日本語で簡潔に説明することができる。 ・ドイツ語圏の社会や文化、歴史について、例をあげて日本語で簡潔に説明することができる。</p>				
授業概要	この授業は、①ドイツ語文法の学習、②ドイツ語コミュニケーションの練習、③ドイツ語圏の社会や文化、歴史に関する調べ学習という3つの内容で構成されている。①は教科書をベースに実施し、②の練習のところでは教員が追加で資料を配布する。③はスマホなどを活用し、教員が与えたテーマについて調べていく。①～③のいずれにおいてもグループワークを実施し、主体的な「学びあい」の姿勢を大事にしていく。授業では、一つの課ごとに①～③を実施し、③の終了後に小テストを実施する。授業評価は、合計4回の小テストと調べ学習の内容をふまえて実施していく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	導入, Lektion 1: ドイツ語の発音	大場【講義】	事前に教科書を見ておく	30分	
第2回	Lektion 2: 人称代名詞と動詞「sein」の変化 (自己紹介をする) + ドイツの食文化	大場【講義】	人称代名詞と動詞「sein」の復習	1時間	
第3回	Lektion 2: 人称代名詞と動詞「haben」の変化 (自己紹介をする) + ドイツの芸術	大場【講義】	人称代名詞と動詞「haben」の復習	1時間	
第4回	Lektion 2: 動詞の人称変化 (自己紹介をする) + ドイツの社会問題	大場【講義】	動詞の人称変化の復習	1時間	
第5回	小テスト (1回目) Lektion 3: 名詞の性 (第三者を紹介する)	大場【講義】	名詞の性の復習	1時間	
第6回	Lektion 3: 定冠詞 (第三者を紹介する) + オーストリアの食文化	大場【講義】	返却された小テストと定冠詞の復習	1時間	
第7回	Lektion 3: 不定冠詞 (第三者を紹介する) + オーストリアの芸術	大場【講義】	不定冠詞の復習	1時間	
第8回	小テスト (2回目) Lektion 4: 定冠詞類 (身の回りのものの説明)	大場【講義】	定冠詞類の復習	1時間	
第9回	Lektion 4: 所有冠詞 (身の回りのものの説明) + オーストリアの社会問題	大場【講義】	返却された小テストと所有冠詞の復習	1時間	
第10回	Lektion 4: 否定冠詞 (身の回りのものの説明) + スイスの食文化	大場【講義】	否定冠詞の復習	1時間	
第11回	小テスト (3回目) Lektion 5: 人称代名詞の格変化 (状況・状態の説明) + スイスの芸術	大場【講義】	人称代名詞の格変化の復習	1時間	
第12回	Lektion 5: 3格と4格をとる動詞 (状況・状態の説明) + スイスの社会問題	大場【講義】	返却された小テストと3・4格をとる動詞の復習	1時間	
第13回	Lektion 5: 非人称の es (状況・状態の説明)	大場【講義】	非人称の es の復習	1時間	
第14回	小テスト + ドイツの歴史	大場【講義】	ドイツの歴史の復習	1時間	
第15回	全体のふり返り	大場【講義】	返却された小テストの復習	1時間	

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・KoheiOGIWARA/ Yasutaka YAMASAKI 『PROMENADE Deutsch』 3. Auflage (白水社、2024年) ・『アクセス独和辞典』(三修社) <p>*辞書は他の出版社のものでも、スマートフォン上で購入できるデジタル辞書でもかまいません。 *テキストは文法中心ですので、ドイツ語コミュニケーションの練習や、ドイツ語圏の社会・文化・歴史の調べ学習の際には、教員が参考書や他の本を一部複写し、追加で配布するかオンラインで共有します。</p>	
参考書	Andreas Riessland ほか『問題発見のドイツ語 / Modelle 1/ neu』(三修社、2007年)	
成績評価		
方法 (割合)	基準	
筆記試験 (50%) レポート (50%)	<p>筆記試験は授業中の小テスト (4回) によって読み替えます。1回の小テストは25点満点です。レポートは調べ学習 (10回) で読み替えます。1つの調べ学習は10点満点です。これらの合計点を、左記のパーセンテージに従って100点満点に換算し、評価を出します。</p> <p>小テストでは、ドイツ語の文法に関する知識や理解度を評価します。調べ学習では、グループ内で作業を自主的に分担し、相互に協力しあって調べられているかを重視して評価します。つまり、調べ学習の評価には授業態度の評価が含まれます。</p>	
課題 (レポート等) に対するフィードバック	小テストや調べ学習は、翌週の授業で返却します。	

科目名 ナンバリングコード	中国語 FLE1331MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 李 偉				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中国語学習を通して、中日言語の異同に気づき、言語と文化及び言語と人間の考え方の関連性を考える。 2) 協同学習法を導入し、学生間の学び合い、助け合う協同精神を培う。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中国語の発音、医療実用の簡単な会話を学ぶ。 2) DVD映像資料の鑑賞を通じて中国、中国文化を理解する。 3) 社会スキルとしての基本的な協同能力を実践できる。 				
授業概要	授業中、4人グループを編成してグループ中でのペアワークとグループワーク活動を頻繁に行う。また1課ごとにペアの会話発表、学期末の発表会を実施する。更に授業の理解を深めるため、講義終了時に教科書の練習問題のほかe-Learning システム (Hondana) の小テストを受けてもらう。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	グループ分け、中国語概説、第1課 自己紹介	李偉【講義】	中国語概説の予習	20分	
第2回	第1課 自己紹介 DVD首都北京	李偉【講義】	発音、自己紹介の復習	30分	
第3回	第2課 どうなさいましたか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30分	
第4回	第2課 どうなさいましたか DVD中国の料理	李偉【講義】	症状の言い方の復習	30分	
第5回	第3課 この薬はどう飲みますか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30分	
第6回	第3課 この薬はどう飲みますか DVD中国上海	李偉【講義】	薬の飲み方の復習	30分	
第7回	第4課 病室はどこですか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30分	
第8回	第4課 病室はどこですか DVD中国のお茶	李偉【講義】	存在表現の復習	30分	
第9回	第5課 具合はいかがですか	李偉【講義】	単語、文法の予習	30分	
第10回	第5課 具合はいかがですか DVD中国人の健康法	李偉【講義】	会話の復習	30分	
第11回	第6課 心配いりません	李偉【講義】	単語、文法の予習	30分	
第12回	第6課 心配いりません DVD中国の新年	李偉【講義】	会話の復習	30分	
第13回	第7課 退院おめでとう	李偉【講義】	単語、文法の予習	30分	
第14回	第7課 退院おめでとう DVD古都西安	李偉【講義】	会話の復習	30分	
第15回	課題発表会、まとめ、復習	李偉【講義】	発表予習、全体復習	60分	
テキスト	『協同学習で学ぶ 医療系中国語会話』 李偉・管虹 著 白帝社 2018年				
参考書	なし				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
期末試験 (40%)	定期試験問題の点数を40%で評価する。				
小テスト (30%)	Hondana システムの小テスト自動採点、30%で評価する。				
課題・発表 (30%)	第15回授業発表会：課題文10%、口頭発表20%合わせて30%で評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートはメールで提出し、採点後にメールで返却する。				

科目名 ナンバリングコード	韓国語 FLE1341MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 李 熙卿				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の①異なる文化や多様な考えを尊重することの大切さ、②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 韓国語の文字である「ハングル」を習得し、簡単な挨拶表現、自己紹介、買い物などの日常生活に関する初級レベルのコミュニケーション能力を培うことを目標としている。</p> <p>2) 韓国の日常文化などを学びながら、異文化に対する理解を通じて、多様性を持つ人材の育成を目指している。</p> <p>到達目標</p> <p>1) ハングル文字を習得する。</p> <p>2) 簡単な自己紹介ができる。</p> <p>3) 日常生活で使われる身近な挨拶表現ができる。</p> <p>4) 韓国の日常生活文化への理解をして、説明できる。</p>				
授業概要	履修主題に関する予習・復習をした上で講義とグループ学習及び発表などを取り入れながら授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	講義案内、第 1 課、母音字 1 第 2 課 子音字 1 第 3 課、子音字 2 字母の復習 1 第 4 課 パッチム 第 5 課 母音字 2 第 6 課 母音字 3 字母の復習 2 第 7 課 自己紹介 第 7 課 自己紹介 第 8 課 ショッピング 第 8 課 ショッピング 第 9 課 学校 第 9 課 学校 まとめ	李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】 李【講義】	事前にシラバスの確認 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習	各1時間程度	
テキスト	李熙卿・白仁子 著、『マルブンソンで学ぶ韓国語初級』、白帝社、2016 年				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 熊谷明泰 編集、『パスポート朝鮮語小辞典 (朝和 + 和朝)』、白水社、2005 年 小学館 / 韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館、1993 年 				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (50%) 小テスト (40%) 授業態度 (10%)	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験を実施し、到達目標の達成度を正答率で評価する。 小テストは、5 回以上を予定しており、各課における到達目標を正答率で評価する。 授業へ積極的に取り組む姿勢 (質問、回答など) をポイント化し、評価する。 				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	小テストは採点后、返却する。				

科目名 ナンバリングコード	社会学 SOC1100MN2	選択科目	1年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	文学部 特任教授 中西 吉則				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の③社会現象について解決に向け探求する主体的な態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 急激に変動する世界の中での、個人、社会、医療の現状を分析し、現状分析から、個人、社会、医療の問題点と解決のための探求を行い、社会に貢献できる人材を育成できる。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 広い視点から、人間、人間関係、社会を把握し、社会的活動に積極的に参加できるようにする。</p> <p>2) 社会データから社会を読み解き、他者と積極的に討議できるようにする。</p> <p>3) 社会問題について、自ら考え、自分なりの解を出す。</p>				
授業概要	講義中に配布資料の穴埋めを行う等の形式で学習を進めていく。又、DVD を用いて社会的現実に向き合う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	社会学への招待：方法と領域	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第2回	コロナ禍と社会：社会と医療への影響	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第3回	E. Durkheim：社会と自死率	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第4回	M. Weber：社会的行為とその類型	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第5回	生死学：「病」と「死」を巡る問題	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第6回	「患者」と「医療者」の関係	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第7回	逸脱：なぜ人は「社会」からはみだすのか？	中西【講義】	配付資料の塾族	1時間	
第8回	「囚人のディレンマ」：秩序と環境問題	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第9回	階層：「富者」と「貧者」の二極化	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第10回	E. Goffman：社会はドラマ・演劇である！	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第11回	「インフォーマル集団」：仲間とは！	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第12回	家族とは？：「結婚」、「誕生」、…「老い」	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第13回	「メディア・ケイタイ」が作り出す世界！	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第14回	グローバル化された世界：我々の運命は！	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第15回	ジェンダーが世界を変える！？まとめ	中西【講義・演習】	既配付資料のまとめ	2時間	
テキスト	随時、資料配付				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
最終レポート（60%）	到達目標の達成度をレポートの内容で評価する。				
中間レポート（20%）	課題に対する深い考察をレポートの内容で評価する。				
受講態度（20%）	積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	中間レポート結果は、講義の中で言及する。				

科目名 ナンバリングコード	生活と経済 ECN1100MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 矢野 生子 (長崎県立大学)				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の③社会現象について解決に向け探求する主体的な態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外の経済の諸問題のあり方とわれわれの日常生活とは密接に関係していることを理解する。 2) 現在起こっている様々な経済問題、環境問題などについて自ら考察し、理解する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 報道されている経済問題について興味を持ち、何が起こっているのかについて述べることができる。 2) 国内外の経済問題と日常生活は密接に関係していることを理解し、理論的な見解を述べることができる。 3) 最低限知っておくべき経済的な常識や制度を理解し、今後の生活に役立てることができる。 				
授業概要	授業は教科書・資料・パワーポイント・動画などを使用することで、現実の様々な社会問題について興味を持たせるようにしている。時事問題についても積極的に取り入れ、日常生活において必要となる知識や社会システムについて理解し、日常生活はもとより、今後の生活に役立たせている。 講義終了時に、講義内容に関する質問やコメントを受け付け、必要に応じて次回の講義において解説をおこなっている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	経済学とは何か	矢野【講義】	新聞を読む (毎回読む)	20 分	
第 2 回	生活に必要な経済的基礎知識について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 3 回	市場原理の有効性と限界	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 4 回	年金問題 I	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 5 回	年金問題 II	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 6 回	日本の経済政策について I	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 7 回	日本の経済政策について II	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 8 回	ふるさと納税について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 9 回	国際経済と日本経済の諸問題について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 10 回	SDGs について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 11 回	自由貿易と環境問題について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 12 回	援助問題	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 13 回	援助問題 II	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 14 回	貧困の悪循環について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 15 回	これまでの総まとめ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	30 分	
テキスト	大矢野栄次著、「経済政策の考え方」, 創成社, 2019 年 (必要に応じて資料を配布する。)				
参考書	特になし (新聞に毎日 1 回、目を通すようにしてください。)				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (70%) 出席態度 (30%)	授業内容を理解し、その問題に対する自分の見解をきちんと述べていること。その理解度と考察力を評価する。 授業に対する姿勢と出席カードの裏面に書くコメント (意見・質問) などをポイント化し、評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	特になし (レポートは原則、課しません。)				

科目名 ナンバリングコード	くらしと法 LAW1101MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	法学部 准教授 藪田 史				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の②規範を守り、人々の権利を尊重した行動ができることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 教養としての法学の基礎を学び、社会生活上のルールの中核となる考え方を身につける。</p> <p>2) 社会生活の中で、法がどのような役割を果たしているかについて理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 国家の統治ルールを定めた日本国憲法の基本的な考え方を理解し、それを説明することができる。(憲法)</p> <p>2) 市民生活を営む上で、人と人との関係を規律しているルールについて理解し、それを説明することができる。(民法)</p>				
授業概要	法制度の目的や趣旨を理解した上で、具体的にどのような制度になっているかを学ぶ。 以上のような基本的な知識に基づいて裁判例を読み、社会の中での法の役割について考察する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	憲法 (1) 統治機構論①	藪田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40～50 分	
第 2 回	憲法 (2) 統治機構論②	藪田【講義】	同上	同上	
第 3 回	憲法 (3) 裁判例の検討	藪田【講義】	憲法 (1)(2) の総復習	60 分以上	
第 4 回	憲法 (4) 基本的人権①	藪田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40～50 分	
第 5 回	憲法 (5) 基本的人権②	藪田【講義】	同上	同上	
第 6 回	憲法 (6) 基本的人権③	藪田【講義】	同上	同上	
第 7 回	憲法 (7) 裁判例の検討	藪田【講義】	憲法 (4)～(6) の総復習	60 分以上	
第 8 回	民法 (1) 契約法の基礎	藪田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40～50 分	
第 9 回	民法 (2) 不法行為法の基礎	藪田【講義】	同上	同上	
第 10 回	民法 (3) 「意思能力」と「行為能力」	藪田【講義】	同上	同上	
第 11 回	民法 (4) 債権債務関係	藪田【講義】	同上	同上	
第 12 回	民法 (5) 親子関係、婚姻関係	藪田【講義】	同上	同上	
第 13 回	民法 (6) 実際の裁判例の検討	藪田【講義】	民法 (1)～(5) の総復習	60 分以上	
第 14 回	受講生の興味関心に応じた裁判例の検討	藪田【講義】	配布資料を予め読む	40～50 分	
第 15 回	まとめ	藪田【講義】	学修内容全体を復習	60～90 分	
テキスト	松井茂記ほか著『はじめての法律学 [第 6 版]』(有斐閣アルマ・2020 年)				
参考書	小型六法があるとより学修がしやすいと思います (いずれの出版社のものでも結構です)。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
小テスト (70%) レポート (30%)	講義後に行い、憲法と民法の基本的な知識を問います。講義内容を理解できたかを確認します。 ミニレポートを課す予定です。評価基準は、「基本的な前提知識を踏まえた上で、自分自身の考え方を論理的に記述できているか」です。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	講義中に前回の小テストやレポート課題についての解説を行います。				

科目名 ナンバリングコード	環境科学 ENV1111MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の③社会現象について解決に向け探求する主体的な態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) SDGs と地球規模で検討していくべき課題について、自主的に調査・学習し、考える。</p> <p>2) ディスカッションで他者の意見を聞いた上で自分の考えをまとめ、わかりやすく伝える。</p> <p>到達目標</p> <p>1) SDGs で掲げられている 17 の目標と、それらに関する世界の現状について述べることができる。</p> <p>2) 今後の取り組むべき課題について、自らの考えをプレゼンテーションすることができる。</p>				
授業概要	<p>1) 複数のグループに分かれて自主的に調査・学習し、ディスカッションを行う。</p> <p>2) ディスカッションを行った結果についてスライドを作成し、プレゼンテーションする。 (※第 6、7 回および第 13、14 回の講義は 2 コマ連続で発表会とする)</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>オリエンテーション</p> <p>SDGs : 自然科学的課題について</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>発表会</p> <p>〃</p> <p>フィードバック、オリエンテーション</p> <p>SDGs : 人文科学的課題について</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>発表会</p> <p>〃</p> <p>フィードバック</p>	<p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p>	<p>(予習)</p> <p>新聞やインターネットの記事等を参考に、SDGs に関連した国内外のニュースや自治体等の取り組みについて調べておく。</p> <p>(復習)</p> <p>調査やディスカッション、発表会の内容について良かった点や改善点を振り返る。</p>	<p>予習・復習 それぞれ 30 分程度</p>	
テキスト	無し。必要に応じてプリントを配布。				
参考書	新版・地図とデータで見る SDGs の世界のハンドブック (イヴェット・ヴェレ、ポール・アルヌー、蔵持不三也訳、原書房、2022 年)				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (50%) 発表会 (40%) 受講態度 (10%)	<p>到達目標の達成度を正答率で評価する。</p> <p>発表の内容、プレゼンテーション力、質疑応答、フィードバック等について評価する。</p> <p>調査、ディスカッション、発表等に取り組む姿勢について評価する。</p>				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	くらしとサイエンス NAT1111MN1	必修科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部自然科学教室（化学） 教授 東元 祐一郎				
科目担当者	医学部自然科学教室（物理学） 長澤 真樹子、大久保 博 医学部自然科学教室（生物学） 大沼 雅明				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>【物理】 看護の場面で出会う物理現象や医療の中で用いられる機器の物理的な基礎原理を理解する。</p> <p>【化学】 健康と医療に関係する様々な化学物質、薬品、医用材料の性質について理解する。</p> <p>【生物】 「生命」とは何か、すなわち「生きている」とはどのようなことであるか。生命体に共通する特徴について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>各講義の中で示された重要事項について述べるができる。</p>				
授業概要	生命を分子レベルで捉え、自然科学（物理・化学・生物）の法則に基づいて生命が営まれていることを理解し、各々の生命現象について学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>【化学 1】 水溶液の性質</p> <p>【化学 2】 基礎有機化学</p> <p>【化学 3】 糖質の化学</p> <p>【化学 4】 脂質の化学</p> <p>【化学 5】 タンパク質の化学</p> <p>【物理 1】 物理量と単位</p> <p>【物理 2】 力のつり合い、てこの原理</p> <p>【物理 3】 圧力</p> <p>【物理 4】 放射線</p> <p>【物理 5】 演示実験</p> <p>【生物 1】 生命体のつくりとはたらき</p> <p>【生物 2】 細胞の増殖とからだのなりたち</p> <p>【生物 3】 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ</p> <p>【生物 4】 生体維持のエネルギー</p> <p>【生物 5】 生殖と発生</p>	<p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤・大久保【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p>	講義スライド、資料などを見直し復習を十分にしておくこと	各 30 分程度	
テキスト	随時プリントを配布				
参考書	<p>【物理】 豊岡了編：系統看護学講座 第 7 版 基礎分野 1 物理学、医学書院、2015 年</p> <p>【化学】 奈良雅之編：系統看護学講座 第 7 版 基礎分野 化学、医学書院、2018 年</p> <p>【生物】 高橋雅一編：系統看護学講座 第 10 版 基礎分野 生物学、医学書院 2019 年</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
定期試験（80%） 受講態度（20%）	各分野（物理、化学、生物）別に試験を実施する。全分野とも 60 点以上を合格とし、60 点未満の分野については再試験を実施する。 提出物の努力度を評価する（物理）。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	人間工学 NUS1112MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	非常勤講師 松尾 重明 (久留米工業大学)				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>ヒトが行動する際には、機械が動くことと同じく重力やモーメントなど力学的要素が働いている。看護動作においてもこれを無視することはできない。</p> <p>1) 力学的な考察をできるようにする。</p> <p>2) 看護作業の効率化及び負荷低減の技術を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 看護現場において、看護側および看護される側の負担軽減をする方法について説明することができる。</p> <p>2) 基本動作における動作や看護援助動作を解析および考察を行えるようにする。</p> <p>3) 看護作業の効率化および負荷低減の知識を身につける。</p>				
授業概要	基本的には穴うめ資料を用意して進行し、時には学生同士で話し合う機会ももたせている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	概要説明	松尾 【講義】	シラバスの確認・概要説明	15 分	
第 2 回	人間工学とは	松尾 【講義】	人間工学の取り扱い内容の説明	1 時間	
第 3 回	ヒューマンエラーと事故	松尾 【講義】	ヒューマンエラーの実際とその対策	1 時間	
第 4 回	単位について	松尾 【講義】	現場に必要な単位の理解	1 時間	
第 5 回	看護動作における力学 (1)	松尾 【講義】	看護現場で起こる事故を力学的に解析	1 時間	
第 6 回	看護動作における力学 (2)	松尾 【講義】	看護現場でケガをしないための力学的解析	1 時間	
第 7 回	看護業務と生体への負荷 I	松尾 【講義】	看護現場で受ける生体への負荷	1 時間	
第 8 回	看護業務と生体への負荷 II	松尾 【講義】	看護現場におけるボディメカニクス	1 時間	
第 9 回	現代の研究紹介 (1)	松尾 【講義】	電気刺激を用いた筋力トレーニング	1 時間	
第 10 回	現代の研究紹介 (2)	松尾 【講義】	電気刺激の効果	1 時間	
第 11 回	現代の研究紹介 (3)	松尾 【講義】	電気刺激と装具を用いた機器	1 時間	
第 12 回	これからの看護 (1)	松尾 【講義】	看護現場のインテリジェンス化	1 時間	
第 13 回	これからの看護 (2)	松尾 【講義】	看護現場のロボット化	1 時間	
第 14 回	将来の看護現場	松尾 【講義】	将来の看護現場に必要な知識	1 時間	
第 15 回	国家資格過去問題紹介	松尾 【講義】	国家資格過去問題紹介	1 時間	
テキスト	自作プリント 毎回配布する。				
参考書	なし				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
受講態度 (10%)	授業へ積極的に参加する姿勢から評価する。				
レポート (10%)	課題において、的確に調査および考察していること。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポート課題の場合、採点后返却する。				

科目名 ナンバリングコード	情報学 IFS1111MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学教育研究センター 准教授 柏木 孝仁				
科目担当者	医学教育研究センター 片山 礼司 バイオ統計センター 古川 恭治、大山 哲司				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 看護学を学ぶ上で必須となる情報を活用し、社会の変化に応じたデータや AI を実践的に活用する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 数理・データサイエンス・AI を活用するために必須の情報活用を実践できる。 2) 数理・データサイエンス・AI に関わる倫理的課題に対応し関連法規を説明できる。 3) データや AI の医療や社会での活用を説明しさらに新しい価値を創造できる。 4) 医療データや患者情報を守るためのセキュリティ対策とリスクを説明できる。 5) データ処理のアルゴリズムを説明しロジックに基づくプログラミング的思考を実践できる。 				
授業概要	授業はコンピュータとデジタルデータを用いた実習・実践形式を主体とし、授業内容や到達目的に応じて、協同学習、反転学習、グループワークなどの学修者を主体とするアクティブラーニングを適宜取り入れながら行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	情報学ガイダンス (対面・座学) 1) 情報学 (情報科学・人工知能) を学ぶ意義。 2) 社会や医療におけるデジタルデータの活用の変化と実際の活用例。 3) 社会や医療におけるデジタルインフラ (通信技術、暗号化技術、GPS) の変化。 4) デジタル社会 (データ駆動型社会) に潜む課題とリスク。	柏木【講義】	復習を中心にして、適宜準備学習を充分に行うこと。必要な準備学習や復習については、Hondana に掲載する。	予習 20 分、復習は課題に応じて適時必要な時間が変わる。	
第 2 回	第 2 回: デジタルデータとの関り (反転学習) 1) デジタルデータに関わる関連法規 (個人情報、守秘義務、GDPR) 2) デジタルデータに関わる倫理的課題 (電子カルテ、個人情報、AI、SNS、盗用、改ざん) 3) デジタルデータに関わるセキュリティ (機密性、匿名、暗号化、漏洩)	柏木【講義・演習】			
第 3 回	第 3 回: データリテラシー (対面・座学) 1) データを読む (データの種類、特徴、性質) 2) データを説明する (グラフ化の種類、比較、可視化) 3) データを扱う (データ構造とデータベースの基本)	柏木【講義】			
第 4 回	第 4 回: データの利用とソフトウェアの活用 (1) (実習・演習) 1) テキストデータとその扱い 2) WORD の利用	柏木【実習・演習】			
第 5 回	第 5 回: データの利用とソフトウェアの活用 (4) (実習・演習) 1) データの集計法 (基礎) 1 2) Excel の利用 1	柏木【実習・演習】			
第 6 回	第 6 回: データの利用とソフトウェアの活用 (5) (実習・演習) 1) データの集計法 (基礎) 2 2) Excel の利用 2	柏木【実習・演習】			
第 7 回	第 7 回: データの利用とソフトウェアの活用 (2) (実習・演習) 1) 画像データ (JPG、BMP など) とその扱い 2) Photoshop の利用 1、PowerPoint の利用 1	柏木【実習・演習】			
第 8 回	第 8 回: データの利用とソフトウェアの活用 (3) (実習・演習) 1) 画像データ (ベクトルデータ) とその扱い 2) PowerPoint の利用 2 3) データを用いたプレゼン	柏木【実習・演習】			

第 9 回	第 9 回：データの表現（グループ学習） 1) ソフトウェアの活用（WORD、Excel、PowerPoint など） 2) プレゼンを通じたデータ集計とデータ表現（データの可視化）	柏木【講義・演習】		
第 10 回	第 10 回：プログラミング基礎（1）（協同学習） 1) プログラミング的思考 2) PHP プログラミング（基礎）1	柏木【実習・演習】		
第 11 回	第 11 回：プログラミング基礎（2）（協同学習） 1) アルゴリズムとクラス 2) PHP プログラミング（基礎）2	柏木【実習・演習】		
第 12 回	第 12 回：医療と仮想現実（VR） 1) 仮想現実（VR）、拡張現実（AR）、複合現実（MR）などの仮想化技術 2) 医療や教育に活用される仮想現実	片山【実習・演習】		
第 13 回	第 13 回：医療と AI（1） 1) AI 技術（概要）（特化型 AI、汎用型 AI、生成型 AI） 2) 社会で実際に活用されている AI 技術（認証、言語処理、自動運転など） 3) 医療で実際に活用されている AI 技術（画像診断、医療面接など）	古川・大山 【実習・演習】	復習を中心にして、適宜準備学習を充分に行うこと。必要な準備学習や復習については、Hondana に掲載する。	予習 20 分、復習は課題に応じて適時必要な時間が変わる。
第 14 回	第 14 回：医療と AI（2） 1) AI 技術（発展）（ビックデータ、機械学習、強化学習、深層生成モデル） 2) AI と自然言語処理（NLP） 3) AI 活用における課題やリスク（負の事例、人間中心の判断、責任論、ESLI）	古川・大山 【実習・演習】		
第 15 回	第 15 回：AI の活用（グループ学習） 1) AI との対話（ChatGPT） 2) AI と社会との関り（実際の対話からのディスカッション） 3) AI と医療との関り（実際の対話からのディスカッション）	柏木【講義・演習】		
テキスト	必要な資料は適時提示する。必要に応じて Hondana にも提示する。			
参考書	特になし。			
成績評価				
方法（割合）	基準			
課題（100%）	演習と課題（ソフトウェアの機能操作を含む）に対する到達度を点数化し、評価する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題の内容によって異なるため、課題提示の際に説明し Hondana を通じて適時フィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	統計・推計学 STS1112MN1	必修科目	1年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	病院経営室 准教授 宮本 貴宣				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 科学的根拠に基づく看護学を実践する上で不可欠な統計・推計学の基礎知識を学習する。 2) コンピュータを使った統計解析能力、大規模データのハンドリング能力を身に着ける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 科学的視点でデータを分析することができる。 2) コンピュータを使って統計解析ができる。 3) 大規模データ（数万件レベル～）を集計・加工できる。 				
授業概要	講義においては座学を基本とする。演習ではPCを用いて課題に取り組む。授業の理解を確認するためにミニテストを実施する。講義、演習ともに講義資料を配布する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	母集団とサンプル、確率分布、データの表現	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第2回	仮説検定の考え方	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第3回	母平均の検定と推定	宮本【講義】	演習の予習・復習	1時間	
第4回	2つの母平均の差の検定	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第5回	分散分析、ミニテスト1	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第6回	母比率の検定と推定	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第7回	2つの母比率の差の検定	宮本【講義】	演習の予習・復習	1時間	
第8回	分割表の独立性の検定、適合度の検定	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第9回	ノンパラメトリック検定、相関、回帰	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第10回	研究デザイン、交絡、ミニテスト2	宮本【講義】	資料の予習・復習	1時間	
第11回	JMP, Python：基礎	宮本【演習】	資料の予習・復習	1時間	
第12回	JMP, Python：平均値の比較、推定	宮本【演習】	資料の予習・復習	1時間	
第13回	JMP, Python：比率の比較・推定、分割表の独立性の検定	宮本【演習】	資料の予習・復習	1時間	
第14回	JMP, Python：相関係数、回帰分析	宮本【演習】	資料の予習・復習	1時間	
第15回	Python：大規模データの集計・加工	宮本【演習】	演習の予習・復習	1時間	
テキスト	なし（資料配布）				
参考書	柳川堯 他 「看護・リハビリ・福祉のための統計学」近代科学社				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） レポート（30%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 演習における課題の達成度を、レポートの記載内容で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	ミニテストを採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅰ (ホメオスタシス/筋・骨格系/ 脳・神経系/循環器系/血液)	必修科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 中村 悠 医学部生理学講座 村井 恵良、中島 明子、中島 則行 先端イメージング研究センター 太田 啓介 医学部医療検査学科 武谷 三恵				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標到達目標	<p>教育目標</p> <p>適切な看護活動を行うためには、患者の生活や療養の状況、患者や家族の訴え・問題点を的確にとらえることが大切である。また、チーム医療の一員として「病気や怪我をしたヒトではどのような問題が起こり、それに対してどのような治療や看護がなされるか」を理解して行動することが求められる。</p> <p>そのための基礎として、本科目では正常な人体の構造と機能について学ぶ。さらに知識を実践・活用するため、「個体・臓器・細胞の各レベルで学ぶ構造と機能」を個別の知識として暗記するのではなく、身体で起こる現象に各部が互いにどのように関連しているのかを理解し、知識を統合する力を身につける事を目的とする。特に「からだの構造と機能Ⅰ」では、ヒトの日常生活動作に関わる身体の仕組みと、各臓器に酸素やエネルギー源等を供給する循環系について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 正常な身体はどのような形態・構造を有し、どのように働いているか、説明できる。 2) 各臓器が適切に働くために、どのような仕組み(形態・構造・機能)が備わっているか、説明できる。 				
授業概要	通常講義(教科書・資料・スライドなどを利用する。)復習を兼ねての課題を課すこともある。 ※本講義では、解剖学の講師が主に形態・構造を、生理学の講師が主に機能を担当する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	(構造系) 総論：この科目を学ぶ意義、からだの構造学の歴史	嵯峨【講義】	本科目で学ぶことは、自分自身の体がいかに巧妙な仕組みで成り立っているかを知ることには他ならない。「自分を知る」という観点を加えると、からだの構造と機能が楽しく学べるでしょう。	各1時間	
第2回	(構造系) 組織・細胞学総論：生命の最小単位「細胞」とカラダの構築	太田【講義】			
第3回	(構造系) 組織・細胞学総論：組織とは	太田【講義】			
第4回	(構造系) 総論：からだ各部の基本Ⅱ	嵯峨【講義】			
第5回	(機能系) からだの機能総論：生きているとは？	村井【講義】			
第6回	(機能系) 血液の機能Ⅰ：血漿の組成と各成分の働き	村井【講義】			
第7回	(機能系) 血液の機能Ⅱ：血漿の成分と各成分の働き	村井【講義】			
第8回	(構造系) 骨格系の構造Ⅰ：骨の基本構造	嵯峨【講義】			
第9回	(機能系) 神経系の機能Ⅰ：末梢からの感覚入力仕組み	中島【講義】			
第10回	(構造系) 骨格系の構造Ⅱ：各骨の位置と名称	嵯峨【講義】			
第11回	(機能系) 神経系の機能Ⅱ：中枢からの出力仕組み	中島【講義】			
第12回	(構造系) 筋系の構造Ⅰ：筋の構造とおもな名称	嵯峨【講義】			
第13回	(機能系) 神経系の機能Ⅲ：脳の機能分担	中島【講義】			
第14回	(構造系) 神経系の構造Ⅰ：神経系概説/中枢と末梢・運動と知覚・体性と臓性	中村【講義】			
第15回	(構造系) 筋系の構造Ⅱ：各筋の位置と作用	嵯峨【講義】			
第16回	(機能系) 神経系の機能Ⅳ：神経回路の役割	中島【講義】			
第17回	(構造系) 循環器系の構造Ⅰ：全身に血液を送り出すポンプ(心臓)の構造	嵯峨【講義】			
第18回	(機能系) 骨格筋の機能：筋の収縮	武谷【講義】			
第19回	(構造系) 神経系の構造Ⅱ：神経組織の細胞構築	中村【講義】			
第20回	(構造系) 循環器系の構造Ⅱ：心臓から全身に血液を運搬する血管(動脈)の構造	嵯峨【講義】			
第21回	(機能系) 循環器系の機能Ⅰ：心臓の興奮とその伝播/心電図	武谷【講義】			
第22回	(構造系) 神経系の構造Ⅲ：運動のコントロール/末梢神経系・自律神経系	中村【講義】			

第23回	(構造系) 循環器系の構造Ⅲ：全身から心臓へ血液を運搬する血管(静脈)の構造。	嵯峨【講義】	左記のことを念頭に、各講義の各章相当部位の教科書を利用し、各自ノートにまとめるなど予習・復習を心がけてください。	各1時間
第24回	(機能系) 循環器系の機能Ⅱ：心電図/心臓の収縮	武谷【講義】		
第25回	(機能系) 体温を維持する仕組み	村井【講義】		
第26回	(機能系) 循環器系の機能Ⅲ：血液の循環の調節	武谷【講義】		
第27回	(構造系) 循環器系の構造Ⅳ：リンパ球やリンパ液を運ぶ管の構造	嵯峨【講義】		
第28回	(構造系) 神経系の構造Ⅳ：感覚器/見る・聴く	嵯峨【講義】		
第29回	(機能系) 循環器系の機能Ⅳ：循環器系の病態生理	武谷【講義】		
第30回	(構造系) 神経系の構造Ⅴ：感覚器/嗅ぐ・味わう・触れる	嵯峨【講義】		
第31回	(構造系) 神経系の構造Ⅵ：感覚器、脳神経まとめ	嵯峨【講義】		
テキスト	坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院 2022			
参考書	藤本淳監修「ビジュアル解剖生理学」ヌーヴェルヒロカワ 2007 佐伯由香、細谷安彦、高橋研一、桑木共之編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能」原書 10 版 丸善 2002			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
定期試験(100%)	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。(筆記試験：100%)			
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは評価後、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅱ (呼吸器系/消化器系/ 泌尿器系/内分泌系)	必修科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 嶋 雄一 医学部生理学講座 村井 恵良 医学部医療検査学科 武谷 三恵				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>適切な看護活動を行うためには、患者の生活や療養の状況、患者や家族の訴え・問題点を的確にとらえることが大切である。また、チーム医療の一員として「病気や怪我をしたヒトではどのような問題が起こり、それに対してどのような治療や看護がなされるか」を理解して行動することが求められる。</p> <p>そのための基礎として、本科目では正常な人体の構造と機能について学ぶ。さらに知識を実践・活用するため、「個体・臓器・細胞の各レベルで学ぶ構造と機能」を個別の知識として暗記するのではなく、身体で起こる現象に各々が互いにどのように関連しているのかを理解し、知識を統合する力を身につける事を目的とする。特に「からだの構造と機能Ⅱ」では、ヒトの個体維持・種族維持を可能にする身体の仕組みについて学び、日常では意識せずに行われている生活行動により生命の維持がなされていることを理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 正常な身体はどのような形態・構造を有し、どのように働いているか、説明できる。 2) 各臓器が適切に働くために、どのような仕組み(形態・構造・機能)が備わっているか、説明できる。 				
授業概要	通常講義(教科書・資料・スライドなどを利用する。)復習を兼ねての課題を課すこともある。 ※本講義では、解剖学の講師が主に形態・構造を、生理学の講師が主に機能を担当する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	(構造系) 呼吸器系の構造Ⅰ:呼吸のための器官の構造 上気道	嵯峨【講義】	本科目で学ぶことは、自分自身の体がいかに巧妙な仕組みで成り立っているかを知ることには他ならない。「自分を知る」という観点を加えると、からだの構造と機能が楽しく学べるでしょう。	各1時間	
第2回	(機能系) 呼吸器系の機能Ⅰ:呼吸とは何か	村井【講義】			
第3回	(機能系) 呼吸器系の機能Ⅱ:換気(呼吸運動)の仕組み	村井【講義】			
第4回	(機能系) 呼吸器系の機能Ⅲ:呼吸数と深さを変える仕組み	村井【講義】			
第5回	(構造系) 呼吸器系の構造Ⅱ:呼吸のための器官の構造 下気道	嵯峨【講義】			
第6回	(機能系) 泌尿器系の機能Ⅰ:腎臓の働きと尿の生成	村井【講義】			
第7回	(構造系) 泌尿器系の構造Ⅰ:排泄のための器官 尿を作る構造	嵯峨【講義】			
第8回	(機能系) 泌尿器系の機能Ⅱ:尿を排泄する仕組み	村井【講義】			
第9回	(機能系) 消化器系の機能Ⅰ:食物の摂取	武谷【講義】			
第10回	(機能系) 消化器系の機能Ⅱ:食物の消化	武谷【講義】			
第11回	(機能系) 消化器系の機能Ⅲ:栄養素の吸収	武谷【講義】			
第12回	(機能系) 消化器系の機能Ⅳ:消化管の運動と排便	武谷【講義】			
第13回	(構造系) 泌尿器系の構造Ⅱ:排泄のための器官 尿を運ぶ	嵯峨【講義】			
第14回	(構造系) 生殖器系の構造Ⅰ:種族維持のための構築・男	嶋【講義】			
第15回	(構造系) 消化器系の構造Ⅰ:食物を取り入れる構造	嵯峨【講義】			
第16回	(構造系) 生殖器系の構造Ⅱ:種族維持のための構築・女	嶋【講義】			
第17回	(構造系) 消化器系の構造Ⅱ:食物の咀嚼と嚥下の構造	嵯峨【講義】			
第18回	(構造系) 生殖器系の構造Ⅲ:個体の形成:受精から個体へ	嶋【講義】			
第19回	(構造系) 消化器系の構造Ⅲ:消化・吸収の場の構造	嵯峨【講義】			
第20回	(機能系) 内分泌系の機能Ⅰ:ホルモンによる身体機能の調節	村井【講義】			
第21回	(機能系) 内分泌系の機能Ⅱ:血糖値を維持する仕組みなど	村井【講義】			
第22回	(機能系) 内分泌系の機能Ⅲ:性ホルモンの作用	村井【講義】			
第23回	(機能系) 体液の組成を維持する仕組み	村井【講義】			
第24回	(機能系) 体液pHを維持する仕組み	村井【講義】			
第25回	(構造系) 消化器系の構造Ⅳ:栄養の吸収と運搬の構造	嵯峨【講義】			
第26回	(機能系) 体液pH調整の異常	村井【講義】			
第27回	(構造系) 内分泌系の構造Ⅰ:ホルモンをつくる器官の構造	嵯峨【講義】			
第28回	(構造系) 内分泌系の構造Ⅱ:視床下部下垂体甲状腺の構造	嵯峨【講義】			

第 29 回 第 30 回	(構造系) 内分泌系の構造Ⅲ：睪臓副腎生殖器その他の構造 (構造系) 呼吸器, 泌尿生殖器, 消化器, 内分泌系のまとめ	嵯峨【講義】 嵯峨【講義】	左記のことを念頭に、各講義の各章相当部位の教科書を利用し、各自ノートにまとめるなど予習・復習を心がけてください。	各 1 時間
テキスト	坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院 2022			
参考書	藤本淳監修「ビジュアル解剖生理学」ヌーヴェルヒロカワ 2007 佐伯由香、細谷安彦、高橋研一、桑木共之編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能」原書 10 版 丸善 2002			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
定期試験 (100%)	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。(筆記試験 : 100%)			
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは評価後、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	からだの代謝 BMS1113MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部医化学講座 講師 原田 二郎				
科目担当者	医学部医化学講座 塚口 舞				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>本講義の分野である生化学を学ぶことによって、今後他の科目や実務で出会うことになる各疾病には正常に機能していない反応がどこかにあり、その為に行う治療や投薬、食事がどのように反応を幫助するのか考えるようになること。</p> <p>到達目標</p> <p>三大栄養素、糖質・脂質・タンパク質を中心とした代謝系を理解し、説明できる。また、それらの相互相関、そして関係する疾患についても説明できる。</p>				
授業概要	講義には、教科書・資料などを使用する。また、授業の理解を確認するために、講義終了時、講義内容に関するレポートまたは小テストを行い提出する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	生化学を学ぶための基礎知識 代謝の基礎と酵素・補酵素 糖質の構造と機能 糖質代謝 脂質の構造と機能 脂質代謝 タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝 ポリフィリン代謝と異物代謝 遺伝子と核酸 遺伝子の複製・修復・組換え 転写 翻訳と翻訳後修飾 シグナル伝達 がん	塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】	予習：テキストを読み、太字で書かれた語句がどのようなものかを調べておく。 復習：テキストや配布資料を見返し、重要なポイントを中心に理解しておく。	復習 / 予習 各 10分	
テキスト	著：島山 鎮次 《系統看護学講座 専門基礎分野》人体の構造と機能 [2] 生化学 2023年 第14版 第5刷 医学書院				
参考書	野口 正人 他 編集 「シンプル生化学 改訂第7版」 南江堂				
成績評価					
方法（割合）	基準				
定期試験（100%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	状況に応じて、レポートもしくは小テストを行い、採点后返却または解説する。				

科目名 ナンバリングコード	こころの生涯発達 NUS1124MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯にわたるこころの発達を発達理論を用いて理解し、アセスメントする重要性を認識する。 2) 対象理解のため、こころの健康と障害についてアセスメントする能力・態度を身につける。 3) 精神領域における対象の捉え方や制度について理解する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフサイクル各期のこころの発達課題・発達危機・人格的活力について説明できる。 2) 精神の健康の概念について説明できる。 3) 精神障害について、医学モデル・精神分析モデル・危機モデルを用いて説明できる 4) 諸外国・日本における精神医療の歴史について理解できる。 5) 精神・心身の健康障害と人間の反応について説明できる。 6) 回復（リカバリ）に必要な要因を述べるができる。 7) 現代社会におけるこころの問題の現状について調査し、対策について考察できる。 				
授業概要	各発達期に生じる社会問題について、学生自身で文献を調べ、グループ発表する。 精神障害・家族の問題について映像やディスカッションにより考える。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11・12 回 第 13 回 第 14・15 回	ライフサイクルと発達理論 周産期の問題 幼児期のこころの発達① 幼児期のこころの発達② 学童期・思春期のこころの発達 青年期・成人前期のこころの発達 成人前期・中期のこころの発達 成熟期・老年期のこころの発達 精神保健医療福祉の歴史の変遷 こころの機能（医学モデル・精神分析モデル） こころの健康と障害、回復（リカバリー） 危機介入 社会問題を読み解く	舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 福浦【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 福浦・舞弓・松島【演習】	予習：学習する発達の範囲のテキストを読む。 復習：授業の内容、資料をノートにまとめる。 次回、授業の開始時に質問をする。 各発達期で生じやすい精神的な社会問題のレポートを課す。レポートを提出後、グループワークを行い、抄録と発表の準備を行う。	各回 30 分 2～3 時間	
テキスト	1) 服部祥子著：生涯人間発達論第 3 版 医学書院 2020				
参考書	1) 永田雅子編著：妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア 別冊発達 32 ミネルヴァ書房 2016 2) 青木省三著：思春期の心の臨床 金剛出版 2003 3) 日本語版作成兵庫こころのケアセンター：サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第 2 版				
成績評価					
方法（割合）	基準				
小テスト (70%) レポート (30%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 精神的な社会問題について、文献検索を行い、対策について考察している。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	第 14・15 回でレポート課題を発表し、質疑応答する。				

科目名 ナンバリングコード	ボランティア活動 SWS1240MN2	選択科目	1年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	非常勤講師 土井 幸治				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の③地域の現象を自分事としてとらえ社会貢献しようとする態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>本講義では、ボランティアに関する理論や歴史・実際についての基礎的な知識を身につけ、保健医療福祉に携わる専門職として、ボランティア観の醸成や活動の展開方法について学ぶ。また、ボランティアに関する組織や運営の実際についての理解を促す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ボランティアの理念・基本原則を説明できる。 2) ボランティア活動参加の意義を説明できる。 3) ボランティア活動と関連する組織および活動を説明できる。 4) ボランティア活動に必要な価値、知識、技術について説明できる。 				
授業概要	教員によるボランティアに関する理論等の説明、事例の紹介と合わせて、受講生は課された課題について、取り組み、意見交換を行いながら進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>オリエンテーション・ボランティアとは</p> <p>ボランティア活動とその意義</p> <p>ボランティア活動の理念・歴史・基本原則</p> <p>ボランティア活動の理解①</p> <p>ボランティア活動の推進に関わる専門職の役割</p> <p>ボランティア活動の推進に関わる事業・組織・制度</p> <p>ボランティア活動の理解②</p> <p>ボランティア活動の実際と展開</p> <p>ボランティア活動の計画</p> <p>フィールドワーク①</p> <p>フィールドワーク②</p> <p>ボランティア活動計画の自己評価・他者評価</p> <p>ボランティア活動計画の発表①</p> <p>ボランティア活動計画の発表②</p> <p>試験</p>	<p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【講義・演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【演習】</p> <p>土井【講義】</p>	<p>第1～9回 各回の講義・演習内容についてまとめてファイリングを行うこと。各回、前回までの流れを確認し、受講すること。</p> <p>第10～11回 フィールドワークを行う場所や方法等を計画しておくこと。</p> <p>第12～14回 他者の意見についてまとめておくこと。</p>	各回 20分以上	
テキスト	特になし。必要時資料配布。				
参考書	特になし。講義中に適宜紹介する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
試験 (50%) レポートの評価(40%) 受講態度 (10%)	<p>到達目標の達成度を試験とレポート課題で評価する。</p> <p>授業へ積極的に参加する姿勢、意見などの受講態度を総合的に評価する。</p>				
課題(レポート等)に対するフィードバック	ポイントとなる箇所を抜き出し、講義で適宜解説を行う。				

科目名 ナンバリングコード	家族社会学 SOC1126MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 井上 智史 (九州大学)				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>本授業では、家族分析の基礎概念、家族社会学における代表的な学説を学ぶとともに、現代社会における家族問題、家族変動に関する具体的な問題について考察する。家族をめぐる諸現象を社会学の視点から理解することを通じて、社会的な存在としての人間についての理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>①家族社会学の代表的な学説、家族分析の基本概念を説明できる。 ②現代社会の家族問題について、その社会的背景を考察することができる。 ③家族という観点から人間を社会的存在として捉える必要性について説明できる。</p>				
授業概要	授業担当教員による解説を主とした形態であり、適宜、受講者との対話やグループワークなどを通じて関連知識を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	ガイダンス	井上【講義】	初回についてはシラバスを読んでくる。第2回以降は、毎回配布される資料を読み返し、授業内容を復習し、試験に備える。	60分	
第2回	家族分析の基礎概念	井上【講義】		60分	
第3回	現代社会の家族問題①：少子化	井上【講義】		60分	
第4回	現代社会の家族問題②：ワークライフバランス	井上【講義】		60分	
第5回	家族の極小化・個人化①：家族機能の縮小	井上【講義】		60分	
第6回	家族の極小化・個人化②：母子ダイアド、ケア関係	井上【講義】		60分	
第7回	家族の極小化・個人化③：最小結婚	井上【講義】		60分	
第8回	前半のまとめ	井上【講義】		60分	
第9回	家族の多様化①：事実婚・夫婦別姓	井上【講義】		60分	
第10回	家族の多様化②：ステップファミリー、非血縁家族	井上【講義】		60分	
第11回	家族の多様化③：生殖技術と家族	井上【講義】		60分	
第12回	性的マイノリティと家族：映画「ハッシュ！」を例に (2回連続)	井上【講義】		60分	
第13回	家族の多様化④：同性婚・登録パートナー制度	井上【講義】		60分	
第14回	全体のまとめ	井上【講義】		60分	
テキスト	なし。毎回、講義用資料 (パワーポイント) を配布する。必要に応じて映像資料を視聴する。				
参考書	岩間暁子・大和礼子・田間泰子, 2022, 『問いからはじめる家族社会学 改訂版』有斐閣。 永田夏来・松木洋人編, 2017, 『入門 家族社会学』新泉社。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%) 受講態度 (20%)	到達目標の達成度を正答率および論述内容で評価する。 各回の授業で提出するリアクションペーパーをもとに授業へ積極的に参加する姿勢を評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	微生物と感染 BMS1415MN1	必修科目	1年次 2学期	講義・実習	1単位
科目責任者	医学部感染制御学講座 教授 渡邊 浩				
科目担当者	医学部感染医学講座基礎感染医学部門 小椋 義俊、山本 武司、奥野 未来 医学部感染医学講座真核微生物学部門 井上 雅広 医学部感染制御学講座 原 好勇、岩橋 潤 医学部医学教育研究センター 柏木 孝仁 非常勤講師 濱田 信之				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 感染症に関する基礎的理解を深め、感染症患者への対処法を習得する。 到達目標 1) 感染症の疾患名とその病原体について説明できる。 2) 各種病原体の感染経路、伝播様式、予防・治療法、消毒法、検査法について説明できる。 3) 感染防御法を実践できる。 4) 病原体の侵入に対する生体の防御機構について説明できる。				
授業概要	実習を取り入れながら授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	微生物の病原性	渡邊【講義】	p4～12を読む	30分	
第2回	海外旅行関連の感染症と感染経路および予防	渡邊【講義】	p62～73を読む	30分	
第3回	院内感染の感染経路、伝播様式の理解および感染防御法	渡邊【講義】	p174～191を読む	30分	
第4回	ウイルスの性状	渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】	p38～47を読む	30分	
第5回	ウイルスの滅菌・消毒法	渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】	p126～136を読む	30分	
第6回	ウイルス感染症の診断法1（抗原検査）	渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】	p138～144を読む	30分	
第7回	ウイルス感染症の診断法2（抗体検査）	渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】	p145～148を読む	30分	
第8回	ウイルスの病原性1	原【講義】	p270～304を読む	30分	
第9回	ウイルスの病原性2	柏木【講義】	p258～270を読む	30分	
第10回	細菌の性質	小椋【講義】	p4～33を読む	60分	
第11回	感染防御機構と化学療法	小椋【講義】	p62～172を読む	60分	
第12回	臨床で遭遇する細菌感染症	小椋【講義】	p174～255を読む	60分	
第13回	細菌のコロニー、形態を理解する（1）	小椋・山本・奥野【実習】	実習書を全頁読む	20分	
第14回	細菌のコロニー、形態を理解する（2）	小椋・山本・奥野【実習】	実習書を全頁読む	20分	
第15回	蠕虫および原虫疾患	井上【講義】	P316～337を読む	60分	
テキスト	系統看護学講座 微生物学 第14版 著者：南嶋洋一 他（医学書院）2022年発行				
参考書	微生物学実習書（久留米大学医学部感染制御学講座編2024年度版）（前もって配布） 細菌学実習書（久留米大学医学部感染医学講座編2024年度版）（前もって配布）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	筆記試験は一定の正答率をクリアしているかを基準とする。なお筆記試験には実習レポートの評価も含める（結果を正確にまとめ考察を行っているかを基準とする）。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	病理学 BMS2114MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部病理学講座 後任教授				
科目担当者	医学部病理学講座 中山 正道、三好 寛明、矢野 雄太、竹内 真衣、谷川 雅彦 大学病院病理部 秋葉 純、古田 拓也 医学部医療検査学科 真田 咲子				
教員の実務経験	日常業務については、病理診断、病理解剖、研究・論文執筆・学会発表を行い、教育については医学部医学科・看護学科、大学院博士・修士課程、学外看護学校における病理学についての講義、実習指導を主に行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>病理学は病気の原因・本質を解明する学問である。病気による組織の形態的变化を理解するとともに、最新の細胞生物学、免疫学的な知識の融合を図り、病気の原因・本質を理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な疾患の分類とそこに含まれる疾患の概念・定義を理論的に確実に説明できる。 2) 疾患あるいは病的現象に関して、適切な医学用語を使用し説明できる。 3) 主要な疾患の成因や、疾患によってもたらされる臓器の形態的・機能的変化を正常状態と比較し説明できる。 4) 疾患の大きなカテゴリーと臓器の組み合わせによって、個別の疾患を系統的に理解するための基礎的能力について説明できる。 5) 病理検査の内容について説明できる。 				
授業概要	Powerpoint 等を使い講義を行い、配布資料を提供する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	序論・病因と疾病の分類、奇形・遺伝性疾患	真田【講義】	予習：	30分	
第2回	代謝障害(1)	古田【講義】	毎回、該当する内容に関し	30分	
第3回	代謝障害(2)	古田【講義】	てテキストを熟読し、分から	30分	
第4回	進行性病変	秋葉【講義】	ない用語などは事前に自分	30分	
第5回	循環障害(1)	三好【講義】	で調べておくこと。	30分	
第6回	循環障害(2)	三好【講義】		30分	
第7回	炎症(1)	竹内【講義】	復習：	30分	
第8回	炎症(2)	竹内【講義】	講義での説明や配布資料を	30分	
第9回	免疫	中山【講義】	見直し、文献などを用いな	30分	
第10回	感染症(1)	矢野【講義】	がら理解を深める。	30分	
第11回	感染症(2)	矢野【講義】		30分	
第12回	腫瘍(1)	秋葉【講義】		30分	
第13回	腫瘍(2)	秋葉【講義】		30分	
第14回	老化と全身性疾患	谷川【講義】		30分	
第15回	病理学的検査と病理診断	秋葉【講義】		30分	
テキスト	主教本：岩田隆子、恒吉正澄、小田義直 編集：「わかりやすい病理学」改訂第7版 南江堂 2021年				
参考書	副教本：竹田津文俊 著：「病態生理 基礎のキソ」第2版 学研メディカル秀潤社 2013年 詳しく調べる：標準病理学（医学書院）、エッセンシャル病理学、解明病理学（医歯薬出版）→医学図書館にある 基礎事項を復習、整理する：看護学生用問題集→自分のレベルにあつて、解説が詳しいものを探す 英単語教本：岡田一義 編：「医学英語ハンドブック」改訂第2版 東京医学社				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	看護学概論I NUS1121MN1	必修科目	1年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、三次 貴大				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の主要概念である人間、健康、環境、看護と主要概念間の関連について学ぶ。 2) 看護の歴史の変遷と主要な看護理論について理解する。 3) 看護の役割と責務について考察する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の対象である人間の特性について多面的にとらえ説明できる。 2) 人間にとっての健康、健康と環境の関連、環境が人間に与える影響について説明できる。 3) 看護の歴史の変遷と現代の看護職の状況について説明できる。 4) F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソンに代表される看護理論について説明できる。 5) 保健医療福祉分野で活動するさまざまな職種の役割について説明できる。 6) 事例検討にて対象を全人的にとらえ、必要な看護について自己学習をふまえて討論できる。 7) 看護についての自分の考えを述べるができる。 				
授業概要	看護の学習のはじまりの科目である。看護とは何か、自分なりの考えをもてるよう、毎回、テーマに沿ったレポートを作成して臨み、グループメンバーに報告・共有する協同学習を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護学を学ぶにあたって、看護の主要概念、看護の倫理	加悦【講義】	シラバス確認	20分	
第2回	看護とは何か、看護の歴史の変遷	加悦【講義】	①看護の歴史の変遷	30分	
第3回	人間とは①<GW>: 身体・心理・社会的側面、発達段階	加悦【講義・演習】	②人間とは	30分	
第4回	人間とは②<GW>: 生活行動とニード、共通性と個性	加悦【講義・演習】	資料・テキスト確認	30分	
第5回	健康とは①<GW>: 健康観の推移、健康の定義、健康の段階	加悦【講義・演習】	③健康とは	30分	
第6回	健康とは②<GW>、健康の指標、ウェルネス	加悦【講義・演習】	④健康の指標	30分	
第7回	看護における環境のとらえ方: 外的環境・内的環境、QOL	加悦【講義】	⑤健康と環境	30分	
第8回	人間の健康と環境の関連、生活と健康の関連<GW>	加悦【講義・演習】	資料・テキスト確認	30分	
第9回	F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソンの看護<GW>	加悦【講義・演習】	⑥先駆者の看護	180分	
第10回	看護理論の主要な概念、基本的ニード・基本的看護	加悦【講義・演習】	資料・テキスト確認	30分	
第11回	事例に対する看護①<PBL学習>: 対象の理解	加悦・三次【演習】	⑦PBL学習課題	30分	
第12回	事例に対する看護②<PBL学習>: 必要な看護	加悦・三次【演習】	⑧PBL学習課題	30分	
第13回	事例検討成果報告	加悦・三次【演習】	発表準備	30分	
第14回	保健医療福祉分野の職種・役割・連携、看護の組織体制	恒松【講義】	保健医療福祉の仕事	30分	
第15回	看護職の現状、看護活動の場、看護の役割・機能の拡大	加悦【講義】	看護活動の場	30分	
テキスト	茂野香おる他: 系統看護学講座専門分野基礎看護学1看護学概論、医学書院、2023 F・ナイチンゲール著、湯楨ます他訳: 看護覚え書、現代社、2011 V・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳: 看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2016				
参考書	その都度、紹介する。				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (60%) レポート (20%) 受講態度 (20%)	到達目標 1) ~ 5) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 7) 看護についての自分の考えを、学習内容を活用して述べているかをルーブリックで評価する。 到達目標 6) 課題①~⑧の提出状況、自己評価の記載状況、PBL グループ成果報告状況をポイント化する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題①~⑦は、フィードバックするが、最終評価レポートとともに再度提出し、採点後に返却する。

科目名 ナンバリングコード	生命・看護倫理 NUS1122MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 恒松 佳代子				
科目担当者	医学部看護学科 田中 佳代				
教員の実務経験	本科目の担当する教員は、臨床現場での倫理的な意思決定の経験があり、それらの実務経験を授業に活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の①生命・人の尊厳を護る基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職が人間の尊厳と権利を尊重する上で必要な基礎的知識を身につけることができる。 2) 医療場面における倫理的な判断や行動の根拠や理由を説明できる基礎的能力を習得する。 3) 倫理的葛藤の解決に向けた倫理的な意思決定過程を辿ることができる。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命倫理、看護倫理の歴史の変遷を概説できる。 2) 看護倫理のアプローチについて説明できる。 3) 看護職の倫理的責任と法的責任について説明できる。 4) 患者の権利擁護における看護職の役割と具体的な行動について説明できる。 5) 医療現場における多様な倫理的問題と看護職の役割について説明できる。 6) サリドマイド薬害被害や B 型肝炎の感染拡大の原因と医療者に求められる行動を説明できる。 7) 倫理的葛藤のある事例を通して、葛藤を解決する意思決定ができ、その根拠や理由を説明できる。 				
授業概要	「倫理学」で学んだ知識を基盤として、生命倫理・看護倫理に関連する概念を理解する。医療現場における倫理的問題に関心を持ち、看護師がどのように行動すべきかを考えるための知識を習得する。倫理的問題が潜在する映画やドラマの視聴、実際の患者の体験談を通して、倫理的問題に気づくための倫理的感性を養う。授業の終盤で、看護実践の中で遭遇する倫理的葛藤の事例について、グループで検討し、葛藤解決に向けた意思決定を行う。事例検討のグループ発表を通して、多様な判断や価値観を理解し、自己の判断や行動を再考する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>医療と倫理：倫理の概念、生命倫理・看護倫理に関する歴史的背景</p> <p>看護倫理のアプローチ：徳倫理、原則の倫理、ケア倫理</p> <p>患者の権利に対する看護職の責任：倫理綱領、関連する法律</p> <p>映画を通して倫理を考える：米国の医療保険制度、医療資源の配分</p> <p>看護倫理に関連する概念：パターナリズム、インフォームドコンセント、共同意思決定</p> <p>看護倫理に関連する概念：コンパッション、アドボカシー</p> <p>医療現場の倫理的問題：性と生殖に関わる問題</p> <p>医療現場の倫理的問題：隔離・拘束に関わる問題</p> <p>医療現場の倫理的問題：人生の最終段階の医療に関わる問題</p> <p>医療現場の倫理的問題：B 型肝炎当事者に学ぶ 医療者の倫理的姿勢</p> <p>医療現場の倫理的問題：サリドマイド薬害被害と真相</p> <p>遺伝子医療と倫理：遺伝子診断、遺伝子治療、エンハンスメント、遺伝看護</p> <p>倫理的な意思決定のアプローチ：Jonsen らの 4 分割法、4 ステップ法</p> <p>倫理的な意思決定のアプローチ：事例検討（グループワーク）</p> <p>倫理的な意思決定のアプローチ：事例検討のグループ発表、講評</p>	<p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【演習】</p> <p>恒松【演習】</p>	<p>関連の法律や規程</p> <p>アプローチの種類</p> <p>法的・倫理的責任</p> <p>医療保険制度</p> <p>用語の復習</p> <p>用語の復習</p> <p>関連の倫理的問題</p> <p>関連の倫理的問題</p> <p>関連の倫理的問題</p> <p>感染拡大の原因</p> <p>薬害被害の内容</p> <p>関連の倫理的問題</p> <p>アプローチの方法</p> <p>発表資料の読解</p> <p>意思決定の評価</p>	各 30 分	
テキスト	小西恵美子編：看護倫理（改訂第 3 版）よい看護・よい看護師への道しるべ，南江堂，2021				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） グループ課題（20%） 小テスト（10%）	<p>到達目標の達成度を正答割合で評価する。</p> <p>第 14 回のグループワークの内容をルーブリック評価表に基づいて点数化する。</p> <p>授業終了後の小テストの正答率を点数化する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想や質問には、電子シラバスの掲示板を通じて回答する。 ・授業後の小テストの回答は、電子シラバスの掲示板を通じて行う。 ・第 14 回で提出したグループ課題は、第 15 回のグループ発表後に講評する。 				

科目名 ナンバリングコード	生活援助技術I NUS1231MN1	必修科目	1年次 Aクラス・Bクラス 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、専任教員1名				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②に必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活する人の援助に必要な基本的知識、技術、姿勢や態度を修得する。 2) 身体の構造・機能をふまえ根拠に基づいた援助技術を思考できる。 3) 安全・安楽・自立を考えた援助技術を実践できる。 4) 援助を受ける人の気持ちに配慮した援助能力を身につける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防のための基本的行動（手指衛生、個人防護具着脱、廃棄物の処理など）ができる。 2) コミュニケーションの基本について説明できる。 3) 安全で快適な療養環境を整えることができる。 4) ボディメカニクスの原理・原則に基づき援助を実施できる。 5) 人の身体づくりと自然な動きに基づいた体位変換を実施できる。 6) 運動障害がある人の安全・安楽・自立を考えた移乗、移送を実施できる。 7) 健康状態に応じた衣服の選択および交換を実施できる。 8) 清潔保持が困難な人の安全・安楽・自立を考えた清潔援助を実施できる。 9) 排泄障害のある人の安全・安楽・自立を考えた排泄援助を実施できる。 10) 療養者の状態に合わせた援助を根拠に基づき計画・実施できる。 11) 対象となる人の気持ちに配慮した生活援助を実践できる。 				
授業概要	本科目は、あらゆる看護場面において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々に対する生活援助の基礎を学ぶ。実際の患者に合わせた援助へ応用・発展させるためにも、本科目では、原理・原則となる知識や基本動作を、難易度を上げながら身につけていく。演習は、病室を模した看護実習室で看護師役・患者役を体験しながら学ぶ。授業準備として事前課題およびテキスト・文献・動画を用いた予習を行い、演習後は小テストと事後レポートの作成・提出とする。なお、演習は看護師としての身だしなみを整えて参加すること、物品の整理・整頓・清掃を心がけることを求める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	ガイダンス、生活援助における看護師の責任と役割	加悦【講義】	実習室探索	30分	
第2回	感染予防の援助、標準予防策、衛生的手洗い	恒松【講義】	手洗いの課題	60分	
第3回	コミュニケーションとは、対人関係成立の要件・プロセス	恒松【講義】	資料確認	60分	
第4回	コミュニケーション技法の基本、支援者の態度	全員【演習】	振り返りシート	60分	
第5回	療養環境を整える援助：環境調整とその方法、ボディメカニクス	加悦【演習】	演習の事後評価	30分	
第6回	療養環境を整える援助：ベッドメイキング	全員【演習】	援助のイメージ化	60分	
第7回	活動・休息の援助：活動・休息の意義とアセスメント、体位変換	加悦【講義】	演習の事後評価	60分	
第8回	活動・休息の援助：体位変換（水平移動、仰臥位から側臥位）	全員【演習】	活動と休息の意義とアセスメント	60分	
第9回	活動・休息の援助：運動障害への援助、移乗・移送、歩行介助	山田【講義】	演習の事後評価	60分	
第10回	活動・休息の援助：車椅子およびストレッチャーの移乗・移送	全員【演習】	援助の動画視聴、イメージ化	60分	
第11回	療養環境を整える援助：臥床患者のシーツ交換	全員【演習】	演習の事後評価	60分	
第12回	衣生活の援助：衣服の役割、衣服の選択	全員【演習】	シーツ交換の予習	60分	
第13回	衣生活の援助：自力で更衣困難な人の寝衣交換	全員【演習】	衣服の役割、寝衣交換の方法	60分	
第14回	清潔の援助：清潔の意義とアセスメント、清潔援助の方法	加悦【講義】	演習の事後評価	30分	
第15回	感染予防の援助：個人防護具の着脱、廃棄物処理	恒松【講義】	清潔の意義とアセスメント	30分	
第16回	清潔の援助：清潔保持困難な人への援助、臥床患者の全身清拭	全員【演習】	個人防護具の着脱のイメージ化	30分	
第17回	清潔の援助：臥床患者の足浴	全員【演習】	清拭・足浴のイメージ化	30分	
第18回	清潔の援助：洗髪台、ケリーボードでの洗髪	全員【演習】	演習の事後評価	30分	
第19回	清潔の援助：臥床患者の洗髪	全員【演習】	洗髪のイメージ化	30分	
第20回	排泄の援助：排泄の意義とアセスメント、排泄援助の方法	加悦【講義】	演習の事後評価	30分	
第21回	排泄の援助：尿器・便器介助、オムツ交換	全員【演習】	排泄の援助のイメージ化	30分	
第22回	清潔の援助：陰部洗浄	全員【演習】	事前のイメージ化、演習事後評価	30分	
第23回	総合演習：事例患者の生活援助の計画立案・実施	全員【演習】	事例の援助計画立案	30分	

テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学 基礎看護技術1・2、メヂカルフレンド社、2021 その他、必要時には資料を配布する。	
参考書	平田雅子著：完全版ベッドサイドを科学する - 看護に生かす物理学 - 学研、2021 看護がみえる VOL1 基礎看護技術、メディックメディア、2018	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（50%） 実技試験（40%） 個人課題（10%）	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標に対する達成度を正答率で評価する。 ・指定する援助技術をルーブリック評価表に基づいて評価する。 ・事後レポートおよび小テストの正答を点数化する。 <p>ただし、各評価内容のいずれにおいても6割以上の達成を履修単位修得の基準とする。</p>	
課題（レポート等）に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の質問や感想および授業後の小テストの正答については、電子シラバスの掲示板を通じてコメントまたは回答する。 ・演習後のレポートは、教員がコメントを入れて返却する。 	

科目名 ナンバリングコード	生活援助技術Ⅱ NUS1232MN1	必修科目	1 年次 Aクラス・Bクラス 2学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 恒松 佳代子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子				
教員の実務経験	この科目を担当する教員は、臨床看護の経験があり、実務経験から得た知識や技術を授業に活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②に必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活する人の援助に必要な基本的な知識・技術・姿勢や態度を修得する。 2) 身体の構造・機能をふまえ根拠に基づいた援助技術を思考できる。 3) 安全・安楽・自立を考えた援助技術を修得する。 4) 援助を受ける人の気持ちに配慮した援助能力を身に付ける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経口摂取が可能な人の食事援助と口腔ケアを安全・安楽・自立を考えて実施できる。 2) バイタルサインの観察と測定を正確に実施できる。 3) 看護における観察・記録・報告の意義と方法を説明できる。 4) 体温に異常がある人の援助を安全・安楽・自立を考えて実施できる。 5) 人への感染を遮断する援助を実施できる。 6) 対象となる人の気持ちに配慮した援助を実施できる。 				
授業概要	<p>本科目は、1学期開講「生活援助技術Ⅰ」に引き続き、看護師が人々の健康的な生活を支援するために必要な知識とその援助方法を学ぶ。また、看護師としての基本的な姿勢と態度を学ぶ。</p> <p>本授業では、講義を通して援助の基本的知識や技術方法を学習し、それらをもとに演習で看護師役 - 患者役を体験しながら援助を実践して技術を修得する。援助技術は、演習前に動画視聴やチェックリストを用いて実践のイメージ化を図り、演習後の記録を通して技術実践の評価を行う。なお、看護師としての身だしなみを整えて演習に参加することを求める。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	科目ガイダンス、食生活と栄養摂取の援助	恒松【講義】	食生活や栄養摂取の意義	30 分	
第 2 回	食生活と栄養摂取の援助：食事・口腔ケアの援助、留意点	恒松【講義】	援助の動画視聴とイメージ化	30 分	
第 3 回	食生活と栄養摂取の援助：食事・口腔ケアの援助	全員【演習】	演習の事後評価（演習記録）	30 分	
第 4 回	感染予防の援助：感染源への対策、感染経路の遮断	山田【講義】	援助の動画視聴とイメージ化	30 分	
第 5 回	感染予防の援助：隔離法、ガウンテクニック	全員【演習】	援助の動画視聴とイメージ化	30 分	
第 6 回	感染予防の援助：滅菌手袋の着脱、無菌操作	全員【演習】	演習の事後評価（演習記録）	30 分	
第 7 回	バイタルサインの観察・測定：体温・脈拍・呼吸のアセスメント	恒松【講義】	援助の動画視聴とイメージ化	30 分	
第 8 回	バイタルサインの観察・測定：血圧のアセスメント	三次【講義】	援助の動画視聴とイメージ化	30 分	
第 9 回	バイタルサインの観察・測定：意識状態、アセスメント、記録、報告	恒松【講義】	記録・報告の意義と方法	30 分	
第 10 回	バイタルサインの観察・測定：体温・脈拍・呼吸・血圧（触診法）	全員【演習】	演習の事後評価（演習記録）	30 分	
第 11 回	バイタルサインの観察・測定：血圧測定（聴診法）	全員【演習】	演習の事後評価（演習記録）	30 分	
第 12 回	体温異常のある患者の援助：褥法、寝具調整	恒松【講義】	褥法の目的・方法の復習	30 分	
第 13 回	バイタルサインの観察・測定：実技評価	全員【演習】	技術練習	240 分	
第 14 回	体温異常のある患者への援助：事例提示、計画立案	全員【演習】	援助計画立案と準備	30 分	
第 15 回	体温異常のある患者への援助の実施・評価	全員【演習】	援助の実施・評価	30 分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学 基礎看護技術 1・2、メヂカルフレンド社、2021 ※生活援助技術Ⅰと共通テキストである。				
参考書	看護がみえる VOL1 基礎看護技術、メディックメディア、2018				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (60%) 実技評価 (20%) 個人課題 (20%)	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標に対する達成度を正答率で評価する。 指定する実技に対してルーブリック評価表に基づいて評価する。 演習後の記録の提出状況と記述内容を評価し、授業後の小テストの正答を点数化する。 以上の総合得点の6割以上が履修単位修得の基準とする。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 授業の質問や感想および授業後の小テストの正答については、電子シラバスの掲示板を通じてコメントまたは回答する。 演習後のレポートは、教員がコメントを入れて返却する。 実技評価後は、実技の到達水準に達するまで指導を行う。

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅看護概論 NUS1125MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 地域で生活する人々とその家族を理解し、様々な場における看護職の役割について理解する。</p> <p>2) 地域で生活するあらゆる健康段階の人々を支援する在宅看護の目的や課題について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 現代の社会的背景と関連付けて、地域で生活する人々の暮らしを支える在宅看護の必要性和目的について説明できる。</p> <p>2) 地域における在宅看護の役割と機能、在宅看護活動の特徴について説明できる。</p> <p>3) 在宅看護を展開するための基本理念及び在宅看護特有の倫理問題に関心をもって述べる事ができる。</p>				
授業概要	在宅療養者の「暮らし」「生活」を支えることの意義について考察を深め、少子高齢社会が求める地域・在宅における看護職の役割について、協同学習を通して自分なりの看護観を明確にできることを目指す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護が対象とする地域と生活 地域・在宅看護における「生活」「暮らし」とは 地域の特性に応じた生活と健康の関連性	- 協同学習 - 渡邊【講義】 GW・発表 DVD 視聴 「訪問看護の実際」		各回 30分 ～ 60分	
第2回	地域・在宅看護が目指す役割と機能 社会的背景と国民の価値の変容 地域包括ケアのさらなる推進	- 協同学習 - 山下【講義】	【予習】 提示された講義内容のテキストの範囲を読んで質問したい内容を明確にして講義に臨む。		
第3回	地域・在宅看護の基盤 在宅看護の特徴・対象者・看護とサービス提供機関	- 協同学習 - 森永【講義】	【復習】 テキスト・講義資料と自分のノートを振り返り理解を深める。さらに疑問などがあれば、教員に質問して明確にする。		
第4回	「病院看護」と「地域・在宅看護」のそれぞれが目指す看護の役割 (病院看護と在宅看護を経験している訪問看護師2名)	- シンポジウム - 渡邊【講義】			
第5回	療養者を介護する家族にとっての在宅看護の意義 (訪問看護の利用経験のある家族2名)	- シンポジウム - 渡邊【講義】			
第6回	在宅看護を展開するための基本理念 セルケア理論・保健行動理論・アドボカシー	- 協同学習 - 森永【講義】			
第7回	地域療養を支える在宅看護の役割・機能 自立・自律支援 病態の予測と予防	- 協同学習 - 山下【講義】			
第8回	在宅看護特有の倫理問題	- グループディスカッション - 渡邊【講義】			
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022年版)				
参考書	・日本在宅ケア学会 在宅ケア学第1巻～第6巻 株式会社ワールドプランニング 2015年				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（50%） 課題レポート（30%） 受講態度（20%）	筆記試験：到達目標1) 2) 3) の達成度を正答率で評価する。 レポート：到達目標1) 2) 3) の知識を元に「地域の在宅看護職の役割について」の講義内容を引用して具体的に記述されているか、自分の考えが明確に記述されているか、指示された字体・字数などレポートの形式で記述されているか3項目各10点で評価する。 意欲・関心：到達目標1)～3) について各講義内容の中から自分が特に興味を持った内容を引用し具体的に感想・質問及び自分の考えが記述されているか毎回0～2点で評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	2年次の地域・在宅生活支援論の講義初回で返却し科目間の連続性を認識する。

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護学概論 PHN1111MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	2単位		
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子						
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、徳澤 麻梨子 非常勤講師 矢島 由紀 (ゆきデンタルクリニック院長) 非常勤講師 土井 巧 (朝倉市役所 保健師)						
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。						
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。						
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域で生活する人々の健康と生活をまもり、QOLの向上を目指す公衆衛生看護について学ぶ。地域で生活している人々、健康、環境、看護の関連を理解したうえで、地域を基盤に行われる看護活動の基本的な考え方や発展の歴史、活動の基になる法体系や制度を学び、コミュニティを対象とした看護の役割と機能について理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護の理念、対象、場の特性と変遷について説明できる。 2) 地域で生活する人々の健康に影響を与えている環境と保健活動について説明できる。 3) 公衆衛生看護活動の展開方法について説明できる。 4) 公衆衛生看護活動に関する法令・関係職種について説明できる。 5) 公衆衛生看護活動に活用される基本的な理論・モデルを説明できる。 6) 産業保健活動、学校保健活動の対象・活動の特性について説明できる。 7) 地域保健活動における看護職の役割・機能について説明できる。 						
授業概要	講義と事例のワークシートを用いた演習で構成する。演習は、各自のワーク後、学習内容を学生自らの言葉で他者に説明し理解を深めるグループワークを行う。						
授業計画							
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間			
第1回 第2回 第3回	公衆衛生の定義、健康の定義 公衆衛生の歴史 公衆衛生の理念	重松【講義】 重松【講義】 重松【講義】	健康・公衆衛生 日本の歴史と公衆衛生 ヘルスプロモーション・プライマリヘルスケア	各講義前にテキストを読むこと(20-30分)、疑問点を明らかにして臨む。終了後は、15-20分用語の復習をして知識を確実にしておく。			
第4回 第5回	公衆衛生行政の仕組み 公衆衛生の活動・対象	重松【講義】 重松【講義】	保健所、市町村、地区組織 コミュニティアズパートナーモデル・ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ				
第6回	公衆衛生看護の基盤となる概念	重松【講義】	アドボカシー・エンパワメント・社会的公正・協働				
第7回	公衆衛生看護の歴史・倫理	重松【講義】	日本の歴史と看護・倫理綱領				
第8回	公衆衛生看護の機能と技術の特徴	重松【講義】	対象と場の特性				
第9回	個人・家族の保健指導技術	重松【講義】	生活支援・アウトリーチ				
第10回	公衆衛生看護活動の実際	土井【講義】	家庭訪問・保健指導技術				
第11回	地域・集団を対象とする公衆衛生看護活動の展開	重松【講義】	地域組織活動・システム化				
第12回	口腔歯科保健の意義	矢島【講義】	口腔歯科保健				
第13回	産業保健活動 (産業保健・産業看護の定義)	佐藤【講義】	産業看護活動				
第14回	学校保健活動 (学校保健の目的・機能)	徳澤【講義】	学校保健の役割と動向				
第15回	公衆衛生看護活動とは	重松【講義】	公衆衛生看護の特徴				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 2024 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 2022						
参考書	なし						
成績評価							
方法 (割合)	基準						
筆記試験 (70%) レポート (30%)	到達目標 1) 3) 4) 5) 6) について到達目標を筆記試験の正答率で評価する。 到達目標 2) 7) について、ワークシートとレポートの内容で評価する。						
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題 (レポート等) は評価コメントを講義時間内に返却する。						

科目名 ナンバリングコード	生活支援実習 NUS1423MN1	必修科目	1年次 2学期	実習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、他専任教員13名				
教員の実務経験	本科目は専門分野における実務経験を有する者の指導を得て進める。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉の対象となる人々を生活者として全人的にとらえようとする姿勢を身につける。 2) 地域の多様な場で活動する看護職者の役割について学ぶ。 3) 看護職者に求められる倫理的態度を身につける。 <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉施設を利用する人々の生活の場や受診状況、思いについて説明できる。 2) 保健医療福祉活動に関わる職種とその役割・機能について説明できる。 3) 多様な場面を見学し看護活動に参加できる。 4) 看護者の思いや考えにふれ看護職者の責任について考えたことを述べる。 5) 患者・利用者とその家族を尊重した態度で接することができる。 6) 看護学生として自己管理し責任ある行動をとることができる。 7) 実習の体験から自己の学習課題を明らかにする。 				
授業概要	看護学生にとってはじめての臨地実習である。一人2か所の保健医療福祉施設で、患者・利用者、看護職者と積極的に関わり学ぶ。実習の準備を十分行うことで、落ち着いて実習に参加できるため、オリエンテーションや事前学習への取り組みが重要である。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
実習期間： 2024年9月2日（月）～ 9月6日（金） 1週間（45時間） 実習場所： 学内施設； 久留米大学病院 久留米大学医療センター 学外施設； 病院等4施設 診療所16施設	<ol style="list-style-type: none"> 1) 施設のオリエンテーションや各場面の説明を受け、患者・利用者の特徴について知る。 2) 施設のオリエンテーションを受け、施設内を見学する。各職種の役割、看護者との連携について知る。 3) 看護師が行う患者・利用者とのコミュニケーションに参加し、対象者の受診状況、受診への思い、生活状況、社会背景について理解を深める。 4) 医療スタッフと共に行動し、看護場面を見学し看護活動に参加する。 5) 看護実践における看護師の考えや思いを聴く。 6) 自身の体調、身だしなみを整え、感染防止、個人情報保護に努め、報告・連絡、相談などを徹底する。 7) 毎日の実習内容を記録やカンファレンスをとおして振り返り、学びを整理する。実習のまとめでは、2施設での実習の体験を他者と共有し、看護についての理解を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習； 1) 保健医療福祉活動に関わる職種とその役割について 2) 実習施設の課題 3) 関連科目の復習 他 2. 事前オリエンテーション； 事前のオリエンテーションに必ず出席する。 3. 実習中； 毎日、実習計画を立てて臨む。実習後は、見学・体験した内容と学んだことについて指定の用紙に記録する。 	60分	90分	90分
テキスト	なし				
参考書	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学②③ 基礎看護技術I・II，メヂカルフレンド社，2021（購入済）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	到達目標の達成状況をルーブリックにて評価する。 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢についてルーブリックにて評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	毎日の実習記録は添削後、コメントを返す。				

科目名 ナンバリングコード	英語Ⅱ FLE1352MN3	必修科目	2年次 Aクラス1学期 Bクラス2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 藤原 恵子				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際社会の医療現場で必要とされる英語の専門用語を習得するとともに、海外からの患者にも対応した、英語能力（リスニング、ライティング）を養成する。 2) 看護や医療に関連する英語長文の読解を通して、看護実践や研究に必要な基礎知識を身につけ、英文読解力（リーディング）を向上させる。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護・医療に関連する教科書等を必要な時に読みこなし説明できる。【知識・理解】 2) 看護で必要とされる基本的な定型会話フレーズや看護・医療英語を述べるができる。【知識・理解】 3) 基本的な定型フレーズを実際に聞いたり、書いたりすることができる。【態度・習慣】 				
授業概要	<p>本授業では、約 60 名の学生のクラスに対して、「看護英語」の 4 技能教科書（リスニング・ライティング・リーディング・スピーキング）と看護英語練習帳（定型フレーズ）を使用し、リスニング・ライティング・リーディングの解答を学生が答え看護英語・医療関連用語を習得する。看護英会話をペアで練習する（スピーキング）そして毎回2つのペアが発表。また、医療関連の長文を読み英文読解力を向上させ（リーディング）、英語での看護コミュニケーションに慣れる。最終授業では、医療関連英語のカルタ取りを行う。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
A ク ラ ス	第 1 回 Introduction to this course, Unit 1: 医療関係の職業 第 2 回 Unit 2: 病院での同僚、身体（外側） 第 3 回 Unit 3: 健康診断、身体（骨、筋肉） 第 4 回 Uni 4: 電話、身体（内臓） 第 5 回 Unit 5: 救急、病院の科の名称 第 6 回 Unit 6: 診察、病院関連 第 7 回 Unit 7: 病院の受付、症状（痛みなど） 第 8 回 Unit 8: 待合室、病気（1） 第 9 回 Unit 9: 友人、病気（2） 第 10 回 Unit10: 病室、病気（3） 第 11 回 Unit11: 旅行前、病気（4） 第 12 回 Unit12: 病院、治療・手術 第 13 回 Unit13: 病院で迷った人、薬剤関連 第 14 回 Unit14: 入院、医療関係の道具 第 15 回 まとめ	藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】	予習： 授業で取り上げるUnitの予習（リスニング・長文読解医療・看護英語）をする。 復習： 小テストを受ける 教科書と「看護英語の練習帳」のUnitを復習し、医療英語と看護英語を覚える。	予習 毎回 30分 復習 毎日 30分	
B ク ラ ス	第 1 回 Introduction to this course, Unit 1: 来院 第 2 回 Unit 2: 初診受付 第 3 回 Unit 3: 生活習慣を聞く 第 4 回 Unit 4: 問診（1） 第 5 回 Unit 5: 脈拍、血圧、体重の測定 第 6 回 Unit 6: 採血、採尿 第 7 回 Unit 7: 診断（1） 第 8 回 Unit 8: 問診（2） 第 9 回 Unit 9: 症状をより詳しく聞く 第 10 回 Unit10: 診断（2） 第 11 回 Unit11: 薬の説明 第 12 回 Unit12: 問診（3） 第 13 回 Unit13: MRI を受ける 第 14 回 Unit14: 手術を勧める 第 15 回 まとめ	藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】	予習： 授業で取り上げるUnitの予習（リスニング・長文読解・医療・看護英語）をする。 復習： 小テストを受ける 教科書と「看護英語の練習帳」のUnitを復習し、医療英語と看護英語を覚える。	予習 毎回 30分 復習 毎日 30分	
※但し、受講生の活動状況によって、進度調整するなど、若干の変更をする場合もある。					

テキスト	Aクラス：笹島 茂 他 著 “Take Care” 三修社 2018 年 井上真紀 著 看護英語の練習帳 萌文書林 2018 年 Bクラス：樋口晶彦 他 著 “First Aid” 金星堂 2019 年 井上真紀 著 看護英語の練習帳 萌文書林 2018 年	
参考書	英和辞典、電子辞書、オンライン辞書：Weblio 辞書	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験の成績（50%）	1. 学期中に学んだ英会話表現や医療英語と看護英語を知っていて聞くことや書くことができ、医療・看護関連英語長文を読みこなせる。	
受講態度（30%）	2. 指示どおりの予習復習、発表や適切な回答、ペア活動に取り組み、授業に積極的に受講する態度。	
小テスト成績（20%）	3. 授業外での Web において復習具合を小テストで医療・看護英語文をチェック。	
課題（レポート等）に対するフィードバック	小テストは、Hondana で実施し、フィードバックします。	

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅡ FLE1362MN3	必修科目	2年次 B1ｸﾗｽ1学期 A1ｸﾗｽ2学期	講義	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 キャスリーン ブラウン				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	This oral communication course will prepare nurses to communicate with English speaking patients (e.g. foreign residents, tourists, and medical tourists). 教育目標 The goal of the course is for students to become more confident about using English with patients in a medical setting. 到達目標 Students will learn vocabulary and phrases to communicate with patients and family members.				
授業概要	Students will actively practice the target language through listening, shadowing, and doing role-plays.				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）		
第 1 回	Course Overview/ Online registration	ブラウン【講義】	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom registration, syllabus, and the need for English in Japan will be explained on the first day. ・All homework is online. ・Speaking assessments are online. ・Students' attitudes to learning and other students will affect grades. ・身体障害または学習障害のある学生は、シャーロット ムラカミ先生に連絡してください。 		
第 2 回	Asking for personal details	ブラウン【講義】			
第 3 回	Asking about pain/ Types of pain	ブラウン【講義】			
第 4 回	Types of pain / Pain scale	ブラウン【講義】			
第 5 回	Speaking Assessment 1	ブラウン【講義】			
第 6 回	Giving vital sign readings	ブラウン【講義】			
第 7 回	Taking vital signs / Making requests	ブラウン【講義】			
第 8 回	Taking vital signs / Explaining inhaler usage	ブラウン【講義】			
第 9 回	Assessing ADLs / Showing empathy	ブラウン【講義】			
第 10 回	Speaking Assessment 2	ブラウン【講義】			
第 11 回	Assessing patient elimination	ブラウン【講義】			
第 12 回	Asking about bodily functions	ブラウン【講義】			
第 13 回	Giving advice about diet/exercise	ブラウン【講義】			
第 14 回	Speaking Assessment 3	ブラウン【講義】			
第 15 回	Course Review/ Feedback	ブラウン【講義】			
テキスト	English for Nursing 2 (2012), ISBN 978-1-4082-6994-7, Authors: Ros Wright & Maria Spada Symonds. Publisher: Pearson				
参考書	必要あるアプリ : Flip, Google Classroom, Google ドキュメント, Google ドライブ				
成績評価					
方法（割合）	基準				
Participation (15%) Speaking Assessments (50%) Homework (35%)	<p>Google Classroom では、コースにおけるフィードバックと総合成績を確認することができます。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅡ FLE1362MN3	必修科目	2年次 B2ｸﾗｽ1学期 A2ｸﾗｽ2学期	講義	1単位
科目責任者	外国語教育研究所 准教授 シャーロット ムラカミ				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>This oral communication course will prepare nurses to communicate with English speaking patients (e.g. foreign residents, tourists, and medical tourists).</p> <p>教育目標 The goal of the course is for students to become more confident about using English with patients in a medical setting.</p> <p>到達目標 1) Students will learn vocabulary and phrases to communicate with patients and family members.</p>				
授業概要	Students will actively practice the target language through listening, shadowing, and doing role-plays.				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）		
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>Course Overview/ Online registration</p> <p>Asking for personal details</p> <p>Asking about pain/ Types of pain</p> <p>Types of pain / Pain scale</p> <p>Speaking Assessment 1</p> <p>Giving vital sign readings</p> <p>Taking vital signs / Making requests</p> <p>Taking vital signs / Explaining inhaler usage</p> <p>Assessing ADLs / Showing empathy</p> <p>Speaking Assessment 2</p> <p>Assessing patient elimination</p> <p>Asking about bodily functions</p> <p>Giving advice about diet/exercise</p> <p>Speaking Assessment 3</p> <p>Course Review/ Feedback</p>	<p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p> <p>村上【講義】</p>	<p>・Google Classroom registration, syllabus, and the need for English in Japan will be explained on the first day.</p> <p>・All homework is online.</p> <p>・Speaking assessments are online.</p> <p>・Students' attitudes to learning and other students will affect grades.</p> <p>・身体障害または学習障害のある学生は、村上に連絡してください。</p>		
テキスト	English for Nursing 2 (2012), ISBN 978-1-4082-6994-7, Authors: Ros Wright & Maria Spada Symonds. Publisher: Pearson				
参考書	必要あるアプリ : Flip, Google Classroom, Google ドキュメント, Google ドライブ				
成績評価					
方法（割合）	基準				
Participation (15%) Speaking Assessments (50%) Homework (35%)					
課題（レポート等）に対するフィードバック	Google Classroom では、コースにおけるフィードバックと総合成績を確認することができます。				

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅲ BMS2416MN3	必修科目	2年次 1学期	実習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 田平 陽子、范 綾				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標：</p> <p>1) 系統解剖学実習（医学科2年生実施）の見学を中心に、人体全体や臓器および組織を観察し、人体の成り立ちを学ぶ実習を実施することにより、これまでに学んだ知識を統合し、総合的に説明できる。</p> <p>2) 御献体を通じて、死および生命の倫理や尊厳に対する考えを身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 人体の構造と機能を総合的に理解し、説明できる。</p> <p>2) 死および生命の尊厳を深く理解し、看護の倫理へと結びつけることができる。</p>				
授業概要	医学部医学科2年生で実施されている系統解剖学実習を見学し、人体構造を観察し、所見をとり、レポートを作成する。予習、復習を兼ねて課題を課すこともある。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>系統解剖学実習 ガイダンス： 系統解剖学実習とは、献体とは、見学諸注意、レポートについて</p> <p>見学Ⅰ 体幹背面の観察（皮膚から浅背筋層） 見学Ⅰ 体幹背面の観察（深背筋層） 見学Ⅱ 頸胸腹部深層の観察 見学Ⅱ 胸腹部内臓全体像の観察 見学Ⅲ 胸腹部内臓 各臓器の観察1 見学Ⅲ 胸腹部内臓 各臓器の観察2</p> <p>*解剖体慰霊祭：5月21日午後大学にて全員参加</p> <p>見学Ⅳ 各臓器の観察3 見学Ⅳ 各臓器の観察4 見学Ⅴ 上下肢の観察 見学Ⅴ 骨盤内の観察 見学Ⅵ 納棺 見学Ⅵ 骨学実習 見学Ⅶ 脳、脊髄（中枢神経系）の観察 見学Ⅶ 眼球、内頭蓋底の観察</p>	<p>嵯峨【実習】</p> <p>嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】</p> <p>嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨・田平・范【実習】 嵯峨【実習】 嵯峨【実習】 嵯峨【実習】</p>	<p>実習見学前に1年生で学んだことを復習し、ガイダンスで説明する見学範囲の予習をしっかりと行うこと。また、御献体の意義や献体される篤志家の方々およびご遺族のお気持ちをしっかりと理解した上で、実習に臨んで欲しい。さらに、実習や慰霊祭に際しては、久留米大学の学生として、又、実習を行っている学生として献体された方やご遺族に対して失礼のないように服装や髪型等をきちんと整えた上で、言葉遣いにも留意して欲しい。</p>	各4～5時間	
テキスト	(からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト) 坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」医学書院 2022				
参考書	(からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱの参考書と同様) 藤本淳監修「ビジュアル解剖生理学」ヌーヴェルヒロカワ 2003 佐伯由香、黒澤美枝子、細谷安彦、高橋研一、桑木共之編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能」原書10版 丸善 2002				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（40%） レポート（40%） 実習態度（20%）	<p>筆記は、実習を中心とした知識の取得、整理がなされていることを評価する。</p> <p>レポートは、形成的評価とする。</p> <p>実習態度は、マナーや身繕いの状態、実習への積極的な取り組みを評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは、評価後返却する。				

科目名 ナンバリングコード	社会福祉と社会保障 SWS2110MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	文学部 教授 片岡 靖子				
教員の実務経験	医療機関、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所のソーシャルワーカーおよび介護支援専門員として社会福祉法及び社会保障制度活用してきた実務経験をもとに、臨床現場での具体的事例を踏まえながら講義を展開する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の①生命・人の尊厳を護る基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>今日の国民生活において生存権の実現を目指す社会福祉・社会保障は、欠かすことのできない社会制度である。この制度の理念・体系・歴史を理解し、社会福祉・社会保障の枠組みを明らかにする。また、近年の動向として介護保険制度や障害者総合支援法、年金・医療制度などの現状と課題、政策動向を総合的に検討する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会保障制度の理念・体系・歴史を理解し、説明することができる。 2) 各制度の現状を理解し、課題や政策動向について述べるができる。 3) 生活を支える社会保障制度の全体像を理解し、臨床現場での活用について説明できる。 				
授業概要	事前学習課題を提示による反転学習を実施し、講義終了後の小テストを用いて、討議をとおして教育内容の理解促進を図る CC テスト法 (concept clarification test) により、知識と理解の定着を図る。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	社会保障制度	片岡【講義】	第 1 章 A の予習、復習	30 分	
第 2 回	社会福祉の法制度	片岡【講義】	第 1 章 B の予習・復習	30 分	
第 3 回	現代社会の変化	片岡【講義】	第 2 章 A の予習・復習	30 分	
第 4 回	社会保障・社会福祉の動向	片岡【講義】	第 2 章 B の予習・復習	30 分	
第 5 回	医療保障制度の沿革 / 医療保障制度の構造と体系	片岡【講義】	第 3 章 A と B の予習・復習	30 分	
第 6 回	健康保険と国民保険	片岡【講義】	第 3 章 C の予習・復習	30 分	
第 7 回	高齢者医療制度	片岡【講義】	第 3 章 D の予習・復習	30 分	
第 8 回	保険診療のしくみ / 公費負担医療 / 国民医療費	片岡【講義】	第 3 章 EFG の予習・復習	30 分	
第 9 回	介護保障	片岡【講義】	第 4 章の予習・復習	30 分	
第 10 回	所得保障	片岡【講義】	第 5 章の予習・復習	30 分	
第 11 回	公的扶助	片岡【講義】	第 6 章の予習・復習	30 分	
第 12 回	高齢者福祉 / 障害者福祉	片岡【講義】	第 7 章 A と B の予習・復習	30 分	
第 13 回	児童家庭福祉	片岡【講義】	第 7 章 C の予習・復習	30 分	
第 14 回	社会福祉援助とは	片岡【演習】	第 8 章 A ～ E の予習・復習	30 分	
第 15 回	社会福祉実践と医療・看護の連携 (まとめ)	片岡【演習】	第 8 章 F ～ H の予習・復習	30 分	
テキスト	福田素生編 (2023) 『健康支援と社会保障制度 (3) 社会保障・社会福祉』 医学書院				
参考書	『社会福祉六法』 関係法規集を所持しているものは、講義に持参する。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
受講態度 (20%)	講義への積極的な参加態度・意欲などを評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題レポートへのフィードバックを行う。				

科目名 ナンバリングコード	免疫 BMS1117MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	医学部免疫学講座 教授 溝口 充志				
科目担当者	医学部免疫学講座 溝口 恵美子、小松 誠和、岡田 季之				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 看護を实践する基本的な知識を身につけるために、免疫系のしくみを分子レベルで理解し、免疫と疾患との関連性について理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 免疫応答を説明できる。 2) 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 3) 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 4) 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。 5) 免疫系に作用する薬の作用、機序、適応、有害事象を説明できる。 				
授業概要	講義に協同学習を取り入れながら授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	1章. 自己認識の必要性	溝口充【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第2回	2章. 抗原とレセプター	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第3回	3章. 感染に対するバリアー	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第4回	4章. 自然免疫系を構成する細胞群	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第5回	5章. 自然免疫の働き	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第6回	6章. 獲得免疫に関与する分子	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第7回	7章. 細胞と臓器	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第8回	8章. 免疫多様性の形成：リンパ球抗原レセプター	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第9回	9章. リンパ球の分化	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第10回	10章. リンパ球の活性化	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第11回	11章. リンパ球の機能	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第12回	12章. 獲得免疫応答の制御	溝口恵【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第13回	13章. 健康の維持：自然免疫と獲得免疫による健康管理	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第14回	14章. 過敏反応	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第15回	15章. 免疫不全	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第16回	16章. 自己免疫	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第17回	17章. 移植	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第18回	18章. 免疫薬物治療	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第19回	19章. 腫瘍免疫	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第20回	20章. 免疫機能の測定	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
テキスト	リップスコットシリーズイラストレイテッド免疫学原書2版、矢田純一/高橋秀実監訳、丸善株式会社 令和5年3月20日発行				
参考書	ジェンウェイ免疫生物学原書第9版、笹月健彦・吉開泰信監訳、南江堂 令和元年3月15日発行				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 授業へ積極的に参加する姿勢などをポイント化して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	学習管理システム“Hondana”などを介して、状況に応じてフィードバックを行う。				

科目名 ナンバリングコード	疫学 SBM2111MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生活動を行うために必要な疫学的思考、知識、技能の基本を学ぶ。 2) 臨床場面や保健政策で活用できる疫学手法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護で求められる疫学的な考え方を述べるができる。 2) 疫学研究の立案、実行、データ集約と解析、結果の解釈や問題点について説明できる。 3) 看護研究で求められる疫学研究手法を適切に活用できる。 				
授業概要	講義中に配布資料の穴埋めを行う等の形式で学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	疫学とは何か	松本【講義】	テキスト1章	予習・復習 それぞれ 30分程度	
第2回	基本的な疫学用語、因果関係	松本【講義】	テキスト2章、10章		
第3回	疫学で用いられる指標—頻度の測定	松本【講義】	テキスト3章		
第4回	疫学で用いられる指標—頻度の比較	松本【講義】	テキスト3章		
第5回	疫学研究を始める前に	松本【講義】	テキスト4章		
第6回	スクリーニング	松本【講義】	テキスト11章		
第7回	バイアスと交絡	松本【講義】	テキスト9章		
第8回	記述疫学、横断研究、症例対照研究	松本【講義】	テキスト5章、6章		
第9回	コホート研究、介入研究、生命表	松本【講義】	テキスト6章、7章、15章		
第10回	疫学指標の算出に関する演習	松本【講義】	指標の計算方法の復習		
第11回	演習の解説、疫学研究と倫理	松本【講義】	テキスト18章		
第12回	情報収集方法、情報処理、疫学で用いられる統計学的方法とその解釈	松本【講義】	テキスト12章、13章、14章		
第13回	保健統計調査、診療関連データベース	松本【講義】	テキスト16、17章		
第14回	システムティックレビュー	松本【講義】	テキスト8章		
第15回	総括	松本【講義】	全体の総復習		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・はじめて学ぶやさしい疫学・改訂第3版（日本疫学会監修、南江堂、2023年） 				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・基本からわかる看護疫学入門・第3版（大木秀一、医歯薬出版、2021年） 				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	症候学 CLM1111MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	医学部看護学科 古村 美津代、崎浜 智子、桐明 あゆみ、姫野 深雪、孫田 千恵				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療現場において遭遇する主要な症状について、その前兆から発症に至るまでのメカニズムについて系統的に学ぶ。 2) 自覚症状や徴候から観察の視点とメカニズムとの関連を理解し、症候への看護を考える。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 解剖・生理学、病理学を統合して、症候（自覚症状や徴候）を手がかりに疾患や病態との関連を述べることができる。 2) 症候の成り行きについて観察する視点を述べることができる。 3) 症候に基づく看護援助の必要性と実施時の留意点等について述べるができる。 				
授業概要	<p>形式1：講義中に配布資料の穴埋めを行う等の形式で学習を進めていく。</p> <p>形式2：与えられた課題についてディスカッションをしながら学習を進めていく。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	ガイダンス	松本【講義】	テキスト①の序文を読んでおく。	予習・復習 それぞれ 30分程度	
第2回	胸痛、動悸、ショック	松本【講義】	テキスト① Title B-1, B-2		
第3回	循環器系の看護観察と看護援助	崎浜【講義】	第2回の講義を復習しておく。		
第4回	尿の異常、脱水、浮腫	松本【講義】	テキスト① Title G-1, G-2		
第5回	腎臓系、浮腫の看護観察と看護援助	孫田【講義】	第4回の講義を復習しておく。		
第6回	悪心・嘔吐、吐血、便秘異常	松本【講義】	テキスト① Title C-1, C-2		
第7回	腹水、黄疸	松本【講義】	テキスト① Title D-1, D-2		
第8回	消化器系の看護観察と看護援助	孫田【講義】	第6～7回の講義を復習しておく。		
第9回	代謝・内分泌異常	松本【講義】	テキスト① Title E/F/M-1, E/F/M-2		
第10回	呼吸異常、喀痰、チアノーゼ、胸水	松本【講義】	テキスト① Title A-1, A-2		
第11回	呼吸器系の看護観察と看護援助	桐明【講義】	第10回の講義を復習しておく。		
第12回	意識障害、自律神経障害	松本【講義】	テキスト① Title H/R-1, H/R-2		
第13回	高次脳機能障害	松本【講義】	テキスト① Title H-1, H-2		
第14回	運動・感覚障害、疼痛	松本【講義】	テキスト① Title H/L-1, H/L-2		
第15回	脳・神経系の看護観察と看護援助	古村【講義】	第12～14回の講義を復習しておく。		
第16回	貧血、出血傾向	松本【講義】	テキスト① Title I-1, I-2		
第17回	血液系の看護観察と看護援助	姫野【講義】	第16回の講義を復習しておく。		
第18回	発熱、発疹、リンパ節腫脹	松本【講義】	テキスト① Title J/K/P-1, J/K/P-2		
第19回	感染症の看護観察と看護援助	崎浜【講義】	第18回の講義を復習しておく。		
第20回	視力・視野障害、めまい、耳鳴	松本【講義】	テキスト① Title N/O-1, N/O-2		
第21回	精神異常、睡眠障害	松本【講義】	テキスト① Title Q-1, Q-2		
第22回	総括	松本【講義】	全体の復習をしておく。		
テキスト	①看護のための臨床病態学・改訂5版（浅野嘉延・吉山直樹編、南山堂、2023年） ②配布資料				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程に沿った対症看護・第5版（高木永子監修、Gakken、2021年） ・根拠がわかる症状別看護過程・改訂第4版（百瀬千尋、井澤晴美編集、南江堂、2023年） ・ナーシンググラフィカ・病態生理学・第7版（山内豊明編集、メディカ出版、2023年） 				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（90%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート提出は求めない。

科目名 ナンバリングコード	疾病治療論I CLM2112MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	放射線医学講座：田上 秀一、淡河 恵津世 麻酔学：木本 義敬 臨床工学センター：吉田 圭介 内科学講座：((消化器内科) 森田 俊、(心臓血管内科) 本間 文博 (内分泌代謝内科) 本村 誠一 (血液腫瘍内科) 長藤 宏司 外科学講座：(小児外科) 加治 健 (心臓血管外科) 金本 亮 (呼吸器外科) 横山 新太郎 (胃・大腸外科) 仕垣 隆浩				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標到達目標	教育目標 1) 病める人を治すだけでなく、治し癒す方法論を幅広く学ぶ。 2) 臨床各科の代表的な疾患の診断のポイント、治療および治療上の観察点について学ぶ。 到達目標 1) 治療法の総論として、放射線療法、化学療法、輸液療法の概要を説明できる。 2) 各専門分野の主要疾患とその治療法について述べるができる。 3) 治療において、看護に必要な医学的基礎知識を述べるができる。				
授業概要	講義スライドおよび配布資料にて学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	放射線医学(放射線科) 放射線医学(放射線科) 化学療法(呼吸器内科) 輸液療法(小児外科) 麻酔法、周術期管理(麻酔科) 医療機器(臨床工学センター) 心臓血管内科疾患(心臓血管内科) 心臓血管外科疾患(心臓血管外科) 呼吸器外科疾患(呼吸器外科) 消化器内科疾患(消化器内科) 呼吸器内科疾患(呼吸器内科) 消化器外科疾患(胃・大腸外科) 内分泌代謝疾患(内分泌代謝内科) 血液疾患(血液腫瘍内科) 疾病治療(総括)	田上【講義】 淡河【講義】 松本【講義】 加治【講義】 木本【講義】 吉田【講義】 本間【講義】 金本【講義】 横山【講義】 森田【講義】 松本【講義】 仕垣【講義】 本村【講義】 長藤【講義】 松本【講義】	配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 テキスト① Title B-3, B-4 テキスト① Title B-3, B-4 テキスト① Title A-3, A-4 テキスト① Title C/D-3, C/D-4 テキスト① Title A-3, A-4 テキスト① Title C-3, C-4 テキスト① Title E/F-3, E/F-4 テキスト① Title I-3, I-4 全体の復習を行っておく。	予習・復習 それぞれ 30分程度	
テキスト	①看護のための臨床病態学・改訂5版(浅野嘉延・吉山直樹編、南山堂、2023年) ②配布資料(原則的に HONDANA に掲載)				
参考書	・ナーシンググラフィカ・疾病と治療・第3版(林正健二、山内豊明編、メディカ出版、2022年)				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(90%) 受講態度(10%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	疾病治療論Ⅱ CLM2113MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	精神神経学講座：佐藤 守 内科学講座：(呼吸器・神経・膠原病内科)井田 弘明 (腎臓内科)三ツ石 裕太 脳神経外科学講座：音琴 哲也 泌尿器外科学講座：井川 掌 産婦人科学講座：葉 高杉 小児科学講座：満尾 美穂 眼科学講座：嵩 翔太郎 整形外科学講座：松瀬 博夫 皮膚科学講座：堤 真宏 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座：黒岩 大海 救急医学講座：田代 恵太				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 病める人を治すだけでなく、治し癒す方法論を幅広く学ぶ。 2) 臨床各科の代表的な疾患の診断のポイント、治療および治療上の観察点について学ぶ。 到達目標 1) 各専門分野の主要疾患とその治療法について述べるができる。 2) 治療において、看護に必要な医学的基礎知識を述べるができる。				
授業概要	講義スライドおよび配布資料にて学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	膠原病・アレルギー疾患(膠原病内科) 精神神経疾患(精神神経科) 脳神経内科疾患(神経内科) 脳神経外科疾患(脳神経外科) 腎疾患(腎臓内科) 泌尿器科疾患(泌尿器科) 女性生殖器疾患(産婦人科) 小児科疾患①(小児科) 小児科疾患②(小児科) 眼科疾患(眼科) 骨疾患(整形外科) 皮膚科疾患(皮膚科) 頭頸部領域疾患(耳鼻咽喉科) 救急医療(救命救急センター) 疾病治療(総括)	井田【講義】 佐藤【講義】 松本【講義】 音琴【講義】 三ツ石【講義】 井川【講義】 葉【講義】 満尾【講義】 満尾【講義】 嵩【講義】 松瀬【講義】 堤【講義】 黒岩【講義】 田代【講義】 松本【講義】	テキスト① Title J-3, J-4 テキスト① Title Q-3, Q-4 テキスト① Title H-3, H-4 テキスト① Title H-3, H-4 テキスト① Title G-3, G-4 テキスト① Title G-3, G-4 テキスト① Title M-3, M-4 テキスト① Title K-3, K-4 テキスト① Title K-3, K-4 テキスト① Title N-3, N-4 テキスト① Title L-3, L-4 テキスト① Title P-3, P-4 テキスト① Title O-3, O-4 テキスト① Title R-3, R-4 全体の復習を行っておく。	予習・復習 それぞれ 30分程度	
テキスト	①看護のための臨床病態学・改訂5版(浅野嘉延・吉山直樹編、南山堂、2023年) ②配布資料(原則的にHONDANAに掲載)				
参考書	・ナーシンググラフィカ・疾病と治療・第3版(林正健二、山内豊明編、メディカ出版、2022年)				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(90%) 受講態度(10%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートの提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	臨床薬理 CLM1114MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部薬理学講座 教授 西 昭徳				
科目担当者	医学部薬理学講座 河原 幸江、首藤 隆秀、黒岩 真帆美、中村 祐樹 先進漢方治療センター 田中 聡子 大学病院薬剤部 石川 智子、高橋 誠、内藤 哲哉				
教員の実務経験	この科目は専門科目における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物治療に必要な臨床薬理学の基礎知識を身につける。 2) 薬物を治療目的で患者に投与する際に必要な知識を身につける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬理作用の本質、特に受容体を介した薬理作用について述べるができる。 2) 薬物の吸収、分布、代謝、排泄について述べるができる。 3) 薬物の副作用、薬物の反復応用や併用により出現する問題について述べるができる。 4) 基本的な薬物の作用及び作用機序、臨床応用、副作用について述べるができる。 5) 1)～4) を臨床で実践するための方法を述べるができる。 6) 薬学的管理について述べるができる。 				
授業概要	授業の理解を確認するため、授業内容に関する確認問題を解いてもらい、更に理解を深めてもらう。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	<p>薬理学の概念、薬物の種類、薬理作用、薬物受容体</p> <p>薬物の吸収・分布・代謝・排泄</p> <p>用量と薬理作用、応用法と薬理作用・薬害</p> <p>薬物の副作用、反復応用・薬物の併用でみられる作用</p> <p>自律神経作用薬 1</p> <p>自律神経作用薬 2・呼吸器作用薬</p> <p>生体内活性物質・鎮痛薬</p> <p>全身麻酔薬・局所麻酔薬・筋弛緩薬</p> <p>向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬）</p> <p>抗パーキンソン病薬・アルコール・中枢興奮薬</p> <p>抗てんかん薬・脳代謝賦活薬</p> <p>循環器作用薬・血液作用薬</p> <p>消化器作用薬・高脂血症治療薬</p> <p>ホルモン及び関連物質</p> <p>利尿薬</p> <p>抗生物質</p> <p>抗腫瘍薬</p> <p>漢方薬</p> <p>臨床薬理の実践(薬学的管理の実際:副作用・相互作用チェック等)</p> <p>臨床薬理の実践(薬学的管理の実際:インシデント事例等)</p> <p>臨床薬理の実践(がん化学療法臨床薬理)</p> <p>臨床薬理の実践(がん化学療法の実際)</p> <p>臨床薬理の実践(抗菌薬・消毒薬の適正使用と管理)</p>	<p>西 【講義】</p> <p>黒岩 【講義】</p> <p>黒岩 【講義】</p> <p>河原 【講義】</p> <p>中村 【講義】</p> <p>中村 【講義】</p> <p>河原 【講義】</p> <p>河原 【講義】</p> <p>首藤 【講義】</p> <p>首藤 【講義】</p> <p>首藤 【講義】</p> <p>河原 【講義】</p> <p>黒岩 【講義】</p> <p>西 【講義】</p> <p>中村 【講義】</p> <p>首藤 【講義】</p> <p>田中 【講義】</p> <p>石川 【講義】</p> <p>石川 【講義】</p> <p>高橋 【講義】</p> <p>高橋 【講義】</p> <p>内藤 【講義】</p>	<p>予習:テキストの該当項目を読んでおくこと。</p> <p>復習:習った内容を配布資料で確認し、理解を深めておくこと。</p>	各 20 分	
テキスト	柳田俊彦編集 薬の基本とはたらきがわかる薬理学 羊土社				
参考書	田中正敏著 「超図解 薬はなぜ効くか」 講談社				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(100%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	臨床栄養 NUS2413MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・実習	1単位
科目責任者	久留米大学病院栄養部 副部長補佐 山田 泰士				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 傷病者の病態・病期の特質や栄養状態に基づいた適切な栄養管理を実施するために、各種疾患の病気の原因や症状、病態、予後を理解した上で、栄養学的視点に立った治療法や予防法について学習し、傷病者への栄養支援に必要な栄養評価や栄養補給法についての知識・能力を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 傷病者に対する臨床栄養管理の意義と目的について説明できる。 2) 傷病者の病期・病態に基づいた食事計画の立案、調理など基本的な栄養管理を説明できる。 3) 傷病者の病態や栄養状態に応じた食事療法を提案できる。</p>				
授業概要	授業の理解を確認するため、講義終了時に講義内容に関する問題を各自で作成・提出を課す。提出された問題は、テストに出題する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	臨床栄養学の基礎知識 消化管の基礎知識と栄養療法 糖尿病、腎臓病の栄養食事療法、 肝疾患の栄養療法 入院患者の食事について 入院診療計画書と栄養管理計画書 サルコペニア・フレイルの栄養管理、 癌患者の栄養管理 栄養アセスメントとチーム医療	山田【講義】 山田【講義】 山田【講義】 山田【講義】 山田【実習】 山田【講義】 山田【講義】	看護師の視点から、得られる栄養学的情報や、症状を把握し、栄養マネジメントを理解し、復習しておく。 チーム医療の中での看護師の役割について予習しておく。	各 60 分	
テキスト	必要時、資料配布する。				
参考書	日本人の食事摂取基準 2020 年版 第一出版 2020 日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック 南光堂 2021 臨床栄養学基礎編第3版 羊土社 2022 糖尿病治療ガイド 2022-2023 日本糖尿病学会				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%） 提出物及び授業態度（20%）	到達目標の達成度を筆記試験の正答率で評価する。 提出状況と内容および授業態度で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	必要時課題を課す。				

科目名 ナンバリングコード	診療に伴う援助技術 NUS2235MN3	必修科目	2年次 Aクラス・Bクラス 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 前野 里子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子、三次 貴大、山田 泰子、専任教員1名				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察・検査・治療・処置における援助技術について、根拠に基づき安全に実施するための知識と援助方法を修得する。 2) 侵襲度の高い診療に伴う援助技術を行う看護師の役割を理解し、具体的行動を検討する態度を養う。 3) 援助技術を演習し、技術の目的達成や安全・安楽について評価する思考力を養う。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助技術の根拠について、解剖生理を基盤とした知識を踏まえて記述できる。 2) 援助技術を安全・安楽に実施するために必要な知識や具体的方法について記述できる。 3) 援助技術を行うための演習計画を立てることができる。 4) 演習した結果を技術の目的達成や安全・安楽の視点を踏まえて評価することができる。 5) 薬物療法に関する基本的な援助技術を実施することができる。 6) 診察・検査に関する基本的な援助技術を実施することができる。 7) 排泄機能障害のある患者の症状緩和に必要な援助技術を実施することができる。 8) 摂食嚥下機能障害のある患者の症状緩和に必要な援助技術を実施することができる。 9) 呼吸異常がある患者の症状緩和に必要な援助技術を実施することができる。 				
授業概要	主題に関する学習内容の説明を受けて、自己学習を行い講義演習に参加する。演習グループで協同的に学び合い、援助技術の根拠や方法の理解を深めて技術演習に臨む。対象の状況に応じた必要な援助技術やその方法を考え、実践するとともに実施した内容を評価し、さらによりよい援助技術の方法を検討する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	ガイダンス 学習の進め方	前野【講義】	シラバス確認	30分	
第2回	創傷管理：ドレッシング・包帯	前野【演習】	無菌操作・創傷管理	60分	
第3回	薬物療法／経口与薬・外用薬	三次【講義】	薬物療法	60分	
第4・5回	薬物療法／注射法、注射器の扱い方	三次【演習】	注射法	60分	
第6・7回	皮下注射・筋肉内注射	三次【演習】	皮下注射・筋肉内注射	60分	
第8・9回	薬物療法／静脈内注射、点滴	三次【演習】	静脈内注射、点滴	60分	
第10・11回	検査時の看護／検査の種類・静脈血採血	前野【講義】	検査の種類	60分	
第12・13回	検査時の看護／静脈血採血	前野【演習】	静脈血採血	60分	
第14回	導尿・膀胱留置カテーテル・浣腸	三次・山田【講義】	排泄機能障害の看護	60分	
第15・16回	導尿・膀胱留置カテーテル	三次【演習】	導尿・膀胱留置カテーテル	60分	
第17回	浣腸	山田【講義・演習】	浣腸	60分	
第18回	摂食嚥下機能障害の看護	前野【講義・演習】	摂食嚥下機能障害の看護	60分	
第19回	摂食嚥下障害の看護／経管栄養	前野【演習】	経管栄養	60分	
第20回	呼吸異常時の看護	三次【講義・演習】	呼吸異常時の看護	60分	
第21・22回	呼吸異常時の看護／吸入、吸引	三次【演習】	吸入、吸引	60分	
第23回	まとめ	前野【講義・演習】		60分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，マダカフレッド社（1年次購入分）				
参考書	授業内で紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60%）	達成度を正答率で評価する。				
実技課題（30%）	実技課題に対する看護援助技術の実践状況と考察について評価する。				
レポート（10%）	単元ごとのレポート（演習シート）の提出状況の評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題の予習・復習レポートを添削する。また、質問に適宜返答して返却する。				

科目名 ナンバリングコード	フィジカルアセスメント技術 NUS2234MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 河原田 康貴				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康状態を判断するための、フィジカルアセスメント技術を修得することができる。 2) フィジカルアセスメント技術を活用し、対象に必要な看護援助を明確化できる。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの目的、必要性、方法について説明できる。 2) フィジカルアセスメントの基本となる身体各部の解剖や生理について説明できる。 3) 身体各部の解剖や生理をもとに、身体を系統的に観察し、判断するためのフィジカルアセスメント技術を実践できる。 4) フィジカルアセスメントから得た情報をもとに、対象の健康状態を統合的に判断し、必要となる看護援助について考察することができる。 5) ポータブルエコーを用いたフィジカルアセスメントや看護援助への応用について知る。 				
授業概要	対象に適切な看護援助を行うためには、健康上の問題をいかに明確化できるかということが大きく影響する。本科目では、対象の健康状態を総合的に判断するためのフィジカルアセスメントとその技術について、講義や演習をとおして基本的知識と技術を学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2・3回 第4回 第5・6回 第7回 第8回 第9・10回 第11・12回 第13回 第14・15回	看護におけるフィジカルアセスメント 問診と基本となる共通の技術 外皮系のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルアセスメント演習 呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント演習 腹部のフィジカルアセスメント 脳・神経系のフィジカルアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント 腹部、脳・神経系のフィジカルアセスメント演習 症状別・徴候別フィジカルアセスメント	河原田【講義】 河原田【講義】 担当者全員【演習】 河原田【講義】 担当者全員【演習】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 担当者全員【演習】 河原田【講義】	各講義の前には必ずテキストを読み、関連する人体の構造や機能について、既習内容を十分に復習する。 さらに該当するレポート課題を解き、講義に臨む。 講義後は、学修した内容について復習し、技術については演習に向けて繰り返し練習する。	各回 30～60分	
テキスト	医療情報科学研究所編：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント、Medic Media、2022				
参考書	藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研メディカル秀潤社、2017 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる、医学書院、2011 阿部幸恵編：症状別 病態生理とフィジカルアセスメント、照林社、2015				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%） レポート（10%） 受講態度（10%）	定期試験によって、到達目標の達成度を評価する。 課題レポートの提出状況と内容をポイント化し、評価する。 講義・演習へ積極的に参加する姿勢（意見、質問等）等をポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートの返却・フィードバックは、講義の中で適宜行う。				

科目名 ナンバリングコード	人間関係方法論 NUS1233MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子、恒松 佳代子 大学病院耳鼻咽喉科 濱川 幸世				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象を理解し、信頼関係を構築できるコミュニケーション技術・態度を身につける。 2) 論理的に議論できるカンファレンスを運営、創造するスキルを身につける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係におけるコミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。 2) 人間関係に関する自己の課題を明らかにできる。 3) 対象者を理解するための聴き方、伝え方の技術を習得し、実践できる。 4) 看護の対象と援助的コミュニケーションをとることができる。 5) プロセスレコードで看護場面を再構成し、相互作用を分析・考察できる。 6) 言語的コミュニケーションが困難な人々とのコミュニケーション方法を選択できる。 7) 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。 8) カンファレンスにおける各役割を理解し、カンファレンスを実施できる。 				
授業概要	看護コミュニケーションと、カンファレンスから構成している。事例を用いたシミュレーション、カンファレンスの実践から、体験を通して看護師に必要なコミュニケーションについて学習する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>コミュニケーション 自己分析</p> <p>人間関係に関する看護理論</p> <p>患者・看護師関係①プロセスレコード</p> <p>事例：入院した患者（シミュレーション）</p> <p>事例：回復期の患者（シミュレーション）</p> <p>信頼関係の構築（看護理論の活用）</p> <p>患者とのコミュニケーション（実技まとめ）</p> <p>ノンバーバル・コミュニケーション</p> <p>患者・看護師関係②</p> <p>チームでの対話とグループダイナミクス</p> <p>司会・記録・参加者のスキル・トレーニング</p> <p>カンファレンス①</p> <p>カンファレンス②</p> <p>カンファレンス③</p> <p>看護コミュニケーション</p>	<p>舞弓【講義・演習】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓・福浦・松島【演習】</p> <p>舞弓・福浦・松島【演習】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓・福浦・松島他【演習】</p> <p>濱川【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓・福浦・松島【講義・演習】</p> <p>舞弓・恒松・福浦・松島【演習】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓・恒松・福浦・松島【演習】</p> <p>舞弓【講義】</p>	<p>第1回～第9回</p> <p>毎回の授業に関してワークブックを整理し、課題に関し考えを記載する。2つの事例について自己学習する。</p> <p>第10回～第14回は、カンファレンスの実践後、カンファレンスの運営、結論（内容）について評価する。</p>	各回 30分	
テキスト	人間関係方法論のワークブック（初回に配布、毎回持参する）				
参考書	<p>ヒルデガード・E・ペプロウ他著：人間関係の看護論，医学書院，1973</p> <p>宮本真巳編著：援助技法としてのプロセスレコード，精神看護出版，2003</p> <p>中野民夫・浦山絵里・森雅浩編著：看護のためのファシリテーション，医学書院，2022</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実技試験（40%） 筆記試験（60%）	<p>実技：患者との対話と、その場面をプロセスレコードで再構成したものを評価する。</p> <p>対人関係、看護理論、カンファレンスについて問題から出題する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	実技試験・プロセスレコードに関しては、第8回でフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	回復期援助技術 NUS2237MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 孫田 千恵				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、姫野 深雪、新 裕紀子、石橋 秋奈、山下 寛子 森永 明子、専任教員1名 大学病院リハビリテーション部 加藤 美津子、木村 太郎、鳥取 博 大学病院看護部 中村 信也				
教員の実務経験	本科目は看護領域における臨床経験のある専任教員、リハビリテーション部所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護部所属の呼吸療法認定士が、経験と職種の専門性を活かして担当する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 回復期の概念を理解し、疾病や障害をもった人が社会生活に再適応できるための看護師の役割や、回復期を支えるリハビリテーション看護、社会システム、社会資源について学ぶ。 回復期における対象の健康状態を理解し、QOLの再構築に必要な看護を考え、回復に向けた看護実践を学修する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康問題の治療過程と障害がもたらす身体的・精神的な影響について述べることができる。 回復期におけるリハビリテーション看護の役割について説明できる。 回復期の看護を展開するための概念（障害受容、セルフケア、ICF、ADL）について説明できる。 回復期を支える看護の方法について理解し、事例を通して必要な看護援助が記述できる。 リハビリテーションの基本的な知識を基に、回復期を支える援助技術が実践できる。 がんや治療に伴って生じる健康問題と看護援助について説明できる。 回復期に関連する法制度、リハビリテーション看護における倫理的課題について説明できる。 地域連携における看護師の役割および多職種との連携について述べるができる。 				
授業概要	健康障害のある人の回復過程や回復期におけるリハビリテーション看護を展開するために必要な概念を学び、代表的な疾患の事例を通して回復期を支える看護について理解を深める。また、講義や演習を通してリハビリテーションの基本的な知識と援助技術を修得する。看護演習では事例を設定し、生活の再構築を目指した看護計画を展開し実践する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	健康障害の治療過程と回復期における看護 回復期の看護を展開するための概念 回復期を支えるリハビリテーション看護の方法 回復期の脳血管障害患者への看護（事例展開） 理学療法の実際：関節可動域運動、筋力増強訓練 作業療法の実際：補助具・自助具・義肢・装具 回復期の高次脳機能障害をもつ対象者への看護（事例展開） 言語聴覚療法の実際：直接訓練・関節訓練 呼吸機能障害のある人への回復期看護 呼吸理学療法の実際：吸気・呼気助、肋間ストレッチ がんや治療に伴う機能喪失・障害に対する看護 回復期を支える看護演習①（グループワーク） 回復期を支える看護演習②（発表・まとめ） 回復期に関連する法制度、倫理的課題 地域連携における看護師の役割および多職種との連携	孫田【講義】 孫田【講義】 孫田【講義】 孫田【講義・演習】 加藤・担当者全員 【演習】 木村・担当者全員 【演習】 孫田【講義・演習】 鳥取・担当者全員 【演習】 中村【講義】 中村・担当者全員 【演習】 姫野【講義】 姫野・桐明・石橋・ 孫田【演習】 姫野・桐明・石橋・ 孫田【演習】 孫田【講義】 孫田【講義】	テキストの該当箇所を熟読し、それぞれの授業内容をイメージできるように予習する。 実施した講義・演習内容についてテキスト・配布資料で復習する。 第4・7・12・13回は課題を課す。	各回 30～60分 程度	

テキスト	原三紀子：系統看護学講座－別巻リハビリテーション看護 第7版、医学書院、2023	
参考書	酒井郁子・金城利雄 編集：リハビリテーション看護、南江堂、2021 奥宮暁子 編集：ナーシング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護、メディカ出版、2022 辻哲也 編集：がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで、医学書院、2016	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（70%）	到達目標 1)2)3)6)7)8) は、筆記試験にて達成度を正答率で評価する。	
レポート（20%）	到達目標 4) は、課題レポートの内容を点数化し評価する。	
受講態度（10%）	到達目標 5) は、演習への取り組み（振り返りシート）の内容を点数化し評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題レポートの返却・フィードバックは講義の中で適宜行う。	

科目名 ナンバリングコード	看護過程I NUS1136MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 前野 里子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子、三次 貴大、山田 泰子、専任教員1名				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 健康上の問題や障害をもつ人の看護の必要性をアセスメントし、看護過程を展開するための概念と思考プロセスの基本を学ぶ。</p> <p>到達目標 1) 看護過程の意義や目的について説明できる。 2) 看護過程の構成要素が述べられる。 3) アセスメントとは何かについて説明できる。 4) 既習の知識を活用しながら、情報を整理・アセスメントすることができる。 5) 看護問題を特定し優先順位を決定することができる 6) 看護問題に対して看護目標・看護計画を立案できる 7) 看護問題を解決するための看護計画を立案することができる。 8) 看護過程の評価の視点を説明できる。</p>				
授業概要	学習内容の説明を受けて、個人およびグループで紙上事例に取り組む。グループで意見交換を行い協同的に学ぶことで理解を深める。学習した内容を臨地実習で活用し学習を進展させる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護過程の意義・目的、構成要素、アセスメントの枠組み	前野・全員【講義・演習】	(全体を通して) 事前にテキストの該当箇所を読み予習して受講する。	30分	
第2回	看護に必要な情報収集	前野・全員【講義・演習】		60分	
第3回	アセスメント(情報の解釈、推理・推論)	前野・全員【講義・演習】	講義・演習内容に関する課題に取り組む。	60分	
第4回	問題の統合(関連図および全体像)	前野・全員【講義・演習】		60分	
第5回	看護問題の抽出、看護診断、優先順位	前野・全員【講義・演習】	課題は講義内容・配布資料、テキストを活用して取り組む。	60分	
第6回	看護計画の立案	前野・全員【講義・演習】		60分	
第7回	看護計画の実施と記録、計画の評価・修正、看護記録の法的規定	前野・全員【講義・演習】		60分	
第8回	看護過程まとめ	前野・全員【講義・演習】		60分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術I，メヂカルブックス社(1年次購入分) 上野栄一・西田直子編集：看護診断の看護過程ガイド，中央法規，2022				
参考書	江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，ヌーヴェルヒロカワ，2019				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(50%) レポート(50%)	達成目標の到達度を正答率で評価する。 個人で作成した看護過程展開のレポート提出状況、内容について評価する。				
課題(レポート等)	に対するフィードバック	レポートは添削後返却する。			

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅生活支援論 NUS2141MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目責任者	医学部看護学科 山下 寛子 森永 朗子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 療養者の在宅生活を支える社会制度を知り、地域における看護師の役割を理解する。</p> <p>2) 療養者の在宅生活を支えるための多職種連携・協働における看護師の役割を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 高齢療養者の在宅生活を支援する法律・制度について説明できる。</p> <p>2) 小児・障害児（者）の在宅生活支援に関する法律・制度について説明できる。</p> <p>3) 在宅療養者の安全で安心できる在宅生活を支える多職種との連携のあり方について説明できる。</p>				
授業概要	地域で暮らすあらゆる年代・あらゆる健康段階にある人々の生活を支える制度について理解し、さらに制度を活用した支援のあり方及び多職種連携のあり方について協同学習を通して理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	地域・在宅療養を支える訪問看護のしくみ -協同学習-	渡邊【講義】	<p>【予習】提示された講義内容のテキストの範囲を読んで質問したい内容を明確にして講義に臨む。</p> <p>【復習】テキストと講義資料と自分のノートを振り返り理解を深める。さらに疑問などがあれば、次回の講義か直接教員に質問して明確にする。</p>	<p>毎回復習予習に 約30分</p>	
第2回	在宅療養者とその家族の理解 -協同学習-	山下【講義】			
第3回	地域療養を支える制度 ① (医療保険制度・介護保険制度) -協同学習-	渡邊【講義】			
第4回	地域療養を支える制度 ② (高齢者・障害者（児）に対する法律・制度) -協同学習-	渡邊【講義】			
第5回	介護保険制度におけるケアマネジメントと退院移行支援	森永【講義】			
第6回	在宅における小児・障害児の現状と社会資源	渡邊【講義】			
第7回	多様な法律制度の枠組みを超えた多職種・多機関連携 -グループディスカッション-	渡邊【講義】			
第8回	在宅看護における安全と健康危機管理 -協同学習- まとめ	渡邊【講義】			
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022年版) 購入済み				
参考書	①日本在宅ケア学会 在宅ケア学第1巻～第6巻 株式会社ワールドプランニング 2015年 ②ユーキャン 介護保険研究会 介護保険利用マニュアル ユーキャン学び出版 第6版 2021年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%) 受講態度 (20%)	<p>筆記試験：到達目標 1)2)3) の達成度を正答率で評価する。</p> <p>意欲・関心：到達目標 1)～3) について各講義内容の中から自分が特に関心を持った内容を引用し具体的に感想・質問及び自分の考えが記述されているか毎回0～2点で評価する。</p>				
課題 (レポート等)	<p>に対するフィードバック</p> <p>今回の講義の中で解説する。</p>				

科目名 ナンバリングコード	生涯発達看護概論 NUS2126MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 崎浜 智子、古村 美津代				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護の対象である人間を発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。本科目ではいわゆる正常な発達を理解した上で、発達過程で支援・援助を必要とする対象者を知り、小児・成人・老年看護援助を思考するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の発達に関する考え方を説明できる。1回目 2) ライフサイクルにおける小児期・成人期・老年期の特徴を説明できる。2回目 8回目 15回目 3) 発達段階別（小児期・成人期・老年期）に発達の身体的精神的社会的特徴を説明できる。 3回目 9回目 16回目 17回目 18回目 4) 発達段階別の健康や生活の特徴を説明できる。4回目 10回目 11回目 19回目 20回目 5) 発達段階別の健康問題の特徴を説明できる。5回目 6回目 19回目 21回目 6) 健康状態に合わせた支援の方法を説明できる。7回目 12回目 13回目 14回目 				
授業概要	授業を通して、看護の対象者である人を発達段階別に特徴をとらえ、発達段階別の生活、健康、健康問題と支援の基本的考え方の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	“発達”という視点から人間を捉えること	益守【講義】	復習:各授業の配布資料、教科書を基に復習	各30分	
第2回	ライフサイクルにおける小児期や生活の特徴	益守【講義】			
第3回	子どもの身体的心理社会的発達	益守【講義】			
第4回	子どもの健やかな成長発達（セルフケア獲得/向上）への支援	益守【講義】			
第5回	子どもの発達と健康問題	益守【講義】			
第6回	健康問題への子どもの向き合い方（病気や死の認識の変化）	益守【講義】			
第7回	健康問題を抱えた子どもの発達への支援：ヘルスプロモーション	益守【講義】			
第8回	成人期の特徴と現状	崎浜【講義】			
第9回	成人期にある人の健康	崎浜【講義】			
第10回	生活習慣と健康① グループワーク（GW） （食事・運動・睡眠・喫煙・飲酒など）	崎浜【演習GW】			
第11回	生活習慣と健康② GW発表	崎浜【演習GW】	予習（9～11回）:演習グループワークのための予習	各30分	
第12回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方	崎浜【講義】			
第13回	健康状態に応じた看護①（健康の保持増進・疾病予防）	崎浜【講義】			
第14回	健康状態に応じた看護②（療養生活支援：急性期～終末期まで）	崎浜【講義】			
第15回	ライフサイクルと老年期	古村【講義】			
第16回	老年期の身体機能・構造の加齢変化①	古村【講義】			
第17回	老年期の身体機能・構造の加齢変化②	古村【講義】			
第18回	老年期の心理・精神機能の変化	古村【講義】			
第19回	老年期の健康と健康障害の特徴	古村【講義】			
第20回	高齢者の社会生活	古村【講義】			
第21回	老年期と死	古村【講義】			
第22回	人間の発達に関するまとめ（1）	益守・崎浜・古村【演習】			
第23回	人間の発達に関するまとめ（2）	益守・崎浜・古村【演習】			

テキスト	○舟島なをみ：看護のための人間発達学（第5版）、医学書院、2019（2年次購入） 第1回～第7回：中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版2024（2年次購入） 第8回～第14回：林直子 編：成人看護学概論 改訂第4版 南江堂 2022 第15回～第21回：水谷信子ほか編 最新老年看護学 第3版 日本看護協会出版会 2020（2年次購入） 第22回第23回：全てのテキスト	
参考書	講義の中で提示する。必要時、資料を配布する。	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（90%） 課題（10%）	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標 1)～6) において、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・第22回23回で取り組む課題：発達という支援から乳幼児期から老年期までの過程を具体的に整理する。教科書や参考書・講義資料などを活用しながら、わかりやすく具体的にまとめられているかをポイント化して評価する。 	
課題（レポート等）に対するフィードバック	筆記試験前に採点し、返却する。	

科目名 ナンバリングコード	女性生涯看護概論 NUS2127MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から捉え、生涯を通じた女性の健康支援として看護専門職者が果たす役割を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標 1) 生涯を通じた女性の健康からみた、現代女性のライフサイクルの特徴について説明できる。 2) 人間のセクシュアリティについて、身体的、心理的、社会文化的側面から理解を深め、セクシュアリティを尊重した看護について考えることができる。 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの基本的な概念を説明できる。 4) リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐる倫理的課題について説明できる。 5) 女性を取り巻く社会や環境との関連から、女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題を理解し、支援のあり方を考察できる。</p>				
授業概要	女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から捉え、支援が行えるには、男性を含めた社会全体の問題として位置づけ、考えていくことが求められる。そのため講義では教科書だけでなく、新聞等のメディアにある最新の情報等も活用し、この分野における社会の状況に対する理解を深めていく。毎回の授業後にリアクションペーパーに意見・疑問点を記述してもらい、次の授業後に問題提起となる重要なものを取り上げて、追加で説明を加え、学生の皆さんとの双方向性のある授業を行っていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	女性のライフサイクルと健康	田中【講義】	◇各回の講義内容を、配布資料やテキストでふり返りをしましょう。 ◇講義内容よりセクシュアリティ、ジェンダー、リプロダクティブヘルス/ライツに関連する健康・社会問題について興味・関心を持ち、講義資料だけでなく、報道や書籍等を読み思考を深めて下さい ◇講義前にはテキストの該当箇所を目を通しておきましょう。 ◇第7回 討論に向けたレポートの作成	各回 30分 程度	
第2回	ヒューマンセクシュアリティ	田中【講義】			
第3回	ジェンダーを考える	田中【講義】			
第4回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念	田中【講義】			
第5回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐる倫理的課題	田中【講義】			
第6回	女性の健康と暴力	加藤【講義】			
第7回	女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題	田中【講義】			
第8回	女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題と支援—討論	田中【演習・講義】			
テキスト	渡邊 浩子、板倉 敦夫、松崎 政代編； 母性看護学1：母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護 第7版 メヂカルフレンド社 2022年				
参考書	財団法人 厚生統計協会編:厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2023、母子衛生研究会編:母子保健の主たる統計 令和6年刊行				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(80%) レポート(20%)	到達目標 1)2)3)4) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 5) について、既習の講義内容を参考に、女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題と支援について考察し、自分の意見を論理的にまとめられているかポイント化し、評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートに対する総括を授業中に行い、個々に採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	ウィメンズヘルス論 NUS2147MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、永田 真理子、岡村 光子、竹藤 徳子、松本 くらら				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 ウィメンズヘルスの観点から、女性のライフステージにおける健康問題について理解し、女性と周囲の人々に対する看護支援の在り方を検討できる。</p> <p>到達目標 1) ウィメンズヘルスの基本理念について説明できる。 2) 女性のライフステージにおける心身の変化と健康問題、それを取り巻く人々や社会との関連や影響について説明できる。 3) 性差医療の変遷と女性医療のあり方について説明できる。 4) グループ学習をとおして、日本のウィメンズヘルスの現状を探索し、今後の課題について考え、説明できる。</p>				
授業概要	女性のライフステージにおける健康と健康問題には、女性特有のホルモンや身体的要因だけでなく、女性を取り巻く周囲の人々や社会との関連・影響が大きいことを学ぶことで、どのような看護支援が求められるのか検討していく。最終的に、既習の講義をふまえてウィメンズヘルスの現状をグループで探求し、今後の課題について考え、プレゼンテーションできることで、より理解を深めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	ウィメンズヘルスの基本理念	田中【講義】	シラバスの確認	10分	
第2回	女性ホルモンと健康問題（性周期・月経異常）	永田【講義】	「性周期」に関する復習	60分	
第3回	思春期女性の健康（第2次性徴など）	加藤【講義】	「性意識」に関する復習	30分	
第4回	思春期女性の健康（思春期の性とこころ）	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第5回	思春期女性の健康問題（性感染症と若年妊娠）	永田【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第6回	成熟期女性の健康（性意識・性行動、性科学など）	田中【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第7回	成熟期女性の健康問題（不妊・不育症）	永田【講義】	「不妊」に関する復習	60分	
第8回	成熟期女性の健康（女性の就労と妊娠・子育て）	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第9回	成熟期女性の健康（RLP・家族計画）	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第10回	成熟期女性の健康問題（女性がん疾患）	岡村【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第11回	更年期・老年期女性の健康と健康問題（更年期障害等）	田中【講義】	講師資料の確認と復習	30分	
第12回	性差医療の変遷と女性医療のあり方	田中【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第13回	ウィメンズヘルスにおける今後の課題	田中【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第14回	日本のウィメンズヘルスの現状と課題（発表）	担当者全員【演習】	資料検索と作成	60分	
第15回	日本のウィメンズヘルスの現状と課題（発表）	担当者全員【演習】	資料検索と作成	60分	
テキスト	渡邊 浩子、板倉 敦夫、松崎 政代編；母性看護学1 母性看護学概論 / ウィメンズヘルスと看護 第7版 メヂカルフレンド社 2022年（女性生涯看護概論の使用テキスト）				
参考書	財団法人 厚生統計協会編：厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2023、母子衛生研究会編：母子保健の主たる統計 令和6年刊行				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%） 演習状況（20%）	到達目標 1)2)3) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 4) の演習については、演習での発表内容のわかりやすさ・資料の工夫等の観点から学生同士での他者評価・教員評価をあわせて評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	演習の内容について発表時に総括し、コメントする。				

科目名 ナンバリングコード	小児生活支援論 NUS2146MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 藤好 貴子、水落 裕美				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもと家族の健やかな生活、子どもの健康増進を支援する看護を学び、子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を修得する。 子どもの健康問題や子どもや家族を取り巻く社会や医療の現状を捉え、小児看護の課題についての理解を深める。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもや家族を取り巻く社会的状況の歴史的背景を基盤に、小児看護の理念と役割について説明できる。 子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を説明できる。 子どもや家族の生活の発達段階別の特徴を説明できる。 発達段階別に子どもの健康増進を支援する看護について説明できる。 子どもや家族を取り巻く社会や医療の現状、小児看護の課題を説明できる。 子どもや家族の生活を支援する関連法規を説明できる。 				
授業概要	授業を通して、子どもを権利の主体者として捉え、子どもや家族の権利を擁護することについての理解を深める。また、授業と課題を通して、子どもと家族の健やかな生活、子どもや家族を取り巻く社会の現状や課題についての理解を深める。そして、子どもの健康増進を支援する看護の基礎的知識や技術を学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	小児看護の歴史と小児看護の理念と役割 子どもの権利と看護 小児看護におけるヘルスアセスメント 小児期にみられる主な症状と対応（1） 小児期にみられる主な症状と対応（2） 乳児期の子どもと家族の生活 幼児期の子どもと家族の生活 子どもの栄養・食 子どもの事故と救急処置 乳幼児期の子どもの健康増進への支援 学校保健・予防接種 学童期思春期の子どもと家族の生活 学童期思春期の子どもの健康増進への支援 子どもや家族の生活を支援する関連法律1 子どもや家族の生活を支援する関連法律2	益守【講義】 益守【講義】 水落【講義】 藤好【講義】 藤好【講義】 益守【講義】 益守【講義】 水落【講義】 益守【講義】 益守【講義】 藤好【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】	【予習】 各授業の前にその内容に関連する教科書を読む。 【復習】 各授業の配布資料、教科書を基に復習。授業内で提示した国家試験の振り返りを行う。	予習・復習 で20分程 度。	
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護	小児看護学① 小児看護学② 小児看護学③	メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版	2024年 2024年 2024年	
参考書	講義の中で提示する。				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (60%) 課題 (40%)	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標 1) ～ 6) においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標 2)3)4)5) においては課題を提示し、子どもと家族の生活や健康問題の特徴を発達段階別に考察し、具体的な支援を提案できていること。 <p><課題について></p> <p>乳児期 / 幼児期 / 学童期 / 思春期各期の子どもや家族についてのニュース過去1年間を検索し、子どもや家族に起こっていること（健康に関する事項）について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや家族が体験していることを整理すること ・どうしてそのような体験をすることになったのかを分析的に論じること（分析時に過去に学習した発達理論や関連法規、統計などを参考にすること） ・子どもや家族が同様の出来事に直面しないような配慮や支援方法について論じていること（子どもや家族の権利を遵守する支援について考えること）
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題は講義終了後採点し、返却する。

科目名 ナンバリングコード	高齢者生活支援論 NUS2145MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>高齢者とその家族が、地域社会の中で健康に安心して暮らし続けるために、看護が果たす機能と役割について理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者を取り巻く社会の変化と老年看護の役割について説明できる。 2) 高齢者の生きてきた時代背景について調べることができる。 3) 高齢者とコミュニケーションの方法について説明できる。 4) 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴より老年看護について考察できる。 5) 保健医療福祉におけるヘルスケアシステムの変遷と高齢者の生活を支えるケアシステムについて説明できる。 6) 高齢者の倫理的課題について説明できる。 7) 老年看護における倫理的感性を高め、高齢者の権利を擁護する看護実践について考察できる 				
授業概要	<p>少子高齢化の進展とともに高齢者の暮らしが多様化する中、高齢者とその家族が、地域社会の中で、健康に安心して暮らし続けられるように医療・保健・福祉・介護・権利擁護に関する制度や老年看護の役割について学ぶ。また、本授業では、グループワークにより身近な高齢者の生きてきた時代や高齢者の生き方や価値観、高齢者ケアの倫理的課題を理解し看護職者に求められる看護について学ぶ。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>高齢者を取り巻く環境と老年看護</p> <p>高齢者の生きてきた時代背景（グループワーク・発表）</p> <p>心身の加齢変化と健康アセスメント</p> <p>高齢者とのコミュニケーション</p> <p>高齢者の理解「地域高齢者との交流および高齢者模擬体験」</p> <p>高齢者の理解「地域高齢者との交流および高齢者模擬体験」</p> <p>高齢者の特性の理解：（グループワーク・発表）</p> <p>老年看護を支える理論</p> <p>高齢者の暮らしを支えるヘルスケアシステム（介護保険）</p> <p>地域包括ケアシステムとヘルスプロモーション</p> <p>高齢者の療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護</p> <p>地域共生社会と高齢者の災害支援</p> <p>高齢者の倫理的課題（スティグマ・高齢者虐待・身体拘束）</p> <p>高齢者ケアの倫理的課題と支援（グループワーク）</p> <p>高齢者ケアの倫理的課題と支援（発表とまとめ）</p>	<p>古村【講義】</p> <p>全員【講義・演習】</p> <p>草場【講義】</p> <p>古村【演習】</p> <p>全員【演習】</p> <p>全員【演習】</p> <p>全員【演習】</p> <p>古村【講義】</p> <p>草場【講義】</p> <p>草場【講義】</p> <p>草場【講義】</p> <p>新【講義】</p> <p>古村【講義】</p> <p>全員【演習】</p> <p>全員【演習】</p>	<p>・2年次の生涯発達看護概論で学習した内容をテキスト、資料を復習して授業に臨む</p> <p>・テキストの該当箇所について予習する。</p> <p>・実施した講義の配布資料を復習する。</p> <p>・第2、7、15回目終了後レポート提出</p>	予習、 復習について 各30分 ～60分	
テキスト	水谷信子・水野敏子・高山成子ほか著：最新 老年看護学 第4版 2024年版 日本看護協会出版会				
参考書	講義・資料等の中で提示する。				

成績評価	
方法 (割合)	基準
試験 (70%) レポート課題 (30%)	筆記試験：1)4)5)6) の達成度を筆記試験の正答率で評価する。(マークシート形式及び記述) レポート：2)4)7) はレポート作成を課題とし、テーマに沿って具体的に記述できているかについて評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポート内容について講評を行い、ワークシート・レポート等の一部は採点後に返却する。

科目名 ナンバリングコード	急性期看護論 NUS2243MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
	医学部看護学科 孫田 千恵、桐明 あゆみ、河原田 康貴、姫野 深雪、石橋 秋奈、池上 明由美、 専任教員 大学病院看護部 真子 敬史、中小原 涼子 医療安全・感染対策室 江崎 祐子 非常勤講師 岩田 誠司（財団法人 福岡メディカルセンター）				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 成人および高齢者の急変および急性増悪、周術期にある人および家族の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等の回復に向けた看護実践を学ぶ。 到達目標 1) 急性期の健康レベルにおける病態や、心理・社会的特徴、および疾患や治療に応じた観察項目を理解し、優先順位を踏まえて、看護と根拠を説明できる。 2) 生命の危機状態を呈する成人および高齢者を対象として、病態および付随問題、倫理的課題を説明できる。 3) 成人および高齢者の周手術期の身体侵襲と生体反応を理解し、回復過程や退院に向けた援助を説明できる。 4) 手術や治療、検査・処置を受ける人の必要性に応じて、理解と意思決定を支える看護を説明できる。 5) 心肺停止状態の負傷者をアセスメントし、CPR・AEDが実践できる。 6) クリティカル領域における職業感染予防策が実践できる。 7) 全身麻酔で手術を受けた紙上事例の術後1日目の看護援助を計画し、模擬実践する。 8) チームで協力しながら、主体的に課題に取り組むことができる。				
授業概要	急激な健康状態の変化に伴う生体反応に関する既習の知識を基盤に、生命の危機状態にある対象（（成人・老年期））と家族を全人的に理解するため、各回予習・復習をして臨み、配布するエクササイズ（ワークシート）などを活用して、急性期看護に必要な客観的思考を主体的に学ぶよう努力すること。 手術が必要な健康障害が日常生活に及ぼす影響や、周手術期（術前、術中、術後）の特徴を理解したうえで、継続看護や多職種連携の視点も含め急性期看護の展開方法について演習を行う。演習は協働学習の手法を用いて、学生同士で看護者役、患者役、観察者の役割をグループで行いながら進める。互いの学びを共有する意義や、グループ学習をスムーズに進行するためのリーダー・メンバーシップを発揮し、チームで協力しながら、主体的に課題に取り組むことを期待する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3・4回 第5・6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回	ガイダンス、急性期の成人の身体・心理・社会的特徴 救急医療体制と急性期看護に付随する倫理的問題 クリティカル領域における感染予防・管理 心肺停止状態にある人のアセスメントと援助技術 (CPRとAED) 救急看護の実際①フライトナースの看護実践 救急看護の実際②熱傷患者への援助と皮膚創傷ケア 救急看護の実際③ショック状態にある患者の看護 (心筋梗塞事例) 救急看護の実際④意識障害にある患者の看護 (くも膜下出血事例) 周手術期看護概論 周手術期看護①：手術前の援助を組み立てる 周手術期看護②：手術中の援助を組み立てる 周手術期看護③：手術侵襲の影響を知る 周手術期看護④：術後の変化を踏まえ看護を組み立てる 周手術期看護⑤：胃切除術を受ける人の看護	崎浜【講義】 崎浜【講義】 崎浜・池上・孫田・石橋 【講義・演習】 石橋・孫田・石橋・池上・ 崎浜・桐明・河原田・姫野 【講義・演習】 真子【講義】 崎浜【講義】 孫田【講義】 中小原【講義】 崎浜【講義】 池上【講義】 石橋【講義】 石橋【講義】 崎浜【講義】 池上【講義】	<input type="checkbox"/> 各回の予習： テキストの 該当箇所の 熟読。 配布資料の 復習と、エク ササイズの課 題を課す <input type="checkbox"/> 【9・10回】 事前技術習 得必須	予習 各回 30～60分 程度 復習 各回30分 程度	

第17・18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	順調な回復の為の援助技術（術後1日目）：呼吸・循環管理、深部静脈血栓予防、早期離床と転倒予防、呼吸訓練など 手術後の継続看護・多職種間連携 事例：在宅復帰までを支える 臓器移植：臓器移植法と脳死下臓器移植の変遷と概要 総括 特別講義 クリティカル領域における「アセスメント」のコツ	池上・孫田・石橋・崎浜【講義・演習】 崎浜【講義】 江崎・崎浜【講義】 岩田・崎浜【講義】 崎浜【講義】 特別講義講師【講義】	<input type="checkbox"/> 【19・20回】 事前課題 (GW)：早期離床の援助計画立案提出	予習 各回 30～60分 程度 復習 各回30分 程度
テキスト	1) 林直子, 佐藤まゆみ (編) : 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 改定第2版 2023年 2) 佐藤まゆみ, 林直子 (編) : 急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂 改訂第2版 2023年 3) 野崎真奈美 他 (編) : 成人看護技術 南江堂 第2版 2022年 4) 救急蘇生法の指針 2022 医療従事者用、へるす出版社			
参考書	1) 系統看護学講座成人看護学2 呼吸器 医学書院 第16版 2024年 2) 系統看護学講座成人看護学5 消化器 医学書院 第15版 2019年 3) 系統看護学講座成人看護学7 脳・神経 医学書院 第15版 2019年 4) 系統看護学講座成人看護学3 循環器 医学書院 第16版 2024年 5) 系統看護学講座成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 第15版 2020年			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
筆記試験 (70%) レポート (20%) 態度 (10%)	到達目標の達成度を、試験問題の正答率で評価する 到達目標の達成度を、レポート（講義のエクササイズ課題、演習前・後レポート）の記載内容で評価する 講義・演習などへの主体的学習態度を評価する			
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは講義・演習でフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	慢性期・回復期看護論 NUS2244MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 崎浜 智子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈、専任教員1名				
教員の実務経験	本科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>慢性疾患を有する成人期にある対象が、疾患および検査・治療により受けている影響を身体・心理・社会的側面から深く理解し、セルフマネジメントを支える看護について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性疾患の特徴と治療・療養環境の変化について説明できる。 2) 治療・療養行動にかかわる主要な概念・理論を説明できる。 3) 慢性疾患を有する人と家族を支える社会資源を説明できる。 4) 慢性疾患の病態生理をふまえ、その影響を身体・心理・社会的側面からアセスメントできる。 5) 慢性疾患を有する人の回復とセルフマネジメントを促進する看護を説明できる。 6) 慢性疾患を有する人の回復とセルフマネジメントを促す看護技術を手順に沿って実施できる。 7) 慢性疾患を有する人と家族の療養生活を支える保健・医療・福祉の連携の必要性を述べることができる。 				
授業概要	治療・療養行動にかかわる概念・理論を学び、慢性疾患を有する人と家族を捉える長期的な視点を身に付けます。また、人体の機能別に代表的な慢性疾患を取り上げ、身体・心理・社会面への影響を学びます。さらに、疾病の経過に応じた回復とセルフマネジメントを促す看護について学びます。セルフマネジメントを促す看護技術についての演習では、グループワークを通して主体的に対象のセルフマネジメントを促す看護技術を習得します。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	慢性疾患の特徴と経過、治療療養環境について	桐明【講義】	各回の予習については、①テキストの該当箇所の熟読と、②事前配布プリントにて課題を課す。 各回の復習については、配布資料の復習と、課題レポートを課す。	予習、復習については、各回30分～1時間程度。	
第2回	慢性疾患を有する人の治療・療養行動にかかわる主要な概念・理論	桐明【講義】			
第3回	特別講義 医療者のことばの持つ力	特別講義講師【講義】			
第4・5回	消化器系の障害を有する人と家族への看護 (消化器疾患・肝疾患)	桐明【講義】			
第6・7回	循環器系の障害を有する人と家族への看護 (心不全)	河原田【講義】			
第8・9回	腎・泌尿器系の障害を有する人と家族への看護 (CKDと透析療法)	河原田【講義】			
第10・11回	代謝・内分泌系の障害を有する人と家族への看護 (糖尿病)	河原田【講義】			
第12・13回	糖尿病患者のセルフマネジメントを促す援助技術 (食事療法と血糖測定)	担当者全員【演習】			
第14回	免疫系の障害を有する人と家族への看護 (関節リウマチ)	草場【講義】			
第15回	呼吸器系の障害を有する人と家族への看護 (慢性呼吸不全)	桐明【講義】			
第16回	慢性呼吸不全患者の呼吸管理に関する看護技術 (酸素療法)	桐明【講義】			
第17・18回	呼吸機能改善のための援助技術 (酸素吸入・在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気)	担当者全員【演習】			
第19回	脳・神経系の障害を有する人と家族への看護 (ALS)	桐明【講義】			
第20回	がん看護の基本	桐明【講義】			
第21・22回	化学療法・放射線療法を受ける人と家族への看護	姫野【講義】			
第23回	慢性期にある人の療養生活を支える看護 —保健・医療・福祉の連携、家族の支援—	桐明【講義】			

テキスト	鈴木久美 旗持知恵子 佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改訂第4版 南江堂 2023 野崎真奈美ほか：成人看護技術 改訂 第3版 南江堂 2023 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会編第7版、文光堂 2013	
参考書	系統看護学講座成人看護学 [2] 呼吸器 系統看護学講座成人看護学 [3] 循環器 系統看護学講座成人看護学 [5] 消化器 系統看護学講座成人看護学 [6] 内分泌・代謝 系統看護学講座成人看護学 [8] 腎・泌尿器 以上全て15版、医学書院 2019 ナーシンググラフィカ成人看護学③ セルフマネジメント 第4版 2022	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（85%） レポート（10%） 技 術（5%）	到達目標 1) 2) 3) 4) 5) 7) の達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。 到達目標 5) 課題レポートで、アセスメントと看護の妥当性を評価する。 到達目標 6) 対象の特性に応じた正確な看護技術の実施を、チェックリストを用いて到達度を評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題（レポート）は、正答を示すと共に採点后、返却する。	

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生健康支援論 PHN2112MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 徳澤 麻梨子				
科目責任者	医学部看護学科 小島 一将				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) ライフステージ（母子・成人・高齢者）における健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動を理解する</p> <p>2) 対象の特性をふまえた個別支援を展開するために必要な基本的知識と技術を理解する</p> <p>到達目標</p> <p>1) ライフステージ特有の健康課題とその背景にある生活や環境、健康の社会的決定要因について説明できる</p> <p>2) ライフステージや健康レベルに応じて展開される公衆衛生看護活動の法的根拠と施策について説明できる</p> <p>3) 公衆衛生看護に活用される基本的な保健行動理論・モデルを説明できる</p> <p>4) 公衆衛生看護における支援技術の特徴を理解し、対人支援の目的と展開方法について説明できる</p> <p>5) 個人・家族の健康と生活および社会とを関連づけてアセスメントし、対象の特性をふまえた支援計画を立案することができる</p>				
授業概要	講義内で取り組む事例展開やグループワーク・発表を通して、主体的に学修できるようにする。講義の準備（予習・復習・課題）の詳細は、講義にて提示する。毎回、講義の理解度を自己評価し、自らの考えや質問を記載して提出する。講義のはじめに、前回の講義の感想や質問を取り上げコメントし、フィードバックを行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	母子（親子）保健活動：母子（親子）保健施策	徳澤【講義】	母子保健法、健やか親子21（第2次）	60分	
第2回	母子（親子）保健活動：健康課題と支援	徳澤【講義】	育児不安・孤立、産後うつ、児童虐待	60分	
第3回	成人保健活動：成人保健施策、健康課題と支援	徳澤【講義】	健康増進法、健康日本21（第3次）、健康寿命、生活習慣病の予防、	60分	
第4回	高齢者保健活動：高齢者保健施策、健康課題と支援	徳澤【講義】	介護保険法、地域包括ケア、一体的事業	60分	
第5回	市町村における保健活動の実際〔グループワーク〕	徳澤【講義】	居住自治体の保健事業をまとめる、ライフコースアプローチ	90分	
第6回	対人支援の基本①：公衆衛生看護における支援技術	徳澤【講義】	公衆衛生看護技術の特徴	60分	
第7回	対人支援の基本②：保健行動理論	徳澤【講義】	保健行動、変化ステージ理論、HBM、ソーシャルサポート、ヘルスリテラシー	60分	
第8回	対人支援の基本③：対人支援技術〔ロールプレイ〕	徳澤【講義】	対象理解、対人支援過程、コーチング	60分	
第9・10回	対人支援の展開①：新生児家庭訪問〔事例展開〕	徳澤【講義】	家庭訪問の展開、レポート課題①	90分	
第11回	対人支援の展開②：1歳6か月児健康診査	徳澤【講義】	健康診査の展開、1歳6か月児健診	60分	
第12・13回	対人支援の展開③：特定保健指導〔事例展開〕	徳澤【演習】	特定健康診査・特定保健指導	60分	
第14回	対人支援の実践：保健指導〔グループワーク・発表〕	徳澤・小島【演習】	特定保健指導の実践、レポート課題②	90分	
第15回	対人支援の展開④：無関心層や孤立者への支援	徳澤【講義】	ナッジ、インセンティブ、環境づくり、PHR、アウトリーチ、居場所づくり	60分	
テキスト	中村裕美子 他編 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院 2023年 中谷芳美 他編 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第4版 医学書院 2018年				
参考書	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 第6版（2024-2025）メディックメディア 2024年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） レポート①（15%） レポート②・演習（15%）	到達目標 1) 2) 3) 4) の達成度を正答割合で評価する。 家庭訪問事例において、到達目標 5) の達成度をルーブリックを活用して評価する。 特定保健指導事例において、到達目標 5) の達成度をルーブリックを活用して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート①②は評価後に返却し、演習は総評を行う。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習 NUS2429MN3	必修科目	2年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、他専任教員 16名				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康障害のある対象の生活状況、健康状態を理解する能力を身につける。 対象の状態にあわせた生活支援を実践する一連の過程について学ぶ。 患者・家族と意図的なコミュニケーションをはかり、信頼関係を築く。 自己の振り返り及び多様な人々との関わりを通して、看護職に求められる倫理的姿勢を身につける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者の生活背景、現病歴をもとに現在の生活状況、健康状態を説明できる。 患者の状態に影響を与えている要因を分析して療養生活上の看護問題を特定できる。 患者を主体にした目標を設定し具体的な援助計画を立案できる。 計画に基づき、患者の安全、安楽に配慮して療養環境を整え、生活援助を実施できる。 援助に対する患者の反応を観察・評価し、次の援助に活かすことができる。 健康障害のある患者・家族と円滑に意図的なコミュニケーションをはかることができる。 患者・家族のプライバシーに配慮した行動をとることができる。 医療者と連携し、看護チームの一員として責任ある行動をとることができる。 看護学生として必要な自己管理ができる。 実習での学びと今後の課題を述べることができる。 				
授業概要	本実習では、初めて患者を受け持ち看護を実践する。これまで学習したすべての知識、技術、態度を活用するため、実習前に十分復習しておくことで安心して実習に臨むことができる。実習中は受け持ち患者の状態に応じ、常に学習、思考し、指導を受けながら学習目標の達成を目指す。看護学生としてふさわしい基本的な態度で、学生同士互いに向上できるよう取り組むことを求める。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
<p>実習期間： 2024年12月 9日(月)～ 12月20日(金) 2週間（90時間）</p> <p>実習場所： ・久留米大学病院 ・久留米大学医療センター</p> <p>スケジュール： 1日目：オリエンテーション 2・3日目：病棟実習 4日目：学内実習 5～9日目：病棟実習 10日目：学内で実習のまとめ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の入院前後の生活状況、疾患・治療・検査、気持ち等について情報収集する。 得られた情報について解釈・推理・推論して分析し、看護問題を特定する。 患者を主語にした目標を挙げ、観察・実施・教育プランを具体的に、詳細に計画する。 患者へわかりやすく説明し、安全・安楽に療養環境を整え、生活援助を実施する。 援助に対する患者の主観・客観的反応から評価し、次のケアにつなげる。 コミュニケーション技法を用いて患者・家族を理解する。 援助を行う際や会話時、電子カルテ閲覧時など、常にプライバシー配慮と個人情報保護を行う。 実習指導者に計画を伝え、病棟スタッフに適宜、報告・連絡・相談し看護を実施する。 実習前、実習中も看護実践に必要な知識・技術を学習して実習に臨む。 カンファレンスやまとめ、実習記録上で自分の考えを述べて学びを深め、自己の課題を見出す。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術演習、課題レポート 実習病棟の課題 関連科目の復習など <p>事前オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションに出席する。 <p>実習中</p> <ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の看護実践に必要な知識、技術の学習 データベース・アセスメント、全体関連図、看護問題、看護計画について指定された記録用紙に記載する。 毎日の実施計画・実施後の評価を、指定された用紙に記載する。 受け持ち患者の看護のまとめ 	<p>90分</p> <p>90分</p> <p>90分</p> <p>毎日90分</p>		

テキスト	なし
参考書	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学②③ 基礎看護技術 I・II，メヂカルフレンド社、2021 (購入済)
成績評価	
方法 (割合)	基準
実習内容 (80%) 実習態度 (20%)	到達目標の達成状況をルーブリックにて評価する。 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢についてルーブリックにて評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	毎日の実習記録は添削後、コメントを返す。

科目名 ナンバリングコード	研究I NUS1281MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人々の生活の中での現象を客観的に捉え、その中にある疑問や問題を解決するための方法としての看護研究の必要性と意義を学ぶ。 2) 研究疑問を導くために必要である文献の意義を理解し、文献の整理、活用方法を学ぶ。 3) 研究をする上で必要とされる情報リテラシーを備えるための素地を養う。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護における研究の必要性及び研究疑問を持つことの意義を説明できる。 2) 文献検索の意義と文献の活用方法を理解できる。 3) 情報リテラシーと文献検索のための具体的方法について理解できる。 4) 文献の構成及び文献を客観的に読む方法について理解し、文献を読み、文献カードに整理する方法を理解できる。 5) 看護に関連するテーマについて複数の文献を用いグループで意見をまとめ、複数の文献より考察する意味及びその方法を理解できる。 				
授業概要	看護研究の必要性及び文献検索の意義を理解した上で、データベースを用い文献検索をし、文献の入手し、読み、文献カードに整理する。類似テーマである複数の文献を活用しグループでテーマについてまとめる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護研究の必要性と研究疑問	加藤【講義】	看護又は生活上の疑問に関するレポート	30分	
第2回	文献検索の意義と文献の活用方法	加藤【講義】	文献検索の意義、文献の活用方法を復習	15分	
第3・4回	情報リテラシーと文献検索の基本 文献検索の実際	加藤・孫田・医学図書館職員【講義・演習】	データベースを用い文献検索を実践	30分	
第5回	文献の読み方	加藤【講義】	提示した文献を読む	30分	
第6回	看護に関連するテーマの文献検索 文献の整理方法	加藤・孫田【講義・演習】	データベースを用い文献検索、入手(2本以上)、読む・文献カード作成	60分	
第7・8回	複数の文献を活用した意見のまとめ (グループワーク)	加藤・孫田【講義・演習】	グループワークでまとめた資料を確認、修正	60分	
テキスト	南裕子, 野嶋佐由美編: 看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 2017年				
参考書	山崎茂明, 六本木淑恵: 看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版, 日本看護協会出版会, 2010				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (70%) レポート (30%)	<p>到達目標 1) 2) 3) の達成度は正答率で評価する。</p> <p>到達目標 4) 達成度は以下で評価する。</p> <p>(10%) 看護又は生活上の疑問及びそれらを抱いた理由を分かりやすく記述されているかを評価する。</p> <p>(10%) 文献カードに、論文の構成に沿った要約、自己の考察が記述されているか、その内容で評価する。</p> <p>到達目標 5) の達成度は、以下で評価する。</p> <p>(10%) グループ単位での評価とする。複数の文献より、看護又は生活上の疑問に関する事柄のまとめ及びグループでの考察が記述されているかを評価する。</p>				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	講義の中での講評・個人レポートへのコメントを行います。				

科目名 ナンバリングコード	家族看護学 NUS3128MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、姫野 深雪、藤好 貴子、孫田 千恵				
教員の実務経験	本科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 家族看護の発展の歴史を理解し、家族看護における看護の役割、家族アセスメントの視点と家族の成長と発達を促す援助について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 家族看護の定義と歴史を説明できる。 2) 家族の多様性について述べるができる。 3) 家族を捉える諸理論（家族発達理論 家族ストレス対処理論 家族看護理論）について説明できる。 4) カルガリー式家族看護モデルに基づく家族アセスメントの方法を述べるができる。 5) カルガリー式家族看護モデルに基づく家族支援の方法を述べるができる。 6) 各領域における家族看護の特徴を説明できる。 7) 健康問題をもつ家族の事例演習を通して、家族が抱える苦悩と家族員間の相互作用に気づくことができる。 8) 健康問題を持つ家族の事例演習を通して、家族に対する支援の方向性を考察できる。</p>				
授業概要	システムとしての家族について理論的に学び、事例演習をとおして、健康問題を抱えた家族の状況を体験的に理解します。また支援の方法については、ロールプレイ演習の動画を基に多様な視点で検討します。これらによって、家族を支える看護について学びを深めることができます。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11・12回 第13・14回 第15回	<p>家族看護学 定義と変遷</p> <p>家族ヘルスケア諸理論 (家族発達理論と家族 ストレス対処理論)</p> <p>家族システム理論 (カルガリー式家族看護モデルについて)</p> <p>家族アセスメントの視点 (構造面のアセスメント/ジェノグラムとエコマップの作成)</p> <p>家族アセスメントの視点 (発達・機能面のアセスメント/円環的コミュニケーションパターンについて)</p> <p>健康問題をもつ「家族に対する介入 (カルガリー式家族介入モデルについて)</p> <p>母性看護学における家族看護</p> <p>小児看護学における家族看護</p> <p>高齢者看護学における家族看護</p> <p>健康問題をもつ家族の事例演習 (オリエンテーションとテーマ決定)</p> <p>健康問題をもつ家族の事例演習</p> <p>健康問題をもつ家族の事例演習 プレゼンテーション</p> <p>まとめ及び事例演習のフィードバック</p>	<p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>加藤【講義】 藤好【講義】 桐明【講義】</p> <p>桐明・姫野・孫田【演習】</p> <p>桐明・姫野・孫田【演習】</p> <p>桐明・姫野・孫田【演習】</p> <p>桐明・姫野・孫田【講義】</p>	<p>第1～第4回の予習については、テキストの該当箇所を熟読してこること。</p> <p>第1回から第5回の復習については、エクササイズを課す。期限までに提出すること。</p> <p>第10回～第14回については、各回の到達目標を示す。時間内に達しない場合、各グループで自主的に時間を作り課題に取り組むこと。</p>	<p>予習、復習については、各回30分から1時間程度</p>	
テキスト	小林奈美 グループワークで学ぶ家族看護理論 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ 第2版 医歯薬出版 2011				
参考書	鈴木和子 渡辺裕子 佐藤律子 家族看護の理論と実践 第5版 日本看護協会出版会 2019				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (70%) 演習評価 (30%)	到達目標 1) ～ 6) に対する達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。 到達目標 7) の到達度を、システムとしての家族の理解や事例の妥当性、事例演習へ取り組む態度を得点化し、評価する。 到達目標 8) の到達度は、事例演習後の課題レポートの内容を得点化し、評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題 (レポート) は、正答を示すと共に採点后、返却する。

科目名 ナンバリングコード	災害看護学 NUS2142MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 孫田 千恵				
科目担当任者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、姫野 深雪、池上 明由美、石橋 秋奈、山田 泰子、専任教員1名				
教員の実務経験	この科目は、看護領域における臨床経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の ①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外の災害の事例を踏まえ、災害の概念や災害時の健康障害、災害時の医療ニーズの変化に対応する看護職の役割と機能について学ぶ。 2) 災害後の危機的状況に対応するシステムと継続的な支援活動を維持するためのシステムを学ぶ。 3) 災害看護の実践に関して、倫理観に基づく看護師の役割と援助方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外で発生する災害の現状をふまえ災害の定義、災害看護活動内容を説明できる。 2) 災害看護活動に関連する法律について説明できる。 3) 災害サイクル各期における看護の意義と役割について説明できる。 4) 災害時における各種医療支援チーム、危機管理支援チームと看護の役割について説明できる。 5) 被災状況が及ぼす健康への影響を理解し、災害看護活動の場における生活への援助、身体的・精神的健康管理について述べる事ができる。 6) 災害時の被災者及び援助者の心理と援助について説明できる。 7) 避難所における被災者の特徴や要配慮者への看護、ボランティア活動について説明できる。 8) 限られた資材と人材で、適切なトリアージと救護処置、避難行動支援が実施できる。 9) 自己防災および地域防災の実際について述べる事ができる。 				
授業概要	災害の概念や災害サイクル、災害に関する法律や制度、災害時における危機管理体制、災害が人々の心身の健康に及ぼす影響および看護師が果たす役割や支援活動を学ぶ。それらの知識を踏まえて、災害時に必要な援助技術（トリアージ、搬送、応急処置）、避難所支援の演習（生活支援、避難所設営）を実施する。また、アクティブラーニングにて、地域のハザードマップや避難経路を調査し、自己防災および地域防災について検討する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7・8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	災害の現状と危機管理体制 災害活動のあゆみ、災害看護の基礎知識 災害に関する法律や制度と災害への備え 災害サイクルと看護活動：超急性期～急性期 災害サイクルと看護活動：亜急性期～慢性期 災害時における病院の危機管理体制と看護 災害時に必要な技術：トリアージ、搬送、治療、三角巾法 被災者、救護者のストレスと心のケアについての理解 災害時要配慮者とボランティア活動 避難所、福祉避難所、応急仮設住宅等での生活と看護 被災地での生活支援（食事・排泄・睡眠） 災害シミュレーション：避難所設営・支援 地域の防災活動：ハザードマップの活用 災害看護における倫理	孫田【講義】 孫田【講義】 山田【講義】 孫田【講義】 桐明【講義】 石橋【講義】 孫田・全員【演習】 姫野【講義】 池上【講義】 孫田【講義】 孫田・全員【演習】 池上・全員【演習】 孫田・全員【演習】 孫田【講義】	各回の配布資料やテキストで復習をすること。 演習においては、事前課題を科す。	各回 30分 程度	
テキスト	1) 酒井明子、増野園恵（編）：災害看護、南江堂、2023、改訂第4版				
参考書	1) 黒田裕子、酒井明子（編）：災害看護、メディカ出版、2021、第4版 2) 浦田喜久子、小原真理子（編）：災害看護学・国際看護学、医学書院、2017、第3版 授業中にその都度紹介する。				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (80%) 課題レポート (10%) 演習態度 (10%)	到達目標 1)2)3)4)6)7) の達成度は、試験問題の正答率で評価する。 到達目標 5) は、課題レポートに対する内容を評価する。 到達目標 8)9) は、演習への取り組み (振り返りシート) の内容を評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題レポートの返却・フィードバックは講義の中で適宜行う。

科目名 ナンバリングコード	国際看護学 NUS3171MN4	選択科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	国際交流センター長 与小田 隆一（文学部） 非常勤講師 小川 里美（日本赤十字九州国際看護大学） 医学部看護学科 石橋 秋奈				
教員の実務経験	本科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 看護職者として国際的視野をもって、世界の人々の健康問題とその保持・増進に向けて活動する国際機関・国際協力の仕組みについて学び、現状と課題について考察することができる能力を養う。</p> <p>到達目標 1) 国際看護の位置づけについて国際保健との関連から説明できる。 2) 国際交流の実際を知り、異文化を理解することの意義を説明できる。 3) 世界における疾病構造・健康問題、関連する経済的な状況を述べるができる。 4) 国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組みを説明できる。 5) ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標について説明できる。 6) 世界の人々の健康問題に関心を持ち、看護職者が果たす役割について述べるができる。</p>				
授業概要	国際社会の動向に関心を持ち、看護者として身近なところから国際社会への貢献を考えることができる力を培います。そのために、世界的な健康問題やその解決のための国際機関、国際協力の仕組みについて主体的に学び、国際的な課題と看護職者の役割について理解を深めます。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5・6回 第7・8回	国際看護とは（国際看護の概念・歴史） 文化に対する理解と看護実践 異文化理解 久留米大学の国際交流事業 グローバルヘルス 世界の疾病構造、健康問題 国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組み ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標について 国際看護活動の実際 紛争や難民といった国際的な課題に対して看護が果たす役割について 国際看護活動の現状と課題 (グループワークとプレゼンテーション・意見交換)	桐明 【講義】 与小田 【講義】 桐明 【講義】 桐明 【講義】 小川 【講義】 桐明・石橋 【講義・演習】	各回に、課題レポートを課します。 報道を通して得られる国際社会の動向を良く把握して講義に臨んでください。	各回 40分 程度	
テキスト	特定のテキストは使用しない。				
参考書	森 淑江他 編集 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために 初版 南江堂 2019 近藤 麻理 知って 考えて 実践する 国際看護 第2版 医学書院 2018				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (60%) レポート (40%)	到達目標 1) ~ 4) は試験の問題に対する正答率で評価する。 到達目標 5) 6) は、課題レポートを課し、その記述内容を点数化して評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題 (レポート等) は評価内容を講義時間内に伝える。				

科目名 ナンバリングコード	臨床心理学 CLP2211MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	非常勤講師 高松 真理（臨床心理士・公認心理師）				
科目担当者	医学部看護学科 舞弓 京子、福浦 善友、松島 亜希子 非常勤講師 宮崎 英義（臨床心理士）				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護実践に資する臨床心理学の知見を活かし、下記項目について基礎的知識と実践力を身につけている；多層的な対人理解。援助関係形成及び援助の方法、カウンセリング</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理臨床の歴史と実践の概略を学ぶことで、多角的な人間理解の必要性を理解できる。 2) 代表的な心理療法について、その考え方と技法を説明できる。 3) 主たる心理検査について理解し、心理的アセスメントの視点の基礎を身につけている。 4) カウンセリングの基本的な方法について説明し、実践出来る。 				
授業概要	パワーポイントとその配布資料を使用した授業を行う。質問はメール等で随時受け付け、翌回授業にて応答する。演習はロールプレイをその中心とする。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11・12回 第13・14回 第15回	臨床心理学の歴史 臨床心理学の視点 心理検査① 知能検査 心理検査② 性格検査 描画法 心理療法のいくつかの立場 話の「聴き方」…カウンセリングの考え方を活かす 発達障害支援をめぐる面接について 感想・質問を受けて 演習について 演習 演習 総括	舞弓【講義】 高松【講義】 高松【講義】 高松【講義】 宮崎【講義】 高松【講義】 高松【講義】 高松【講義】 高松【講義】 宮崎【講義】 高松【講義】 高松【講義】 舞弓・福浦・松島・ 高松【演習】 高松【講義】	・看護者としてのみならず、自身のこととしても各回授業内容についての考えを深めた後翌回に臨まれることを強くお勧めします。（「私だったら…」と考えることが理解を深めます） ・演習については、手順と目的を事前にしっかり理解した上で臨んでください。	各15分 20分	
テキスト	資料配布。				
参考書	高松真理；対人援助を心理職が変えていく，遠見書房，2022 福島哲夫；面白くてよくわかる！臨床心理学，アスペクト，2009				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（85%） レポート（15%）	授業内容の理解度について正答率で評価する。 授業中及び演習後に課すレポート・記載（課題についてどの程度深く考えようとしたか）も評価対象とする。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	授業の中で全体フィードバックを行います。				

科目名 ナンバリングコード	保健医療統計学 SBM2112MN5	必修科目	3年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 保健医療情報の読み取り方や目的に応じたデータ解析の方法・結果の活用方法について修得し、地域や看護の問題解決に役立てられるようにする。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 人口統計や保健統計調査の現状や動向を説明できる。 2) NDB や KDB 等のデータベースの特徴を説明できる。 3) 記述統計量（代表値、ばらつき）について説明できる。 4) データ解析目的に応じた推定や検定について説明できる。 5) データ解析で得られた結果について説明できる。</p>				
授業概要	定期的に授業内容に関連した問題を掲示し、それに対し学生同士で検討する時間を設け授業の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	人口統計（静態統計・主な健康指標と動向）	梶【講義】	人口構造の変化	30分	
第 2 回	人口統計（動態統計・疾病統計の動向）	梶【講義】	死因統計、年齢調整死亡率	30分	
第 3 回	保健統計調査（基幹統計等の動向：患者調査）	梶【講義】	国民生活基礎調査	30分	
第 4 回	保健統計調査（その他の統計調査の動向：感染症・食中毒統計、地域保健・健康増進事業報告、衛生行政報告等）	梶【講義】	国民健康・栄養調査 健康日本 21（第3次）	30分	
第 5 回	保健統計調査（医療経済統計の動向、KDB、NDB）	梶【講義】	データベース	30分	
第 6 回	記述統計量の特徴	梶【講義】	代表値と散布度	60分	
第 7 回	カテゴリカルデータの分析	梶【講義】	カイ二乗検定	60分	
第 8 回	連続データの分析	梶【講義】	分散分析	60分	
第 9 回	多群間の分析	梶【講義】	多重比較	60分	
第 10 回	回帰分析	梶【講義】	相関、残差	60分	
第 11 回	層別解析と多変量解析	梶【講義】	交絡因子	60分	
第 12 回	多変量解析（線形性・正規・等分散の確認、非線形関係）	梶【講義】	ダミー変数、共線性	60分	
第 13 回	多変量解析（効果修飾、変数選択、不均一分散）	梶【講義】	中心化、対数変換	60分	
第 14 回	多変量解析（ロジスティック回帰分析）	梶【講義】	オッズ比	60分	
第 15 回	多変量解析（多変量解析を組み合わせた分析）	梶【講義】	ロジスティック回帰分析	60分	
テキスト	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 2024-2025 第 6 版 MEDIC MEDIA 2024 年				
参考書	柳川堯 他 新 看護・リハビリ・福祉のための統計学 内田治 他 JMPによる医療・医薬系データ分析 第2版 吉田寛輝 JMPによる医療統計	近代科学社 東京図書 アトムス	2021年 2021年 2022年		
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	保健医療福祉行政論 SBM2213MN5	必修科目	3年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎				
科目担当者	非常勤講師 土井 巧 (朝倉市役所)				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 我が国の財政状況や社会状況の変化を踏まえ、保健医療福祉行政のしくみや社会保障制度について理解を深め、地域で保健医療福祉活動を行う際に必要とされる知識や考え方を養う。 地域の健康問題を解決するための考え方、事業化のプロセス、評価技術を学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健医療福祉行政における保健所や市町村等の機能について説明できる。 財政のしくみや予算編成について説明できる。 医療提供体制、医療保険、介護保険、年金・生活保護制度について説明できる。 政策体系や保健医療福祉計画について説明できる。 施策化や事業化の進め方、事業評価の観点について説明できる。 				
授業概要	定期的に授業内容に関連した問題を掲示し、それに対し学生同士で検討する時間を設け授業の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	保健医療福祉行政のしくみと機能①	梶 【講義】	保健所、市町村、精神保健福祉センター、福祉事務所	60分	
第 2 回	保健医療福祉行政のしくみと機能②	梶 【講義】	地方衛生研究所、労働行政、国際協力	60分	
第 3 回	財政のしくみと予算	梶 【講義】	予算の原則、予算編成、地方分権	60分	
第 4 回	社会保障制度のしくみと財政	梶 【講義】	社会保障給付費、年金、生活保護	60分	
第 5 回	医療制度と医療費	梶 【講義】	保険の種類、公費医療、傷病別医療費	60分	
第 6 回	医療提供体制	梶 【講義】	医療法、医療計画、国際比較	60分	
第 7 回	介護保険制度のしくみ	梶 【講義】	要介護認定、サービスの種類、介護予防	60分	
第 8 回	持続可能な社会保障制度について考える	梶 【講義】	人口減少、家族と世帯、財政、経済状況	60分	
第 9 回	健康政策の進め方	梶 【講義】	健康日本 21 (第 3 次)、健康格差	60分	
第 10 回	健康政策のアプローチ	梶 【講義】	ナッジ、HiAP、ソーシャルキャピタル	60分	
第 11 回	政策体系と保健医療福祉計画	梶 【講義】	総合計画、法的根拠、アカウントビリティ	60分	
第 12 回	施策化・事業化の進め方	梶 【講義】	地域診断、予算、マンパワー、事業委託	60分	
第 13 回	事業評価	梶 【講義】	費用対効果、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価	60分	
第 14 回	事業の企画・立案・実施・評価の実際	土井 【講義】	法的根拠、予算、PDCA、議会	60分	
第 15 回	事業化の意義と行政看護職の役割	梶 【講義】	保健師	60分	
テキスト	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 2024-2025 第 6 版 MEDIC MEDIA 2024 年				
参考書	梶野美智子 田中耕太郎 はじめての社会保障 第 21 版 有斐閣アルマ 2024 年 野村陽子 / 加藤典子 編 保健医療福祉行政論 メヂカルフレンド社 2022 年 藤内修二 著者代表 保健医療福祉行政論 第 5 版 医学書院 2021 年 近藤尚己 健康格差対策の進め方 医学書院 2016 年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (100%)	到達目標の達成度を正答割合で評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	健康教育方法論 NUS2239MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 河原田 康貴				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かづき、佐藤 祐佳、加藤 陽子、草場 知子、福浦 善友、松島 亜希子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②に必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフステージや健康レベルごとの健康問題や課題について学ぶ。 2) 健康問題をもつ個人や集団の特徴を捉えてアセスメントし、効果的な健康教育を実践するための技能を修得することができる。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康教育の目的や、健康教育の対象となる人々の健康問題や課題について説明できる。 2) 健康教育の基盤となる諸理論、方法論について説明できる。 3) 健康教育の対象となる個人や集団の健康問題や課題をアセスメントし、行動変容に向けた健康教育の展開について理解することができる。 4) 演習ではグループメンバー同士で協力し、事例の特徴やニーズに沿った健康教育を企画・実施・評価することができる。 				
授業概要	健康問題の解決のためには、人々が自らの健康上の問題や課題に意識を向け、必要な知識や技術を習得し、主体的に前向きに取り組むことが重要である。本科目では、そのプロセスを促す支援である健康教育について、講義で基本となる知識や技術を学び、演習では事例を設定し、健康教育の企画・実施・評価まで一連の展開を実践する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	健康教育とは、健康教育の目的と対象	河原田【講義】	講義では復習を中心に、講義内容や配布資料を見直し、ポイントをノートにまとめる。さらに文献や書籍などを活用して、理解を深める。 演習ではまず課題に沿った基礎学習を各自で行い、健康問題や課題について理解を深める。さらにグループメンバー同士で協力して、発表に向けた準備を段階的に行う。	各回 30～ 60分	
第2回	健康教育のための理論、方法論①	河原田【講義】			
第3回	健康教育のための理論、方法論②	加藤【講義】			
第4回	周産期における健康教育①	加藤【講義】			
第5回	周産期における健康教育②	益守【講義】			
第6回	小児期における健康教育①	益守【講義】			
第7回	小児期における健康教育②	河原田【講義】			
第8回	成人期における健康教育①	河原田【講義】			
第9回	成人期における健康教育②	草場【講義】			
第10回	老年期における健康教育①	草場【講義】			
第11回	老年期における健康教育②	松島【講義】			
第12回	精神科領域における健康教育①	松島・福浦【演習】			
第13回	精神科領域における健康教育②	佐藤【講義】			
第14回	公衆衛生における健康教育①	佐藤【講義】			
第15回	公衆衛生における健康教育②	河原田【講義】			
第16・17回	健康教育の企画・実施・評価	河原田【講義】			
第18・19回	健康教育演習：企画書、指導案の作成	河原田・佐藤【演習】			
第20・21回	健康教育演習：シナリオ、媒体の作成	河原田・佐藤【演習】			
第22・23回	健康教育演習：リハーサル、発表準備	河原田・佐藤【演習】			
	健康教育演習：発表	河原田・佐藤・加藤・草場【演習】			
テキスト	必要な資料を適時配布する。				
参考書	講義の中で紹介する。				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（40%） 演習評価（50%） 受講態度（10%）	定期試験によって、到達目標の達成度を評価する。 演習への取り組みや発表をポイント化し、評価する。 講義や演習へ積極的に参加する姿勢（意見、質問等）等をポイント化し、評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題やレポートの返却・フィードバックは、講義の中で適宜行う。

科目名 ナンバリングコード	看護過程Ⅱ NUS2138MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 姫野 深雪				
科目担当者	医学部看護学科 河原田 康貴、孫田 千恵、水落 裕美、新 裕紀子、松島 亜希子、山下 寛子、池上 明由美、石橋 秋奈、松本 くらら、他専任教員				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 看護過程Ⅰの学習内容を基盤に、健康上の問題や障害をもつ人および家族の療養生活支援を対象とした看護過程の展開を通じて、個々の患者と家族に応じた看護実践を検討できる。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 紙上事例において、患者理解のためゴードンの機能的健康パターンを活用し、系統的な情報収集・整理ができる</p> <p>2) 患者および家族の必要な情報から、疾患、治療、症状などの影響を踏まえて情報を解釈し、アセスメントを記述することができる</p> <p>3) 患者の疾患や治療を含む健康状態と生活行動との関連性を統合し、全体像を描くことができる</p> <p>4) 患者の看護問題を明確に示し、その優先順位を説明できる</p> <p>5) アセスメントに基づき、患者に応じた看護目標の設定と看護計画を立案できる</p> <p>6) 看護記録を用いて看護実践の実施・評価の記述することができる</p> <p>7) 紙上事例の一連のプロセスを通じて、看護過程の展開を説明できる</p>				
授業概要	看護過程Ⅰのクリニカルシンキングや問題解決法などによる思考過程を活用し、疾患を持つ患者・家族の療養生活支援に要である看護過程の展開方法を学ぶ。患者理解には、疾病治療論、臨床薬理、臨床栄養などディプロマポリシー DP3 ①に相当する既習を駆使して、学習に取り組む必要がある。紙上事例に学生が取り組む自習（課題）、講義、個別指導、グループワーク等を用いたアクティブラーニングで講義を展開する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	看護過程とゴードンの機能的健康パターン、演習オリエンテーション	姫野【講義】	看護過程Ⅰの復習、情報の整理	30分	
第2回	アセスメント①機能的健康パターン1～4（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（パターンの意味とクラスタリング）の実施	60分	
第3回	アセスメント②機能的健康パターン1～4（個別指導）	担当者全員【演習】	課題（クラスタリングの修正とアセスメント）の実施・提出	60分	
第4回	アセスメント③機能的健康パターン1～4（全体討議）	姫野【講義・演習】	課題（アセスメントの修正）の実施	60分	
第5回	アセスメント④機能的健康パターン5～11（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（パターンの意味とクラスタリング）の実施	60分	
第6回	アセスメント⑤機能的健康パターン5～11（個別指導）	担当者全員【演習】	課題（クラスタリングの修正とアセスメント）の実施・提出	60分	
第7回	アセスメント⑥機能的健康パターン5～11（全体討議）	姫野【演習】	課題（アセスメントの修正）の実施	60分	
第8回	関連図・全体像（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（関連図・全体像）の実施・提出	60分	
第9回	関連図・全体像（個別指導）	担当者全員【演習】	課題（関連図・全体像）の修正の実施	60分	
第10回	関連図・全体像（全体討議）	姫野【演習】	課題（アセスメント・関連図・全体像）の修正・見直し	60分	
第11回	看護計画立案（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（看護問題リスト・看護計画）の実施・提出	60分	
第12回	看護計画立案（個別指導）	担当者全員【演習】	課題（看護問題リスト・看護計画の修正）の実施	60分	
第13回	看護計画の発表（全体討議）	姫野【演習】	課題（看護問題リスト・看護計画の修正）の実施	60分	
第14回	アセスメント、関連図、全体像、看護計画までの修正（個別指導）	担当者全員【演習】	課題（アセスメント・関連図・全体像、看護問題リスト、看護計画の修正）の実施	60分	
第15回	看護記録（SOAP）と看護計画の評価・修正	姫野【演習】	課題（SOAPと計画修正）の実施・提出	60分	

テキスト	江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，ヌーヴェルヒロカワ，2019 上野栄一・西田直子編集，看護診断の看護過程ガイド，中央法規，2022	
参考書	看護過程 I および本科目に関連する科目のテキストを活用する。 永田明ら編集：看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版，メディックメディア，2020	
成績評価		
方法 (割合)	基準	
筆記試験 (50%) レポート (50%)	到達目標 2)3)4)5)6) の達成度を正答率で評価する 到達目標 1) ～ 7) 患者理解のための情報収集、アセスメント、関連図・全体像、看護計画及び看護記録の作成という看護過程のプロセスを辿ることができ、考察及び記載できているか評価する	
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは採点後に個人指導を行い返却する。	

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅療養生活支援論 NUS3251MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子 森永 朗子 非常勤講師 秋山 悠一 (医療法人社団 秀和会) 非常勤講師 小野 幸代 (在宅療養サポートセンター 久留米)				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。 ・訪問看護 (高齢者・小児・看取り)・地域包括支援センター (相談業務)				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者とその家族に対する看護を展開するための基本的知識と支援方法について理解する。 2) 地域・在宅看護を展開するための社会制度の活用及び多職種連携の基本的知識について理解する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者を支える社会制度の活用の必要性とその方法について説明できる。 2) 在宅における日常生活援助方法・医療処置管理のあり方を理解し、在宅特有の注意点や配慮する点について述べるができる。 3) 在宅療養者の終末期看護や意思決定の支援のあり方について関心を持ち学習し、自分の考えを述べるができる。 4) 在宅療養児の健康支援と成長発達に伴う医療・福祉・保育・教育・行政などの多職種連携支援の現状と課題について説明できる。 5) 事例の看護過程展開を通して疾病が生活にどのように影響を与えているか在宅看護特有の看護問題を整理できる。 6) チーム医療及び多職種の連携・協働における在宅看護師の役割について体験学習を通してチームの意見を取り入れ自分の考えを述べるができる。 				
授業概要	在宅療養者とその家族に対する看護の展開方法を理解し、その人らしい療養生活を支えるための個性のある援助技術の在り方とその応用について学ぶ。本講義を通して1事例に関する看護を思考させ、アセスメントに基づいた看護実践演習を体験することで、在宅看護のイメージ化を促し実践力を養うことを目指す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	地域療養を支える制度とその活用 —協同学習—	渡邊【講義】	【予習】 毎回提示された講義内容のテキストの範囲を読んで質問したい内容を明確にして講義に臨む	毎回予習と復習で各30分～60分	
第2回	在宅療養を支える基本的な技術①	森永【講義】			
第3回	在宅療養を支える基本的な技術②	山下【講義】			
第4回	在宅における看護過程展開① (事例と演習課題の提示・記録用紙の配布)	渡邊【講義】			
第5回	在宅における日常生活支援の実際	渡邊【講義】	第6・7回の演習は第5回のオリエンテーションを参考に「日常生活援助技術」を復習して臨む		
第6・7回	事例を使った日常生活援助の実際 (日用品を使った洗髪・清拭・部分浴)等	渡邊・山下・森永【演習】			
第8回	在宅における医療的ケアの実際	渡邊【講義】	第9・10回の演習は第8回のオリエンテーションを参考に「診療の補助」の講義を復習して臨む		
第9・10回	在宅における医療機器の特徴と管理 (人工呼吸器・自動注入ポンプ・酸素濃縮器等)	渡邊・山下・森永【演習】			
第11回	在宅における看護過程展開② —IWと発表— (演習課題：情報の整理とアセスメント)	渡邊・山下・森永【演習】	第11回の看護過程は情報の整理とアセスメントを記述して臨む		
第12回	在宅における小児障害児の看護の実際	渡邊【講義】			
第13回	医療的ケア児支援センターの役割 —地域で医療的ケア児の命と育ちを支える支援—	横田【特別講義】	第16回はACPについて自ら参考文献を検索し自己学習して臨む		
第14回	在宅における看護過程展開③ —IWと発表— (関連図から看護問題抽出)	渡邊【講義・演習】			
第15回	在宅における終末期看護	小野【講義】	第16回はACPについて自ら参考文献を検索し自己学習して臨む		
第16・17回	在宅療養におけるACPと意思決定支援 (もしバナゲームを活用した体験学習)	渡邊・山下・森永【演習】			
第18回	訪問歯科診療と多職種連携の実際 (歯科医から看護師に期待する連携のあり方)	秋山【講義】			

第19回 第20・21回 第22回 第23回	多職種連携の実際 —共同学習・R P・発表— 在宅ケアにおける多職種の連携・協働 (事例のサービス担当者会議のロールプレイ) 在宅における看護過程展開④ —GWと発表— (これまでの演習のまとめ) まとめ 実習に向けて	渡邊【講義】 渡邊・山下・森永 【演習】 渡邊・山下・森永 【演習】 渡邊【講義】	第20回はサービス担当者 会議についてテキストで予 習して臨む 第22回の看護過程は関連 図と看護問題の記述をして 臨む 【復習】 テキスト・講義資料と自分 のノートを振り返り理解を 深める。さらに疑問などが あれば、次回の講義か直接 教員に質問して明確にする。	毎回予習 と復習で 各30分 ～60分
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022年版) (購入済み)			
参考書	①日本在宅ケア学会 在宅ケア学第1巻～第6巻 株式会社ワールドプランニング 2015年 ②押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 (株)インターメディカ 2016年			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
筆記試験 (70%) レポート (15%) 受講態度 (15%)	筆記試験：到達目標 1)2)3)4)6) の達成度を正答率で評価する。 レポート：到達目標 5) の達成度を在宅療養者の生活を支える視点で身体・心理・環境・家族の状況を関連付 けて看護問題を抽出しているか看護過程演習課題を5項目各3点で評価する。 意欲・関心：到達目標 1)～6) について各講義内容の中から自分が特に関心を持った内容を引用し具体的に 感想・質問及び自分の考えが記述されているか毎回0～2点で評価する。			
課題 (レポート等) に対するフィードバック	講義の中で解説する。採点後実習初日に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援論 NUS2155MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 田中 佳代、永田 真理子、岡村 光子、竹藤 徳子、松本 くらら				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族の身体・心理・社会的特徴に関する理解を深め、対象に応じたアセスメント及び看護実践を検討できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもを産み育て、親になることの意味することを理解し、子どもを産み育てることに関する看護を学ぶ意味を説明できる。 2) 妊娠・分娩・産褥の生理、各時期の身体的特徴及び変化と新生児の発育と生理について説明できる。 3) 妊産褥婦の心理・社会的特徴及び各時期における家族の新しい役割に関する課題について説明できる。 4) 妊娠・分娩・産褥経過及び各時期の身体・心理・社会的特徴をふまえた、妊産褥婦、新生児とその家族のアセスメントを説明できる。 5) 妊産褥婦、新生児とその家族の身体・心理・社会的側面における健康の保持・増進のための具体的な看護実践が説明できる。 6) 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊産褥婦及び新生児におこる問題とそれらに対する看護実践を説明できる。 7) 母子及び家族の健康の保持・増進のために必要とされる看護過程の特徴を説明できる。 				
授業概要	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の経過順に授業を進め、各時期の最終授業にて授業内容に関する問題を作成することにより、各時期の生理、特徴を理解し、アセスメント及び看護実践を思考する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	子どもを産み育てることとその看護	加藤【講義】	子どもを産み育てることを支援することに関するレポート	15分	
第2回	妊娠期の生理と経過、身体的特徴	永田【講義】	妊娠期の身体的特徴の復習	30分	
第3回	妊娠期の心理・社会的特徴	永田【講義】	妊娠期の心理・社会的特徴を復習	30分	
第4回	妊婦のアセスメントと看護	永田【講義】	妊娠のアセスメントを復習	30分	
第5回	妊婦と家族への看護（グループワーク）	担当者全員【演習】	第7回授業のプレゼンテーションの準備	60分	
第6回	胎児・家族のアセスメントと看護	永田【講義】	胎児・家族のアセスメントを復習	30分	
第7回	妊婦と家族への看護（プレゼンテーション）	担当者全員【演習】	プレゼンテーション資料の見直し	30分	
第8回	妊娠期の異常と看護	永田【講義】	妊娠期の問題、解説を作成	30分	
第9回	分娩の生理と経過、身体・心理的特徴	加藤【講義】	分娩経過の復習	30分	
第10回	産婦・胎児、家族のアセスメント	加藤【講義】	分娩期のアセスメントの復習	30分	
第11回	産婦と家族の看護	加藤【講義】	分娩期の看護実践内容の復習	30分	
第12回	分娩期の異常と看護	加藤【講義】	分娩期の問題、解説を作成	30分	
第13回	産褥期の生理と経過、身体・心理・社会的特徴	加藤【講義】	産褥経過の復習	30分	
第14回	産褥期の退行性変化のアセスメントと看護	加藤【講義】	子宮復古のアセスメントを復習	30分	
第15回	褥婦・家族の心理・社会的アセスメントと看護	加藤【講義】	親役割に関するアセスメントを復習	30分	
第16回	産褥期の進行性変化のアセスメントと看護	加藤【講義】	乳房の変化・母乳哺育の復習	30分	
第17回	産褥期の異常と看護	加藤【講義】	産褥期の問題、解説を作成	30分	
第18回	新生児の生理と経過、身体的特徴	岡村【講義】	新生児の身体的特徴を復習	30分	
第19回	新生児のアセスメント	岡村【講義】	新生児のアセスメントを復習	30分	
第20回	新生児の看護	岡村【講義】	新生児の看護実践内容を復習	30分	
第21回	ハイリスク新生児とその家族への看護	岡村【講義】	新生児期の問題、解説を作成	30分	
第22回	看護過程（産褥期の退行性変化）	担当者全員【講義】	看護過程の見直し	30分	
第23回	看護過程（産褥期の進行性変化と母親役割）	担当者全員【講義】	看護過程の見直し	30分	

テキスト	森恵美：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版、医学書院、2021 医療情報科学研究所：病気が見える vol.10 産科、メディックメディア、2018	
参考書	授業中に適宜紹介する	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（80%） レポート（20%）	<p>到達目標 2)3)4)5)6)7) の達成度を正答率で評価する。</p> <p>到達目標 1) の達成度は以下で評価する。</p> <p>(5%) 子どもを産み子どもを産み育てることを支援する意味が含まれているかを評価する。</p> <p>到達目標 2)5) の達成度は</p> <p>(15%) 各時期の生理、特徴又は看護実践に関する問題及び解説を作成し、内容によって評価する。</p>	
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題に関しては必要時、記述又は口頭でフィードバックを行う。	

科目名 ナンバリングコード	終末期・緩和ケア看護論 NUS2252MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、姫野 深雪、石橋 秋奈、専任教員 大学病院看護部 中島 菜穂子、松尾 光代				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人生の最後のときを迎える成人と家族への看護のあり方を熟考する。 2) 緩和ケアの基盤となる考え方と具体的な援助方法について学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人生の最後のときを迎える成人と家族の状況について説明できる 2) 「あなたの死のイメージ・考え・体験について」課題レポートに記述する 3) 様々な死生観を共有し、看護職としてのあり方を感じることができる 4) WHOの緩和ケアの基盤となる考え方について説明できる 5) 基本的緩和ケアにおける対象理解（アセスメント）と症状マネジメント、多職種連携について説明できる。（生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族の持つ、痛みやその他の身体・精神的問題、家族・社会的問題、スピリチュアルな問題とマネジメント方法について説明できる） 6) 高度実践看護師による専門的緩和ケアの実際について説明できる 7) 死にゆく患者とどう話すか、看護師としての姿勢やコミュニケーションについて計画することができる。 8) 7)の演習後、自己の振り返り（自己評価）、グループでの討議や教員からのフィードバックを統合し、緩和ケアのコミュニケーションについて気づいたことや再考したことを記述することができる。 9) 看取りの看護について説明できる 10) 家族看護（グリーフケアについてなど）の必要性について説明できる 				
授業概要	この授業は、いのちの大切さ、より良く生きることを前提とし、死が身近にある人や家族を全人的に理解し、基本的緩和ケアの基盤となる考え方、具体的なコミュニケーションの取り方、「苦痛の緩和」の看護実践、看取りのケア、家族への支援（グリーフケア含む）について熟考することを重視しながら進める。様々な死に対するイメージ・考え・体験を共有する中で自身の感性を磨き、学生自身がより良く生きる意味を考え、看護職者としての死生観を育む機会にして欲しい。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	人生の最終段階にある人への看護	崎浜【講義】	□各回予習： テキストの該当箇所の熟読 第1回 1)288-297 第3回 2)19-56 第4-7回 2)58-232 第8-9回 2)39-56 2)317-328 1)304-309,318-327 第10-12回 2)234-252	予習 各回30 ～60分 程度 復習 各回30 分程度	
第2回	看護職への問、いのちの大切さ、より良く生きることを前提に死生観を考える	崎浜【講義】			
第3回	基本的緩和ケア概論	*On-line 講義予定 崎浜【講義】			
第4回	緩和ケア：身体・精神症状マネジメント① (呼吸困難、不安・抑うつ)	姫野【講義】			
第5回	基本的緩和ケア：身体・精神症状マネジメント② 痛みのメカニズム、薬剤の理解、特徴的な痛みの緩和)	姫野【講義】			
第6回	基本的緩和ケア：家族・社会的苦痛と支援	桐明【講義】			
第7回	基本的緩和ケア：スピリチュアルケア	姫野【講義】			
第8回	専門的緩和ケアの実際①事例：がん患者の緩和ケア	松尾【講義】			
第9回	専門的緩和ケアの実際②事例：心不全患者の緩和ケア	中島【講義】			
第10回	基本的緩和ケア：コミュニケーション	姫野【講義】			
第11・12回	緩和ケアコミュニケーションの模擬実践	姫野・崎浜・桐明・ 河原田・石橋【演習】			

第13回	見取りの看護（エンジェルケア含む）	崎浜【講義】	第13回 2)280-300	予習 各回30 ～60分 程度 復習 各回30 分程度
第14回	家族ケア	桐明【講義】	第14回 2)302-316	
第15回	まとめ	崎浜【講義】	□【第2回】 事前課題：「あなたの死のイメージ・考え・体験」を記述せよ（400字以上） 事後課題：事例共有の感想 □【第11・12回】事前課題：緩和ケアの「コミュニケーション」計画立案提出 事後課題：演習後の評価・修正	
テキスト	1) 林直子、鈴木久美他（編）：急性期看護学概論 改訂第4版 南江堂 2022年 2) 宮下光令（編）：緩和ケア ナーシング・グラフィカ MCメディカ 2022年			
参考書	①鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ 2022年第2版 ②柏木哲夫・藤腹明子編集：系統看護学講座別巻10、緩和ケア 医学書院			
成績評価				
方法（割合）	基準			
筆記試験（70%） 課題レポート（20%） 態度（10%）	到達目標の達成度を、試験問題の正答率で評価する 到達目標の達成度を、レポート（講義・演習の前・後レポートなど）の記載内容で評価する 講義・演習などへの主体的学習態度を評価する			
課題（レポート等）に対するフィードバック	授業中にフィードバックし、各自での振り返りを行う。			

科目名 ナンバリングコード	高齢者療養生活支援論 NUS2153MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 草場 知子				
科目担当者	医学部看護学科 古村 美津代、新 裕紀子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の下位目標②に必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 加齢による心身の変化や健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、老年期にある対象とその家族に対する看護の実践方法について学ぶ。</p> <p>到達目標 1) 老年期に起こりやすい健康障害や特徴的な症状について理解し、アセスメントと看護について説明できる。 2) 高齢者がその人らしく生活するために、健康状態の保持・増進、予防に向けた看護援助について説明できる。 3) 認知症高齢者及び家族への支援について理解し、基本的な援助技術について説明できる。 4) 人生の最終段階における高齢者とその家族の意思決定や尊厳を守る支援について考察することができる。 5) 高齢者と家族の生活を支えるための他職種との連携・協働、看護職の役割について説明できる。 6) 事例をもとに高齢者のアクティビティケアや看護計画の立案の視点を理解し、説明できる。</p>				
授業概要	この授業では、老年期にある人の加齢による変化や疾患により生じた健康課題について理解し、高齢者が最期までその人らしく生活できるよう、本人とその家族のもつ力を活かすことのできる看護の方法について学ぶ。さらに、高齢者を支える家族への支援、地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉の連携やさまざまな看護の場における看護の果たす役割について学ぶ。授業・演習は、講義資料（印刷配布物）と視聴覚メディアなどを活用し、事例をもとにグループワークや発表を行う。第14回では介護経験のある家族を招聘することで、家族支援についてより具体的に学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	草場【講義】	・2年次の生涯発達看護概論及び高齢者生活支援論で学習した内容を踏まえて授業に臨む	各 30分 ～ 60分	
第2回	高齢者の清潔・整容・衣生活の援助	草場【講義】			
第3回	高齢者の褥瘡予防とスキンケア	新【講義・演習】			
第4回	高齢者の排泄の援助	新【講義・演習】			
第5回	高齢者の栄養・食生活の援助1) 低栄養・脱水症・摂食嚥下障害	草場【講義】			
第6回	高齢者の栄養・食生活の援助2) 食事援助の実際	草場【講義・演習】			
第7回	高齢者の活動の援助1) 廃用症候群の予防、歩行・移動の援助	草場【講義】			
第8回	高齢者の活動の援助2) アクティビティケアの計画立案	草場【講義・演習】			
第9回	高齢者の睡眠・休息の援助	草場【講義】			
第10回	認知症高齢者とその家族の看護	古村【講義】			・テキストの関連ページを読み、該当項目について予習する
第11回	1) アセスメントとケア	古村【講義】	・実施した講義・演習内容についてテキストや配布資料で復習する		
第12回	2) 活用される療法：ユマニチュード・回想法・ライフレビュー	古村【講義】			
第13回	3) 認知症高齢者とのコミュニケーション	草場【講義】			
第14回	高齢者とその家族の看護1) 介護家族の理解とアセスメント	草場【講義】			
第15回	高齢者とその家族の看護2) 家族支援	草場【講義】			
第16回	高齢者のエンドオブライフケア：意思決定支援、看取りの看護	草場【講義】			
第17回	治療を受ける高齢者の看護1) 薬物療法	新【講義】			
第18回	治療を受ける高齢者の看護2) 検査・診察、入院、手術療法	草場【講義】			
第19回	治療を受ける高齢者の看護3) リハビリテーション、退院支援	草場【講義】			
第20回	高齢者の感染症対策	新【講義】			
第21回	高齢者のリスクマネジメント	草場【講義】			
第22回	事例：生活・療養の場における高齢者の看護	草場【講義】			
第23回	事例：生活・療養の場における高齢者の看護	全員【演習】			
第24回	高齢者ケアにおける他職種連携と看護職の役割、まとめ	草場【講義】	・第6・8・14・22は課題を課す		

テキスト	堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子: ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害, メディカ出版, 2024 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子: ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践, メディカ出版, 2024 水谷信子, 水野敏子, 高山成子他: 最新老年看護学 第3版, 日本看護協会出版会, 2023 (2年次購入)	
参考書	講義の中で紹介する	
成績評価		
方法 (割合)	基準	
筆記試験 (80%) レポート (20%)	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験: 到達目標 1) ~ 5) の達成度を正答率で評価する。 ・レポート: 到達目標 1)3)6) の達成度を課題の内容について整理し、理解できているか評価する。 	
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは採点後に返却する。	

科目名 ナンバリングコード	精神療養生活支援論 NUS2156MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 福浦 善友				
科目担当者	医学部看護学科 舞弓 京子、松島 亜希子 大学病院精神神経診療科 坂本 賢治、靄久 裕貴				
教員の実務経験	この科目は精神科の分野における実務経験を有する教員および臨床スタッフが担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>精神を病む人および精神的困難を抱える人の特性を身体的・心理的・社会的観点から理解し、対象の立場に立った生活上の問題をとらえ、地域在宅・病院施設等の場に応じたリカバリー、成長、社会的自立を促進するために必要な支援方法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科領域における法律や制度が、精神を病む人および精神的困難を抱える人に適用されることの意味について説明できる。 2) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の権利および権利擁護を理解し、安全な治療的環境・安全管理について説明できる。 3) 精神疾患の症状、経過について身体的・心理的・社会的観点を踏まえて説明できる。 4) 精神科領域の代表的な治療的アプローチ（薬物療法・精神療法・作業療法・m-ECT等）が理解でき、看護師の役割について説明できる。 5) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の回復過程に応じた看護について説明できる。 6) 精神を病む人および精神的困難を抱える人が活用できる社会資源や多職種連携について説明できる。 7) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の家族をアセスメントし、家族支援について説明できる。 8) 精神を病む人および精神的困難を抱える人のセルフケア能力をアセスメントできる。 9) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の身体的・心理的・社会的要因の関連を分析し、対象特性を踏まえて対象の気持ちを推察し、看護上の問題とリカバリー・成長・社会的自立を促す支援を説明できる。 				
授業概要	テキスト・ビデオ・事例等を使いながら講義を行い、また臨地実習を想定して、事例の対象特性の把握と支援方法について少人数でのグループ学習を取り入れた授業を行う。 授業の理解を確認するため、講義終了時に、講義内容に関する問題を課す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	権利擁護と処遇・安全管理	福浦【講義】	人権擁護と治療的環境	各回 30分	
第2回	精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等	福浦【講義】	法律の違いを整理		
第3回	精神を病む人および精神的困難を抱える人の症状	福浦【講義】	精神症状と精神疾患		
第4回	薬物療法と看護	福浦【講義】	薬物療法		
第5回	精神療法と看護	舞弓【講義】	精神療法		
第6回	作業療法	坂本【講義】	作業療法・レクリエーション		
第7回	総合失調症患者の看護	福浦【講義】	統合失調症		
第8回	睡眠障害と概日リズム	福浦【講義】	睡眠・覚醒		
第9回	物質関連障害（アルコール・薬物依存症など）患者の看護	松島【講義】	アルコール・薬物依存		
第10回	気分障害（抑うつ障害群・双極性障害等）患者の看護	舞弓【講義】	気分障害		
第11回	強迫性障害患者およびてんかん患者の看護	松島【講義】	強迫性障害・てんかん		
第12回	解離性障害患者およびパーソナリティ障害患者の看護	舞弓【講義】	解離性障害・人格障害		
第13回	身体症状症および関連症（変換症等）患者の看護・前半まとめ	福浦【講義】	身体症状症		
第14回	不安障害（社交不安障害・パニック障害等）患者の看護	松島【講義】	不安障害・パニック		
第15回	児童・思春期患者の看護	舞弓【講義】	発達障害（ASD・ADHD・SLD）		
第16回	特別講義	特別講義講師【講義】			
第17回	家族システム・家族療法等	舞弓【講義】	家族		
第18回	摂食障害患者の看護	松島【講義】	摂食障害		

第19回 第20回 第21回 第22・23回	リエゾン 精神看護精神保健医療福祉に関する社会資源の活用 ケアマネジメント, 社会復帰・社会参加への支援 (退院支援)・多職種連携と看護の役割 事例: 統合失調症患者の対象特性, セルフケアについて把握, 対象の気持ちの推察, 看護問題の抽出 精神を病む人および精神的困難を抱える人のリカバリー, ストレングス等の支援, まとめ	舞弓【講義】 齋久【講義】 福浦【講義】 福浦【講義・演習】	リエゾン 精神保健福祉士 MHSW 社会資源, 退院支援, 多職種連携, ケアマネジメント 第1回～第7回, 第17, 20, 21回で使用した資料, テキストを復習しておく。	各回 30分
テキスト	遠藤淑美、末安民生編：新版精神看護学、2020、中央法規			
参考書	必要時資料配布 服部祥子：生涯人間発達論第3版，医学書院，2020（購入済） 萱間真美、野田文隆編：精神看護学Ⅰ ころの健康と地域包括ケア改訂第3版、2022、南江堂 萱間真美、野田文隆編：精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版、2022、南江堂			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
筆記試験 (90%) レポート (10%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 対象特性および対象の気持ちを発達段階、健康、生活過程との関連で論述しているのかを評価する。			
課題 (レポート等) に対するフィードバック		課題 (レポート等) は評価コメントを講義時間内に行う。		

科目名 ナンバリングコード	小児療養生活支援論 NUS2154MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 藤好 貴子				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かつき、水落 裕美 大学病院看護部 坂田 理絵（新生児集中ケア認定看護師）				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>子どもの健康問題・障害を理解し、子どもと家族に対する看護援助を実践するための知識と技術を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康問題がある子どもの看護の基本となる概念について説明することができる。 2) 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響とその支援について説明することができる。 3) 子どもの安全なケア環境を整えるための支援を説明することができる。 4) 小児看護を実践する際に必要な技術の原理・原則を説明することができる。 5) 健康問題をもつ子どもの事例より、子どもの健康状態と背景を分析し、家族を含めた看護計画を立案できる。 6) 子どもの健康状態、成長発達に応じた看護技術実施時の注意事項を説明することができる。 7) 子どもの健康状態、成長発達に応じた家族支援を考察できる。 				
授業概要	授業と授業内のワークを通して、子どもの健康問題と支援の理解を深める。演習においては、事例を基にグループディスカッションを行い、小児の看護計画立案の理解を深める。また、子どもとの触れ合いを通して子供の成長発達と家族の生活を分析し、小児看護技術の実践や家族支援の理解へと繋げる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回	健康障害を持つ子どもの看護	藤好【講義】	【予習】		
第 2 回	慢性期にある子どもと家族の看護（エンパワメント：循環器疾患）	益守【講義】	各授業の前に		
第 3 回	慢性期にある子どもと家族の看護（乳幼児期：免疫・アレルギー）	藤好【講義】	その内容に		
第 4 回	慢性期にある子どもと家族の看護（学童期：呼吸器疾患）	藤好【講義】	関連する教科書		
第 5 回	小児看護技術①（バイタルサイン測定、身体計測）	水落【講義】	を読む。		
第 6 回	地域で生活している健康問題を抱える子どもと家族の看護（外来看護）	益守【講義】		予習・	
第 7 回	長期療養が必要な子どもと家族の看護（薬物療法：小児がん）	水落【講義】	【復習】	復習で	
第 8 回	隔離・活動制限が必要な子どもと家族の看護（感染症・腎疾患・外傷）	藤好【講義】	各授業の配布	20 分	
第 9 回	先天的な問題を持つ子どもと家族の看護（染色体異常、代謝・内分泌）	藤好【講義】	資料、教科書	程度。	
第 10 回	痛みのある子どもと家族の看護（消化器疾患）	藤好【講義】	を基に復習。		
第 11 回	小児看護技術②（検査・処置時の看護：検体採取・固定・抑制）	水落【講義】	授業内で提示	課題①	
第 12 回	周手術期における子どもと家族の看護	水落【講義】	した国家試験	1 時間、	
第 13 回	救急救命処置が必要な子どもと家族への看護	藤好【講義】	の振り返りを行	課題②	
第 14 回	心身障害のある子どもと家族の看護	益守【講義】	行う。	2 時間、	
第 15 回	低出生体重児の看護	坂田【講義】		課題③	
第 16 回	エンド オブ ライフケアにおける子どもと家族へのかわり	藤好【講義】	【課題】	1 時間	
第 17 回	事例を活用しての子どもの看護計画の展開（情報収集・アセスメント）	藤好【演習】	第 1 回（課題	程度の	
第 18 回	事例を活用しての子どもの看護計画の展開（関連図グループワーク・計画）	藤好・水落【演習】	①）、第 17・18	予定	
第 19 回	災害時における子どもと家族の看護、リスクマネージメント	益守【講義】	回（課題②）、		
第 20 回	子どもと家族の倫理的問題	益守【講義】	第 22 回（課		
第 21 回	小児看護技術③ 赤ちゃんとの触れ合い体験（導入・グループワーク）	藤好・益守・水落【演習】	題③）で課題		
第 22 回	小児看護技術④ 赤ちゃんとの触れ合い体験（実践）	藤好・益守・水落【演習】	を提示する。		
第 23 回	まとめ（赤ちゃんとの触れ合い体験・看護計画を基にした振り返り）	藤好【講義】			
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護	小児看護学① 小児看護学② 小児看護学③	メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版	2023 年 2023 年 2023 年	購入済 購入済 購入済
参考書	講義の中で提示する。				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (70%) 課題 (30%)	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標 1～4 においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標 1 においては課題①を提示し、子どもと家族の体験や状況が明文化され、考察できていること。 ・到達目標 5 においては課題②を提示し、病気の子どもの特性に合わせた、情報収集とアセスメント、看護計画が具体的に提案されていること。問題の抽出においては、グループワークの成果物を評価対象とする。 ・到達目標 6・7 においては、課題③を提示し、対象の子どもの発達段階の評価の基、看護技術実施時の注意事項について記述できていること。子どもの健康状態・発達段階に応じた家族支援について考察ができていること。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題は講義終了後採点し、返却する。

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護活動論 PHN2113MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 佐藤 祐佳				
科目担当者	医学部看護学科 徳澤 麻梨子、小島 一将				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域の健康課題を明らかにする方法を理解し、地域の健康課題を抽出し、対象の特性に合わせた保健活動を検討できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の健康課題を明らかにする具体的な方法を説明できる。 2) シュミレーションデータから地域で生活する人の健康、対象者の特性及び環境を情報収集できる。 3) 人々の生活と健康及び地域環境との関連を説明し、課題を整理できる。 4) 精神障害者・障害者と難病患者の特性を踏まえた保健活動について説明できる。 5) 学校保健・産業保健の環境を理解し、対象の特性を踏まえた保健活動について説明できる。 				
授業概要	地域看護診断の演習では、実存する市の現状をアセスメントし、地域の健康課題を明らかにする過程を学ぶ。講義終了時に講義内容についての確認テストを行い、確認問題の解説を通して講義の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	地域看護診断の意義・目的	佐藤【講義】	シラバスの確認	20分	
第2回	地域看護診断の方法	佐藤【講義】	地域看護診断の目的の復習	20分	
第3回	地域看護診断の実際1；対象の捉え方	佐藤【講義】	演習内容の確認	20分	
第4回	地域看護診断の実際2；情報収集	佐藤【講義・演習】			
第5回	地域看護診断の実際3；情報収集	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	実習地の情報収集	30分	
第6回	地域看護診断の実際4； 情報の分析（アセスメント）	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第5回まで完成させる	60分	
第7回	地域看護診断の実際5； 情報の分析（アセスメント）	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	情報の分析を行う	30分	
第8回	地域看護診断の実際6；健康課題抽出	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第7回まで完成させる	60分	
第9回	地域看護診断の実際7；健康課題の発表と討議	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	発表のための準備	60分	
第10回	地域保健活動の目的，地域組織育成・支援	佐藤【講義】	地域組織育成	20分	
第11回	精神保健の課題と支援	小島【講義】	精神保健医療福祉の動向	20分	
第12回	精神保健活動の実際；社会復帰に向けた支援	小島【講義】	社会復帰支援	20分	
第13回	障害者（児）の健康課題と支援	佐藤【講義】	障害者保健医療福祉の動向	20分	
第14回	難病患者の健康課題と支援	佐藤【講義】	難病対策の動向	20分	
第15回	特別講義	特別講義講師【講義】			
第16回	児童生徒の発育発達と学校保健	徳澤【講義】	児童生徒の健康課題	20分	
第17回	学校保健活動の展開	徳澤【講義】	学校保健活動	20分	
第18回	養護教諭の活動の実際1；健康診断、健康相談、保健指導、 感染症予防	徳澤【講義】	健康診断・健康相談	20分	
第19回	養護教諭の活動の実際2；事故防止、保健学習、学校保健 委員会、地域の関係機関との連携	徳澤【講義】	学校保健委員会	20分	
第20回	産業保健の労働衛生管理体制	佐藤【講義】	労働衛生管理体制	20分	
第21回	産業保健活動の健康課題1；職業性疾病、作業関連疾患	佐藤【講義】	職業性疾病・作業関連疾患	20分	
第22回	産業保健活動の健康課題2；健康管理、メンタルヘルス	佐藤【講義】	健康管理・メンタルヘルス	20分	
第23回	産業保健活動の健康課題3；過重労働、地域連携	佐藤【講義】	地域連携	20分	

テキスト	中谷芳美 他編 標準保健師講座3 公衆衛生看護活動 第4版 医学書院 2018 (2年次購入済)	
参考書	上野昌江 和泉京子 編 公衆衛生看護学 第3版 中央法規 2021 佐伯和子 編 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版株式会社 2018	
成績評価		
方法 (割合)	基準	
筆記試験 (70%) レポート (30%)	到達目標 1)4)5) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 2)3) 地域看護診断の情報を収集し健康に関連する要因を整理し、対象の特性を考察できているか評価する。	
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは、採点后返却を行い講義時間内にて解説を行う。	

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅療養生活支援実習 NUS3461MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で健康障害をもちながら生活する人々および家族を理解し、対象者への在宅看護活動展開に関する基本的な知識、技術、態度を習得する。 2) 地域・在宅看護の支援の実際と社会制度を関連づけて理解し、地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーション及び看護職の役割について理解することができる。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者の健康問題と生活および療養環境を関連づけてとらえ、実際の援助活動を通して看護の役割について述べることができる。 2) 在宅療養者の健康問題を総合的にとらえ、行われている個別性に応じた具体的な援助方法の根拠を説明し、一部実施することができる。 3) 訪問看護ステーションの運営・機能・役割および在宅療養を支えるための社会制度とその活用方法について説明することができる。 4) 地域包括ケアシステムにおける関連機関・関連職種との連携の実際を学び、連携の必要性および看護師の果たす役割について説明することができる。 5) 看護実践の場が、療養者と家族の「生活の場」であることを認識して、身だしなみを整え、礼儀をわかまえ、誠実な態度で実習に臨むことができる。 				
授業概要	看護の対象を生活者として捉え、一人の受け持ち療養者に対して個別性のある在宅の看護過程を展開する。さらに複数の在宅療養者の訪問看護に同行し、対象者の多様性に合わせた多様な支援のあり方について理解を深める。これらの体験を通して学んだ多職種連携のあり方、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について言語化し発表することで、多様な施設における体験に裏付けられた学びを共有する。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 2週間(90時間) /1グループ 訪問看護 ステーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習初日;オリエンテーション、実習目標の確認、事前学習（GW） 2) 施設実習 期間：6～7日間（実習初日・最終日及び祭日を除く） 時間：8：30～16：00（実習施設により異なる） [内容] 初日：施設オリエンテーション、訪問看護師同行開始 ①受け持ち療養者の看護過程の展開 ②訪問看護師の療養者に関する支援（訪問、連絡調整、ケア会議等）の見学 ③訪問看護ステーションの管理・運営・役割に関する調査 ④訪問看護師からの実務者の指導助言 3) 実習最終日 ①発表会：実習施設の特性・地域包括ケアシステムにおける看護職の役割・行った看護の振り返りについて発表する。 ②まとめ：記録整理・課題レポート作成 指示された実習終了時間に記録物一式提出 	<ol style="list-style-type: none"> ①これまでの地域・在宅看護に関する講義の内容を復習し、在宅療養を支える法律や制度について理解して臨む。 ②講義で事例で展開した看護過程の演習課題を持参し、在宅の看護過程について理解して臨む。 ③さらに受け持ち療養者の疾患に関する必要な日常生活援助、診療の補助に関して予習して実践のイメージをして臨む。 	実習事例の訪問前の計画、訪問後の記録など1日2時間程度		
テキスト	なし				
参考書	押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 (株)インターメディカ 2016年 正野逸子・本田彰子 編 関連図で理解する 在宅看護課程 第1版 (株)メヂカルフレンド社 2015年				

成績評価	
方法 (割合)	基準
実習内容 (70%) 実習態度 (30%)	到達目標 1)2)3)4) の達成度の評価：実習記録 (様式 3～14) を評価項目 5 点で評価する 到達目標 2)5) の達成度の評価：看護計画に基づいた看護の一部実施、看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢、体験した現象に対してさらに深く理解しようとする関心を示し文献学習するなどの意欲を 15 項目各 2 点で、臨床指導者と教員の協議の上で評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	実習中に事前学習の理解を事例を通して確認する。

科目名 ナンバリングコード	クリティカルケア実習 NUS3462MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈、専任教員				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目的 急性の経過をたどる対象を全人的に理解し、生命の危機状態から回復に向けた生活を支援するための看護実践能力を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の危機状態にある人（成人・老年期）や家族へのケアに必要な態度を身につけることができる。 2) 対象（成人・老年期）の発達課題をふまえた急激な健康状態の悪化について説明することができる。 <ol style="list-style-type: none"> ①ゴードンのデータベース（11項目）を用いて情報収集とアセスメントが記述できる ②関連図と看護問題を描写できる ③②を用いてチームカンファレンスでより良い看護展開について検討する ④受け持ち患者の個別性を考慮した看護計画（OP/CP/EP）を立案できる 3) 急激な健康状態の悪化による生体反応を理解し、回復に向けた看護を実践・評価・修正できる。 4) 対象（成人・老年期）と家族がどのように危機的状態について受け止めているかを理解し、不安の緩和に向けた援助を実践・評価・修正することができる。 5) 身体機能の変化や喪失が生活様式に及ぼす影響について理解し、対象（成人・老年期）および家族が受容するための方策を検討する。 6) 危機的状況にある対象（成人・老年期）へのチーム医療と保健医療福祉の連携について説明できる。 				
授業概要	<p>久留米大学病院のクリティカルケア領域（SICU、高度救命救急センター、手術室、中央滅菌材料部、周術期病棟など）において、3週間の臨地実習を行う。生命の危機状態にある人や家族（主に周術期）を対象に手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を展開する病棟やSICUでの実習（6～7日）を中心に、学生複数名で1名の患者を受け持ち、指導看護師と共に高度救命救急センターにおける看護実践（2日）を経験するほか、手術室（1日）や中央滅菌材料室（半日）の見学実習を取り入れている。臨床指導者とともに急性期看護論およびその他既習の知識や理論を用いて患者を全人的に捉え、顕在および潜在する問題に対して予測的な視点と科学的根拠に基づいた看護を実践し、評価・修正を経験することで客観的思考を育む。また、看護学生は、看護チームの一員として責任を持った行動が求められる。</p>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 3週間(135時間) /1グループ 久留米大学病院 ・急性期病棟 ・手術室 ・中央滅菌材料部 ・救命救急センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習スケジュール 1日目：実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション 2日目以降：病棟または救命センターでの実習 2. 実習方法 1) 原則として患者1名を受け持ち、看護師や教員、実務者である看護師からの指導を受け看護過程を展開する。 2) 立案した計画の中で学生が行える看護を明確にし、看護師および教員の指導を受けながら実践する。 3) チームケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施し、適切に報告・連絡・相談する。 4) 日々の実習を振り返るカンファレンスでは、指導にあたった看護師など実務者にも同席して頂き、積極的に自身の意見を発言し、メンバーの意見を聴き問題解決を行う。 5) 実務者が行っているカンファレンスに参加し、チーム医療の在り方について学ぶ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う援助技術の既習の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨むこと。 2) 受け持ち患者に対する経過記録を毎日記載し、翌日の計画を立案して臨むこと。 	<input type="checkbox"/> 毎日の経過記録60分程度 <input type="checkbox"/> 翌日の計画立案30分程度 <input type="checkbox"/> 必要に応じて、受け持ち患者ケアに付随する病態生理、看護技術の学習、あるいは看護過程の展開作成に60分程度		

テキスト	1) 林直子, 佐藤まゆみ (編): 急性期看護 I 概論・周手術期看護 南江堂 改定第2版 2021年 2) 佐藤まゆみ, 林直子 (編): 急性期看護 II 救急看護 南江堂 改訂第2版 2021年 3) 野崎真奈美 他 (編): 成人看護技術 南江堂 2022年 4) 医療情報科学研究所: 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 2021年
参考書	系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器、3 循環器、5 消化器、7 脳・神経、11 アレルギー・膠原病・感染症、 医学書院 購入済
成績評価	
方法 (割合)	基準
総括評価	1) 日々の学習 (実習) 活動や実習記録・レポートなどのポートフォリオ、カンファレンスなどを通して総括評価とする。 2) 実習目標 (内容) に対する到達度評価とする。
課題 (記録物等) に対するフィードバック 実習評価票に対するフィードバック 隣地実習ポートフォリオに対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・原則日々の実習記録を確認し時期を得たフィードバックを行う ・必要に応じて看護過程の展開方法や記録について個別指導を行う ・実習評価票に基づき中間・最終評価についてフィードバックする ・隣地実習ポートフォリオに基づき、看護技術の習得状況と学生の強みと弱み (課題) を明確化し、キャリア支援につなげる

科目名 ナンバリングコード	慢性期・回復期支援実習 NUS3463MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	4 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 河原田 康貴、姫野 深雪、専任教員 2 名				
教員の実務経験	本科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>慢性疾患をもつ対象を全人的に理解し、対象の回復とセルフマネジメントを促進する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性疾患を持つ対象の身体・心理・社会的側面について全人的にアセスメントできる。 2) 看護上の問題に対し、個別的な看護目標・計画を立案できる。 3) 対象および家族の価値観を尊重し、協同関係を築くことができる。 4) 慢性疾患を持つ対象の自己管理を促す援助が実践できる。 5) 慢性疾患を持つ対象の生活の再構築に向けた援助が実践できる。 6) 保健医療福祉の連携と社会資源活用の必要性について述べられる。 7) 看護に対する自己の考えを明確にすることができる。 				
授業概要	久留米大学医療センターと久留米大学病院で、慢性疾患の治療・診断期から、病状が安定し自宅を含む次の療養の場への移行期にある対象に看護過程を展開します。対象の自己管理や生活の再構築を目指した看護実践に取り組み、自己の看護に対する考えを深めましょう。また、対象者を取り巻く社会資源にも目を向け、保健・医療・福祉の連携について学び、広い視野を身に付けます。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 4週間（180時間） /1グループ ・久留米大学 医療センター ・久留米大学病院 慢性期病棟 ・外来 ・医療連携センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習スケジュール <ol style="list-style-type: none"> 1 日目：実習オリエンテーション 2 日目以降：第 1 週目は久留米大学医療センター、第 2・3 週目は久留米大学病院で病棟実習、第 4 週目は久留米大学病院医療連携センターと外来で実習を行い、最後の 2 日で報告会の準備と発表、実習のまとめを行う。 2. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として患者 1 名を受け持ち、看護師や教員の指導のもと、看護過程を展開する。 2) 医療連携実習では、医療連携センターのスタッフをシャドーイングする。また、退院後の生活を見据えた支援の事例発表を行う。 3) 外来実習では、外来の看護師のシャドーイング、または外来患者との関わりを持ち、外来看護の役割を学ぶ。 4) 各自で事例に対する看護実践を振り返りレポートを記述し、自己の看護に対する考えを明確にする。 5) 実習まとめの報告会では、慢性期看護の学びを共有し検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) クリティカルケア看護論、慢性期・回復期看護論、終末期・緩和ケア看護論、回復期援助技術、フジガルアセスメント技術、看護過程 I、II、健康教育方法論、家族看護論の学習内容を十分に復習して臨んで下さい。 2) 生活援助技術 I、II、診療に伴う援助技術の既修の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨んで下さい。 3) 配置病棟ごとに具体的な事前課題を課しますので、事前学習をしたうえで実習に臨んでください。 	毎日の経過記録60分程度 翌日の看護計画30分程度		
テキスト	鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：慢性期看護、改訂第 4 版、南江堂 購入済 酒井郁子、金城利雄、深堀浩樹：リハビリテーション看護改訂第 3 版 南江堂 購入済 宮下光令 ナーシンググラフィカ成人看護学 緩和ケア 第 3 版 メディカ出版 2022 年 購入済 野崎真奈美ほか：成人看護学 成人看護技術、改訂第 3 版、南江堂 購入済				
参考書	鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学、緩和・ターミナルケア看護論、第 2 版 ニューヴェルヒロカワ				

成績評価	
方法 (割合)	基準
実習内容 (80%) 実習態度 (20%)	1) 実習目標 (内容) に対する到達度を、実習記録などから評価とする。到達度は、自己評価をふまえて評価する。 2) 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢などにより評価する。 *ただし、出席 3/4 以上に満たないものは評価対象とならない。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	提出された実習記録は、各担当教員が添削後フィードバックする。

科目名 ナンバリングコード	精神療養生活支援実習 NUS3467MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>精神療養生活支援論で学習した知識・技術・態度を統合して、精神に障害のある人および家族を理解し個別な看護が実践できる能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神の障害をもつことについて述べることができる。 2) 対人関係の重要性を認識し、自己理解を深めることができる。 3) 受け持ち患者の看護過程が展開できる。 4) 主な精神科治療とその目的が説明でき、看護師の役割・機能について説明できる。 5) 精神科での事故防止の対策について説明できる。 6) 精神科外来を受診する患者の特殊性を述べるができる。 7) デイケアでのスタッフの役割と機能について述べるができる。 				
授業概要	受け持ち患者の看護過程を展開する。外来やデイケア、精神科におけるさまざまな治療法に参加し、看護師の役割について考える。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 2週間(90時間) /1グループ ・久留米大学病院 ・のぞえの丘病院	<ol style="list-style-type: none"> 1) 1 事例を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 1 週目は看護計画立案、2 週目は実施・評価し、修正する。 3) 日常生活の援助プログラムの他、各種ミーティングに参加する。 4) プロセスレコードにより、看護場面を再構成し、評価する。 5) 外来実習では、通院患者の状況を査定し、看護師の役割を理解する。 6) デイケアでは、プログラムに参加し、メンバーとの交流をもち、援助について考える。 7) 実習先で実務者の指導を得る。 	実習 1～2 日目：情報収集 アセスメント 実習 3 日目：問題関連図 実習 5 日目：看護計画 実習 6 日目：プロセスレコード 実習 10 日目：実習記録まとめ 授業の資料から統合失調症、うつ病の症状や治療、薬物療養、精神療法、作業療法、退院支援、精神保健福祉法における看護師の役割について復習しておく。	毎日 2時間 程度		
テキスト	こころの生涯発達（1年次）、療養生活支援論Ⅲ・臨床心理学（3年次）で使用したテキスト、プリント類				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 酒井隆、宮本聖也他編；こころの治療薬ハンドブック第 14 版 星和書店 2022 2) 姫井昭男著；精神科の薬がわかる本第 4 版 医学書院 2019 				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	情報収集・アセスメント、問題関連図、看護計画、毎日の計画、経過記録、プロセスレコード、外来・デイケア実習、治療と看護、患者との関わりに関して、実践力を総合的に評価する。 時間・規則の厳守、言葉づかい、身だしなみ、提出物の期限の厳守、自主性、報告・連絡・相談、カンファレンスに臨む態度から評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	実習課題 提出された課題に対しては、個別指導を行っている。				

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援実習 NUS3466MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、永田 真理子、岡村 光子、竹藤 徳子、松本 くらら				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母子とその家族の身体的、心理・社会的特性を理解し、健康の保持増進と役割の獲得ができるための看護実践能力を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象を全人的にとらえ、その特性を説明できる。 2) Wellness の視点から対象の看護上の問題を把握・アセスメントし、問題解決のための援助方法を考え、実践に向けて取り組むことができる。 3) 母子とその家族に対する保健医療福祉活動チームの中での看護の役割を認識し、連携及び調整のあり方を説明できる。 4) 自己の看護実践や体験した看護の実際をとおして、母子とその家族に対する看護のあり方について考察し、説明できる。 				
授業概要	<p>外来での妊婦健診、新生児のケア、産褥期の母子の観察とケアをとおして、妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象を全人的にとらえ、その特性を理解する。母子とその家族に対する看護実践は、主に褥婦に対する一連の看護過程の展開を通して取り組む。ハイリスク妊娠・分娩が多くを占める総合周産期母子医療センターでの実習を通して、NICU や地域連携の必要性やあり方を学ぶ。さらに週に1回、実習で遭遇した母子とその家族の看護に関わるテーマでのカンファレンスを、事前準備を行ったうえでグループメンバーと討議し、周産期における母性看護のあり方について考察を深める。</p>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 2週間（90時間） /1グループ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習スケジュール <ol style="list-style-type: none"> 1日目：実習オリエンテーション、看護技術演習 2日目以降：A・Bグループに分かれて、褥室と新生児室/外来に分かれて実習する。 2. 実習方法 <p>久留米大学病院総合周産期母子医療センター産科・不妊部門、産科外来で、実務者の指導を得て2週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊産褥婦を対象に、学生2名で1事例を1週間程度受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。 2) 新生児を対象に、1週間程度、新生児の胎外生活適応・生理的变化に関わる観察・看護実践（清潔ケアや哺乳など）を行う。 3) 産科外来において1日、妊婦健診・保健指導の見学・実践、妊婦との関わりをとおして、妊婦の状況を把握し、看護上の問題点を考える。 4) 実習で遭遇した母子とその家族の看護に関わるテーマでのカンファレンスを、事前準備を行い、グループメンバーと討議し、周産期における母性看護のあり方について考察を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 妊産褥婦、新生児の身体的・心理社会的特性について、講義資料を基に予習を行い、実習に臨む。 2) 実習で実践する看護技術を技術チェックリストで確認し、予習を行い、実習に臨む。 3) 受け持ち事例への毎日の看護目標・計画、新生児・妊婦に対する毎日の学習目標を立案し、それを基に実践した看護を毎日記載し、翌日の目標設定に繋げる。 	<p>毎日の記録60分程度</p> <p>翌日の看護計画に30分程度</p> <p>必要に応じて、受け持ち患者ケアに付随する</p> <p>病態生理看護技術の学習、看護過程の展開作成に60分程度</p>		
テキスト	森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論、医学書院、2021（母子健康支援論でも使用）				
参考書	医療情報科学研究所編：病気がみえる V01.10 産科 第4版、メディックメディア、2018 北川真理子編：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 第2版、メヂカルフレンド社、2015				

成績評価	
方法 (割合)	基準
実習内容 (80%) 実習態度 (20%)	到達目標の達成度の評価について、日々の看護の実施状況、実習記録等により評価する。 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢等により評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	提出された記録・課題に対して、個別指導を行う。

科目名 ナンバリングコード	小児療養生活支援実習 NUS3465MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 藤好 貴子、水落 裕美				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことができることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>発達過程にある子どもをひとりの人間として統合的にとらえ、社会の一員としての子どもと家族の健康ニーズを把握し、健康レベルに応じた最善な看護を実施するために、必要な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長発達の視点から子どもをアセスメントできる。 2) 健康問題を抱える子どもの全体像（病態生理、身体的精神的社会的問題、治療などを含む）を説明できる。 3) 健康問題を抱える子どもの看護上の問題点、問題解決のための援助方法を説明できる。 4) 様々な状況下にいる子どもの健康レベルに応じた支援、子どもの発達やセルフケア向上のための支援を説明できる。 5) 子どもの権利を尊重した看護、小児看護の役割を説明できる。 6) 小児看護における倫理的問題について倫理原則などを活用して検討することができる。 				
授業概要	保健所、外来、NICU/GCU、病棟での実習を通して、様々な健康レベルにある子どもと関わり、対象理解を深める。病棟では一人の子どもを担当し、講義で学習したことを参考にしながら、子どもや家族への看護を考え、看護師とともに実践を行う。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 2週間（90時間） /1グループ ・久留米大学病院 小児科病棟 小児科外来 NICU/GCU ・わんぱく保育園	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習スケジュール <ol style="list-style-type: none"> 1日目 実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、看護技術演習 2日目～ A・Bグループに分かれて、病棟とNICU/GCU・外来・保育園で実習する 2. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟実習：1名の子どもを受け持ち、看護師の指導のもと看護過程を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・入院加療が必要な子どもの特性や家族の状況をアセスメントし、看護上の問題点を抽出する。 ・セルフケアの向上や発達への支援を基盤に看護介入を実施する。 2) 保育所実習：保育士の指導のもと、1日子どもの保育に関わる。 3) NICU・GCU実習：先天性疾患を抱える児への看護、低出生体重児への看護の実際を見学するとともに、看護師の指導のもとGCUで子どもへの看護（哺乳や清潔ケアなど）を実施する。 4) 小児科外来実習：処置や診察場面などでの看護の実際を見学するとともに、看護師の指導のもと計測・処置場面での子どもへの看護を実施する。 5) 実習最終日：学内にて「子どもの権利を尊重する看護」について討議する。小児看護の役割について記述する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習を通して、子どもの最善の利益、子どもの権利を遵守する看護とは何かを考えること 2) 病気の子どもが体験していることを考えること 3) 子どもや家族が医療に参加する（セルフケア、自律尊重、意思決定）とはどのようなことなのかを考えること 4) 自分の体調管理を行いながら、実習に関する予習復習をすること。 5) 看護技術に関する予習は必須とする。 	実習後 4時間 /日程度 週末・祝日 5時間 /日程度		
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2023年 購入済 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2023年 購入済 中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版 2023年 購入済 「こころの生涯発達」「生涯発達看護概論」「疾病治療論小児疾患」等で使用したテキスト、配布資料				
参考書	医療情報科学研究所編：病気がみえる VOL.10 産科、医学書院 購入済				

成績評価	
方法（割合）	基準
到達目標への達成度 （80%） 実習への取り組み・態度 （20%）	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を査定するための評価票（ルーブリック評価）を活用し、ポイント化し評価する。（病棟実習、保育所実習・NICU/GCU・外来実習、学内日の課題） ・日々の記録物や実習場所ごとの提出物より、実習内容が具体的に目的に沿って明文化されているか、対象理解や状況理解を深め、看護が検討されているかなどを評価する。 ・課題への取り組み状況、カンファレンスへの参加状況を参考に、取り組みや態度を評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	記録へのコメント、実習最終日に個別指導を行う。

科目名 ナンバリングコード	地域・高齢者生活支援実習 NUS3464MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 老年期にある対象の特性を理解し、高齢者とその家族のその人らしい生活の実現に向けた看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険施設で生活している高齢者及び家族の健康課題や生活機能をとらえ、個別性に応じた看護を展開できる。 2) 高齢者及びその家族の支援に向けた多職種連携・協働について理解し、看護の役割について説明できる。 3) 高齢者との関わりを通し倫理的課題について考え、基本的態度を身につけることができる 4) 豊かな人生を経てきた高齢者とのかかわりを通して、自己の老年観を表現することができる。 5) 地域で生活する高齢者とその家族の健康課題に応じた地域包括ケアについて説明できる。 				
授業概要	高齢者の暮らしが多様化する中、高齢者一人一人の人生を受け止め、高齢者とその家族が、健康を維持・回復・増進し、最期までその人らしくよりよく生きる・生活する支援について学ぶ。さらに実習の中で高齢者の倫理的課題について考察し、看護職者として高齢者の尊厳を守る老年看護について学ぶ。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年9月～ 2025年3月 3週間（135時間） ・介護老人保健施設 または介護老人福祉施設 ・デイケアまたは デイサービスセンター ・生涯学習センター ・地域包括支援センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. スケジュール 1日目～学内演習 オリエンテーション 2日目～介護老人福祉施設または介護老人保健施設の施設実習（デイケア又はデイサービス実習2日、生涯学習センター1日、地域包括支援センター1日の実習を含む） 最終日 学内演習 実習のまとめ 2. 実習方法 1) 施設実習では1名の高齢者を受け持ち、教員・指導者の指導のもと情報収集、情報の整理・分析より健康問題を明らかにする。健康問題に対して、強みを活かしその人らしく生活できる看護を展開する。 2) 看護技術の習得の学習は、原則として事前学習を行い看護師が実践している場面を見学から始め、その後、水準レベルに応じて技術の習得していく。（予定外の看護技術の見学については、見学後に自己学習を行う） 3) デイケアまたはデイサービス実習では、在宅療養中の要支援・要介護者の支援について学ぶ。 4) 日々のカンファレンスでは、指導者に同席してもらい、助言をいただく。 5) 生涯学習センターの実習では、サークル活動に参加して地域の高齢者との交流を通し、高齢者の社会参加について学ぶ。 6) 地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割及び各専門職の役割について学ぶ。 7) 最終日は学内でまとめを実施する。実習グループごとに学修成果（3週間の学び・高齢者の尊厳を守るケア・老年観等）を発表し、全体討議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達課題、高齢者の身体・心理・社会的特徴、認知機能の障害と行動心理症状および認知症高齢者の看護、介護保険の仕組みとサービス、高齢者の生活援助技術、アクティビティケアの意義、自己の老年観について予習を行い実習に臨む。 ・受け持ち高齢者に対する経過記録を毎日記録し、翌日の計画を立案して臨む。 ・受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習及び復習 	<p>毎日の経過記録60分程度、翌日の計画立案30分程度。</p> <p>受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習各60分程度。</p>		
テキスト	これまでの講義で使用したテキスト・資料および参考書を十分に活用する。				
参考書	新たな課題・学習内容については、文献等を活用すること。				

成績評価	
方法 (割合)	基準
実習内容 (80%) 実習態度 (20%)	実習内容：看護の実践状況、記録より評価する。 実習態度：カンファレンスの参加状況、実習に対する積極性、連絡・報告・相談の状況等を評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	実習記録およびカンファレンス等でコメントする。

科目名 ナンバリングコード	研究Ⅱ NUS2182MN5	必修科目	3年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 梶 勇三郎				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことができることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護における研究の位置づけを理解し、実践の問題を解決する基礎的研究能力を養う。 2) 看護研究における倫理を理解し、看護研究のプロセスに関する知識を習得する。 3) 既存の研究論文を分析的に読み、批判的に思考する方法を習得する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護における研究の位置づけが説明できる。 2) 看護研究プロセスを説明できる。 3) 看護研究における倫理について説明できる。 4) 看護研究の代表的なデザインを説明できる。 5) データ分析方法を説明できる。 6) 批判的に文献を検討できる。 				
授業概要	授業と授業内のワークを通して、看護研究の意味や研究方法の概論、研究倫理についての理解を深める。授業内のワークを通して、看護研究のプロセスを理解し、研究Ⅲの学習に繋げる。また、研究論文を分析的に読み、研究の内容について検討し、臨地での疑問の解決への活用を考察する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	看護研究とは 看護研究の動向・研究と実践の関係 看護研究プロセス 看護研究における倫理 質的研究方法の概要 質的研究の論文を読む 質的研究：研究方法（対象者の選定、面接方法、依頼方法など） 質的研究：データ分析、結果の公表 量的研究方法の概要 量的研究の論文を読む 量的研究：研究方法（対象者の選定、尺度検討、調査項目検討など）、分析方法、結果の公表 質的研究の論文を批判的に読む 量的研究の論文を批判的に読む 研究計画書作成の基礎知識 研究計画書作成（1） 研究計画書作成（2）	益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 梶【講義】 益守【講義】 梶【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】	【復習】 各授業の配布資料、教科書を基に復習。 【課題】 課題1 課題2は第4～7回11回、課題3は第9・10回12回、課題4は第14・15回に取り組む	復習で20分程度 課題1 1時間程度、課題2～4は講義時間内に実施	
テキスト	南裕子編集：看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 2016年				
参考書	講義の中で提示する				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） 課題（30%）	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標1）～5）においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標2）～5）においては課題1～3を提示する。課題への取り組み状況をポイント化して評価する。課題1：提示した方法を用いて関心領域の原著または研究論文を選択する。課題2/3：論文（質的研究・量的研究）を読み、文献カードとしてまとめ、批判的に分析する（論理性、一貫性、独自性、研究の意義との関連性などの視点で考察すること）。 ・到達目標6）においては、課題4を提示し、作成された研究計画書（研究背景、研究目的、研究意義、研究方法）を評価対象とする。 				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題は講義終了後採点し、返却する。				

科目名 ナンバリングコード	看護学概論Ⅱ NUS3129MN7	必修科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>臨地実習を含む既習学習と諸理論を統合させながらケアの概念と看護学の関連、及び看護の独自性、専門性について考察する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 看護理論の主要概念を踏まえ、看護の現象を解くための看護理論の必要性について説明できる。 2) 諸理論の学びから、ケアの概念について看護学との関連から考えたことを述べるができる。 3) 社会にみられる問題や課題を取り上げ、保健医療福祉分野への影響と看護の独自性の発揮について考えを述べるができる。</p>				
授業概要	看護の先人達が提唱した理論にふれ、臨地実習での体験・既習内容と関連させながら看護について考えを深める。自身の実習における看護の深化・発展に向けて適合する理論を選択し、分析考察し、プレゼンテーションを行う。そして、社会で起こっている事象に目を向け考察し、これからの看護について考える。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護メタパラダイム、看護の問題解決に向けた探求方法	加悦【講義】	①資料復習	30分	
第2回	看護理論の歴史と動向、諸理論の概要、理論の分析方法、 〔環境と看護、基本的ニードと看護〕 自立とは、セルフケアとは、ケアの概念 人間関係の看護、人間対人間の関係、看護実践過程の理解 現象学的人間論と看護、文化看護学 ※学生が看護を探求するための理論を選択し、実習で行った 〔看護を分析し、看護の在り方を深化・発展させる〕	全員【演習】	②～⑥ディスカッションの材料を毎回準備して臨む。理論家の例) F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン、ドロセア・オレム、シスター・カリスト・ロイ、ヒルデガート・E・ペプロウ、ジョイス・トラベルビー、アイダ・ジーン・オーランド、パトリシア・ベナー、M. レイニンガー、その他	60分	
第3回		全員【演習】		60分	
第4回		全員【演習】		60分	
第5回		プレゼンテーションの実施・ディスカッション		全員【演習】	60分
第6回	看護理論の実践への活用について 発表、討論、疑問の解決	全員【講義・演習】	デガード・E・ペプロウ、ジョイス・トラベルビー、アイダ・ジーン・オーランド、	30分	
第7回	社会事象を看護の視点で分析	加悦【演習】	ラベルビー、アイダ・ジーン・オーランド、	90分	
第8回	保健医療福祉分野における看護の独自性、看護の発展；討論	加悦【講義・演習】	パトリシア・ベナー、M. レイニンガー、その他 ⑦⑧社会事象の分析・考察レポート	30分	
テキスト	その都度、資料を配布する。				
参考書	<p>F・ナイチンゲール著、湯楨ます他訳：看護覚え書、現代社（購入済）</p> <p>V・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会（購入済）</p> <p>筒美 真優美 編：看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2版、2020</p>				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (50%) レポート (50%)	到達目標 1) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 2) 3) の看護理論家の看護に対する考えおよび臨地実習の体験をとおして、これからの保健医療福祉分野における看護の独自性について再考できているかルーブリックで評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	毎回の課題はフィードバックし返却するが、最終評価レポートとともに再度提出し採点後に返却する。

科目名 ナンバリングコード	地域看護技術演習 PHN3215MN8	選択科目	4年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 佐藤 祐佳				
科目担当者	医学部看護学科 重松 由佳子、椛 勇三郎、徳澤 麻梨子、小島 一将				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域看護診断・健康教育・保健指導のグループ演習で、健康に影響する諸要因を情報収集・分析し、看護の立場から健康課題や問題を抽出し、解決方法を考え、対象の特性を踏まえた保健活動を実践できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 既存の資料から地域の健康課題の分析に必要な情報を収集できる。 2) 地域の健康に影響を与えている要因と要因間の関連及び導き出した地域の健康課題を説明できる。 3) 保健指導事例の生活背景と健康状態の関連を分析し、事例の特性を踏まえた支援計画を立案できる。 4) 保健指導事例の支援計画をふまえ、模擬者のニーズを判断しながら支援できる。 5) 健康教育事例の地域及び対象の特性をふまえた健康教育計画を立案できる。 6) 健康教育事例の健康教育計画をふまえ、集団の反応に合わせて健康教育を実施できる。 7) 実践した保健指導・健康教育について、支援場面を振り返り、目標を評価できる。 8) 地域看護診断の資料及び対象の特性に応じた保健指導・健康教育の教材をパソコンで作成できる。 9) グループ学習を通して、多様な意見を取り入れ、対象者のニーズに合った保健活動を他者と検討できる。 				
授業概要	グループ学習を中心として、自己評価・他者評価を活用して、主体的に学びあえる授業形態としている。演習の目標については、事前にルーブリック評価を提示することで求められていることを明確にしている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	<p>地域看護技術演習のすすめ方</p> <p>健康教育1; 対象集団の理解</p> <p>健康教育2; 企画書・実施案の立案</p> <p>健康教育3; 企画書・実施案の立案</p> <p>健康教育4; シナリオおよび媒体の作成</p> <p>健康教育5; シナリオおよび媒体の作成</p> <p>健康教育6; プレリハーサルの実施</p> <p>健康教育7; デモストレーションの実施 (発表)</p> <p>健康教育8; デモストレーションの実施 (発表)</p> <p>保健指導ロールプレイ1; 対象の分析</p> <p>保健指導ロールプレイ2; 保健指導計画の立案</p> <p>保健指導ロールプレイ3; 保健指導計画の立案</p> <p>保健指導ロールプレイ4; 保健指導の実施 (発表)</p> <p>保健指導ロールプレイ5; 保健指導の実施 (発表)</p> <p>保健指導ロールプレイ6; 保健指導の実施 (発表)</p> <p>実習地の地域看護診断1; 情報収集</p> <p>実習地の地域看護診断2; 情報収集</p> <p>実習地の地域看護診断3; 情報の統合と分析</p> <p>実習地の地域看護診断4; 情報の統合と分析</p> <p>実習地の地域看護診断5; 健康課題の把握</p> <p>実習地の地域看護診断6; 健康課題の把握</p> <p>実習地の地域看護診断7; 地域看護診断概要報告会 (発表)</p> <p>実習地の地域看護診断8; 地域看護診断概要報告会 (発表)</p>	科目責任者・ 科目担当者全員 【講義・演習】	<p>シラバスの確認</p> <p>第2～9回 対象に健康教育の実施を行うために個人・グループにて予習を行う</p> <p>第10～15回 対象の状況を検討し理解を深めるために個人・グループにて予習を行う</p> <p>地域看護診断の意義・目的</p> <p>第17～23回 実習地の現状を理解するために個人・グループにて予習を行う</p>	各60分 ただし 発表前 は90分	

テキスト	保健指導で高血圧パラドックスの解消へ 東京医学社 2020年, 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版株式会社 2018	
参考書	こどもノート・からだノート ウェルクル	
成績評価		
方法 (割合)	基準	
発表内容 (50%) レポート (30%) 学習態度 (20%)	到達目標 1) ~ 8) の達成度を初回に提示した健康教育・保健指導・地域看護診断のルーブリックを活用して評価を行う。 達成目標 9) の達成度は、自己評価・学生同士での他者評価・教員評価をあわせて評価を行う。	
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題 (レポート等) は、コメントを講義時間内に返却する。	

科目名 ナンバリングコード	総合実習 NUS4498MN7	必修科目	4年次 1学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、椛 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、草場 知子、河原田 康貴、 姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、徳澤 麻梨子、 前野 里子、水落 裕美、三次 貴大、永田 真理子、岡村 光子、新 裕紀子、 松島 亜希子、山下 寛子、池上 明由美、山田 泰子、石橋 秋奈、小島 一将、 森永 朗子、竹藤 徳子、松本 くらら、他専任教員				
教員の実務経験	この科目は、専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 複数の患者を受け持ち、看護チームの一員として看護師が果たす役割を実践し、保健・医療・福祉活動における看護師の役割や、看護マネジメントシステムについて学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護体制を理解し、看護チームの一員としての看護を実践する。 2) 看護倫理に基づき患者や家族のニーズに応じた看護を実践する。 3) 看護実践における記録の重要性を理解し、チームの一員としての責務を果たす。 4) 臨床における医療安全管理と看護管理について説明できる。 5) 保健医療福祉活動チームにおける、健康上の問題解決のための包括的アプローチとサポートシステムについて説明できる。 6) 看護者としての自己の課題を明確化することができる。 				
授業概要	2週間の実習を通し、複数の患者を受け持ち、看護チームの一員として役割をとりながら、管理者（師長・主任）の役割や他職種との連携についても主体的に学習する。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）		必要時間	
2024年6月10日(月)～ 2024年6月21日(金) 2週間（90時間） ・久留米大学病院 ・久留米大学 医療センター	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟の指導者と病棟管理者にアポイントを取り、実習内容について計画する。 2) 複数の患者を受け持ち、看護を実践する。 3) 管理者（師長・主任）について医療安全管理や看護管理について学習する。 4) 保健医療福祉のチームカンファレンスなどに参加し、看護師の役割について学習する。 5) ポートフォリオの4年間の記録をまとめ、自己の成長と課題を記述する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 総合実習は、4年間のまとめとしての実習になる。3年次までのポートフォリオを振り返り、自己の課題を明らかにして、課題克服のため積極的かつ主体的に実習に臨む。 2) 看護管理実習における貴重な体験が、より効果的な学習につながるよう、看護管理の科目を選択し、事前学習を深める。 3) 学生生活最終の実習がより充実した実習になるように総合実習の目的・目標を熟読し、準備学習、既習の看護技術の復習を行い臨む。 4) 実習病棟の指導看護師との事前打ち合わせによって明らかになった課題に取り組んでおく。 		<p>毎日の経過記録 60分程度</p> <p>翌日の計画立案 30分程度</p> <p>受け持ち患者の病態、治療、看護計画立案、看護技術の学習を含め60分程度</p>	
テキスト	指定したテキストなし				
参考書	実習内容を充実させるために、今まで活用した教科書や講義時の配布資料などを活用すること。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	教育目標 / 到達目標への到達度をポイント化し、評価する。 実習中の態度、カンファレンスへの参加度などにより評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	記録物は返却しないが、学生と実習内容を振り返る。				

科目名 ナンバリングコード	地域生活支援実習 PHN3416MN8	選択科目	4年次	実習	5単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、椛 勇三郎、徳澤 麻梨子、小畠 一将				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の②多様なニーズに対応するために看護職及び多職種と連携協働する必要性が分かることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域（職域、学校含む）で生活する人々（個人・家族・集団・組織・地域）への公衆衛生看護活動を通して、地域の関係者と連携協働して公衆衛生看護活動を担っている保健師の役割・機能について考察する。 2) 公衆衛生看護活動を展開するための基本的な知識、技術、態度を習得する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護活動が展開される場（行政、職域、学校等）の特性を把握し、行政機関・法人・民間施設の位置づけ、役割、機能について説明できる。 2) 各事業（活動）について、事業の意義および、企画から評価までの過程を説明できる。 3) 健康問題の解決にむけた仕組みを理解し、社会資源の活用・開発、システム化・事業化・施策化の具体的な展開とその展開における保健師の役割について説明できる。 4) 人々の健康に影響している要因を分析し、潜在的・顕在的健康課題を抽出し、地域の特性をいかした保健活動を提案できる。 5) 生活する対象（個人・集団）を統合的に理解し、対象の健康に影響を与えている要因を分析し保健指導を実施できる。 6) 地域の健康増進能力の向上にむけて、保健師が地域の人々や関係者・関係機関等と協働する意義と活動、及び協働における保健師の役割について説明できる。 7) 地域の健康危機管理体制の整備及び健康危機発生時・回復期の保健師の活動について説明できる。 8) 常に実習態度を自己洞察・評価し、その評価をいかした行動ができる。 				
授業概要	保健所と市町村、学校、企業にて、グループ単位で実習し、対象や各組織の特性をふまえた保健師活動について学ぶ。なお、実習内容に応じて、個人とグループでのワークを組み合わせ、学習効果を高める。				
授業計画					
実習期間	実習内容		準備学習（予習・復習等）	必要時間	
2024年6月～11月 5週間（225時間）	<p>実習展開方法：人数：1施設2～4名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> ①保健所、市町村 ②上記①以外の施設；企業・学校等。 2) 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> ①施設実習前：学内オリエンテーション、健康教育指導案作成、地区踏査、地域看護診断、事業の事前学習 ②実習最終日：総括（グループワーク・プレゼンテーション） 3) 実習施設実習内容 <ol style="list-style-type: none"> ①対象の健康課題の調査・分析（地域看護診断） ②保健活動への参加・理解 ③保健活動の実施（保健指導・家庭訪問・健康教育等） ④健康をまもるしくみづくり・協働活動への参加・理解 <p>実務者からの指導助言を含む</p> 4) 実習時間：原則、当該実習施設の執務時間に準ずる。 		<p>実習計画表に基づき、日々の保健事業について事前学習をして臨む。</p> <p>毎日の具体的目標を前日に記録に記載して実習に臨む。日々のカンファレンスで課題になったことはその日の内に復習する。</p>	<p>その日のうちに問題解決できるよう予習・復習合わせて毎日1時間程度行う。</p>	
テキスト	こどもノート・からだノート ウェルクル 2024（地域看護技術演習時に冊子を配布済）				
参考書	1・2・3・4年次に地域看護関連科目で使用したテキスト				

成績評価	
方法 (割合)	基準
実習到達度 (100%)	到達目標1)～7)について実習記録様式1～13、健康教育フォーム、地域看護診断関連資料、実習態度をルーブリック評価で行う。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	記録物は施設実習の作成経過時にその都度フィードバックする。 記録提出後は原則返却しない (大学側で焼却)。

科目名 ナンバリングコード	研究Ⅲ NUS4794MN7	必修科目	4 年次 1 学期・2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 重松 由佳子、古村 美津代、嵯峨 堅、加悦 美恵、崎浜 智子、桐明 あゆみ、舞弓 京子、佐藤 祐佳、梶 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、松本 悠貴、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、前野 里子、徳澤 麻梨子、水落 裕美、三次 貴大、永田 真理子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の③看護の本質に向けて問題を解決しようとする態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護現象の振り返り・文献検討から、研究課題及び研究意義を検討する。 2) 研究プロセスを通して、科学的思考力や分析力を養い、問題解決能力を習得する。 3) 看護研究を実施することで倫理的な配慮の具体的方法について理解する。 4) 看護研究の成果発表により、研究成果の看護実践への反映を考える。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護現象・先行文献から研究テーマを焦点化し、研究目的とその意義を明確化することができる。 2) 研究目的を明らかにできる研究計画を立てることができる。 3) 研究計画に基づき、倫理的配慮を行い、データを収集することができる。 4) 得られたデータを分析し、研究目的に沿って結果をまとめることができる。 5) 結果に基づき、既存の文献を活用して論理的に考察できる。 6) 研究論文としてまとめ、成果をどのように看護に反映していくかも踏まえて発表することができる。 				
授業概要	研究Ⅰ、研究Ⅱで学んだ知識を基に、自らの研究テーマに関わる学習、文献講読を十分行ったうえで解決すべき看護上の問題を見出し、研究テーマを焦点化する。研究テーマにおける研究の意義・目的を明確化し、それを明らかにできる研究対象・方法を含んだ研究計画書を指導教員の支援を受けて作成し、計画書に沿って一連の研究を実践する。得られたデータは量的・質的分析を行い、文献を活用して考察を深め、論文にまとめ、研究成果を効果的にプレゼンテーションする。研究Ⅲのまとめでは、一連の研究プロセスを振り返り、看護の発展に向けて、今回の学びをどのように反映させることができるか考える。				
授業計画					
	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 研究Ⅲの取り組みについて説明（研究テーマ・希望教員の提出） 2. 指導教員決定・研究Ⅲ要項配布 3. 指導教員による指導 研究テーマに関わる学習・文献講読を行い、テーマを焦点化する 指導教員と連絡を密にとり、日時を調整し、ゼミ形式や個別指導等で、一連の研究プロセスについての指導を受ける 4. 論文作成・発表・論文提出 <ol style="list-style-type: none"> 1) 論文作成に関する説明 2) 卒業論文発表会に関する説明 論文題目の提出 抄録の印刷と提出 3) 卒業論文発表会 パワーポイントを用い、口演発表 4) 論文提出 5. 研究Ⅲの振り返り・まとめ 	<p>田中【講義】</p> <p>田中【講義】 担当者全員【演習】</p> <p>田中【講義】 田中【講義】</p> <p>担当者全員【演習】</p> <p>田中【講義】</p>	<p>研究Ⅰ、研究Ⅱを十分に復習し、研究テーマに関わる学習、文献検索・講読を行い、取り組む。</p>	<p>自分自身の理解度に応じて必要十分な時間をとること。</p>	
テキスト	必要時、資料を配布する。各指導教員の紹介によるテキストを適宜、活用すること。				
参考書	南裕子編集：看護における研究，第2版，日本看護協会出版会，2017（研究Ⅰにて購入済） 横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3版 医歯薬出版株式会社，2017				

成績評価	
方法 (割合)	基準
研究計画 (40%) 研究論文 (20%) 研究発表 (20%) 態度 (研究計画書作成、データ収集等の積極性など) (20%)	到達目標の達成度の評価：評価方法 (割合) を基準に研究プロセスを通して総合的に評価する。 態度：一連の研究プロセスに対する積極的な態度、学ぶ姿勢、期限の遵守等により評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	研究プロセスにおいて指導教員より個々にコメントを行う。

科目名 ナンバリングコード	看護管理 NUS3195MN7	必修科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	大学病院看護部 山本 都江、川野 佐由里、四方田 暁美 大学病院医療安全管理部 林 ゆかり				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護の対象となる人々に安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するために、看護者個人及び看護組織が担う役割やシステムについて学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護管理の基本となる概念及び看護管理の原則について説明できる。 2) 看護職能団体における看護倫理と社会的責任について説明できる。 3) 組織・チームにおけるリーダーシップと自己の役割・能力を發揮・拡大できる方法を説明できる。 4) 医療安全・危機管理（リスクマネジメント、医療事故、感染予防対策など）について説明できる。 5) 看護者の看護管理に求められる能力について考察できる。 6) これからの医療・看護を担う専門職として自己の果たす役割について考察できる。 				
授業概要	国民の保険医療福祉に対するニーズの変化に伴い、看護サービスへの要求は多様化・複雑化しており、看護職への期待と役割は拡大している。この科目では、看護を取り巻く諸制度や施策を理解し、看護の対象となる人々に安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するために、看護職者個人および看護組織が担う役割やシステムについて理解する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	1) 看護管理の定義とプロセス 看護管理の定義と基本的要素、看護におけるマネジメント、看護におけるマネジメントの考え方の変遷、マネジメントプロセスとPDCA	古村 【講義】	既習の授業・実習時資料や文献等にて予習	毎回： 予習 30分・ 復習 30分	
第2回	2) 看護管理の基礎 組織・人材資源管理・リーダーシップ、医療経済と看護サービス管理、労務管理、情報管理、看護倫理	山本 【講義】			
第3回	3) 病棟における看護管理の実際 チームにおける看護の役割、目標管理、業務改善、物品管理、人材育成	四方田 【講義】			
第4回	4) 医療安全と看護管理・リスクマネジメント インシデントレポートと事故防止対策、ヒューマンエラーの対策、多職種連携による組織的取り組みと対策	林 【講義】			
第5回	5) 感染制御における看護管理とチーム医療、グローバルヘルスケア	川野 【講義】			
第6回	6) 看護を取り巻く法律と諸制度 法律と看護管理、医療制度と診療報酬のしくみ、看護と診療報酬等	古村 【講義】			
第7回	7) 看護管理に求められる能力 セルフマネジメント、コミュニケーションスキル、タイムマネジメント、アサーション等	古村 【演習・講義】			第7回授業後 レポート提出
第8回	8) 看護職とキャリア キャリアとは何か、キャリア開発と継続教育	古村 【講義】			第8回授業後 レポート提出
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	手島恵編集：看護管理、改訂第2版、南江堂、2020等を参照				

成績評価	
方法 (割合)	基準
試験 (80%) レポート (20%)	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標 1)2)3)4) の達成度を定期試験の正答率で評価する。 到達目標 5)6) レポートをポイント化して評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	評価後に返却する。

科目名 ナンバリングコード	看護総合演習 NUS4299MN7	必修科目	4年次 2学期	演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 崎浜 智子、桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、梶 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、前野 里子、水落 裕美、三次 貴大、永田 真理子、岡村 光子、新 裕紀子、松島 亜希子、山下 寛子、山田 泰子、池上 亜由美、森永 朗子、石橋 秋奈、小島 一将、竹藤 徳子、松本 くらら、他専任教員				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>これまでの学習を統合し、看護師として状況をアセスメントし、安全に看護技術を実践できる。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 既習の看護技術、未履修の技術について、根拠に基づき安全に正確に実施できる。</p> <p>2) 状況を判断し、看護師として適切な行動をとることができる。</p>				
授業概要	看護技術については、タスクトレーニングを行い、いくつかの看護場面についてシミュレーションを用いて、状況をアセスメントし、適切な看護ケアを実践・評価し、看護実践能力の向上をはかる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>1. 内容</p> <p>1) 看護技術</p> <p>①バイタルサイン、フィジカルアセスメント</p> <p>②侵襲を伴う看護技術:採血、注射、点滴ポンプの管理、吸引、導尿など</p> <p>頻度が多い技術:搬送、移乗、体位変換</p> <p>標準予防策</p> <p>③コミュニケーション、報告・連絡・相談</p> <p>2) シミュレーション</p> <p>4つの事例を用いて行う。</p> <p>ブリーフィング、デブリーフィングを実施し、患者の状況をアセスメントし、ニードを明確にして、必要なケアを実践、評価する。</p> <p>3) 試験</p> <p>4) 振り返り</p>	専任教員 【演習】	<p>1) 看護技術の手技をNursing Skillsの視聴し確認する。</p> <p>2) 技術項目に関する学習および技術練習を行う。(実習室を利用できる)</p> <p>3) シミュレーションの事前学習:事前に配布された事例を読み、病態、治療、求められる看護ケアについて考える。</p> <p>4) 振り返り:毎回、実施した技術内容の振り返りをレポートし、ポートフォリオに綴じていく。</p>	演習後 60分	
テキスト	これまで学習したテキスト、資料を用いる。参考資料を配布する。				
参考書	ナーシングスキル (Web) : https://nursingskills.jp/				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
演習内容の自己評価・他者評価、小テスト、課題、レポート内容 (90%) と出席態度 (10%)	原則として2/3以上の出席がないと合格しない、講義・演習への遅刻の場合は減点する。技術チェック、統合技術内容の自己評価と学生同士での他者評価、小テスト、提出物、参加態度等をすべて合計して評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題や技術内容に関しては、毎回フィードバックを行う。				

科目名 ナンバリングコード	がん看護学 NUS3196MN8	選択科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪 大学病院看護部 副枝 恵美 (がん看護専門看護師) 大学病院看護部 原 美穂 (がん看護専門看護師)				
教員の実務経験	本科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 最新のがん治療と看護について学習し、がん患者と家族に対する理解を深め、心身の苦痛や苦悩に対する援助方法について学ぶ。 倫理的課題と看護師の果たす役割について学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> がん看護に関する概念・理論について説明できる。 がん治療を受ける患者の看護について、具体的な援助方法を述べるができる。 発達段階におけるがん患者の特徴と援助について述べるができる。 がん看護における倫理的課題を分析することができる。 倫理調整における看護師の具体的役割を記述できる。 				
授業概要	最新のがん治療とがん看護について、文献や講義で学びます。また、がん医療における倫理的課題と看護師の果たす役割について、グループワークをします。これらを通して、がんの療養の過程に沿って生じる困難な状況に寄り添い、解決するがん看護実践力の基礎を身に付けます。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	がん看護の概念 がんの病態とがん医療の動向、がん患者の特徴、 がん看護に適用される理論とモデル (自己効力 症状 マネジメント)	桐明【講義】	1) 予習 テキストの該当箇所 を熟読する。第7回 と第8回は、事例を 示すので各自で倫 理的課題を分析し てから演習に参加す る。 2) 復習 講義資料の振り返り	毎回 30分	
第2回	最新のがん治療と症状マネジメント1 薬物療法 (分子標的薬治療含む)	姫野【講義】			
第3回	最新のがん治療と症状マネジメント2 放射線療法 (粒子線治療含む)	副枝【講義】			
第4回	発達段階におけるがん看護1 AYA世代の特徴と援助、多職種によるチームアプロー チと家族支援	姫野【講義】			
第5回	発達段階におけるがん看護2 成人期がん患者と老年期がん患者の特徴と援助、 就労支援、療養の場の移行支援 家族支援	桐明【講義】			
第6回	がん看護における倫理調整	原【講義】			
第7・8回	倫理カンファレンス演習 事例に対する倫理的課題の分析と支援方法の発表	桐明・姫野【演習】			
テキスト	鈴木久美、林直子、佐藤まゆみ 看護学テキストNICE がん看護 南江堂 2021				
参考書	小松浩子、中根 実 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 2022				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (80%) 演習評価 (20%)	到達目標 1) ~ 3) への達成度は、試験問題に対する正答率で評価する。 到達目標 4) 5) の達成度は、演習における発表内容と課題レポートの記述内容を得点化し、評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題レポートについては、評価後にコメントを付記してフィードバックする。

科目名 ナンバリングコード	多職種連携教育 NUS3285MN7	必修科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、新 裕紀子 保健管理センター 安川 秀雄 医療センター医療連携推進室 丸山 紀子 大学病院看護部 物部 千穂、西村 知子、平塚 奈希 大学病院精神神経診療科 齋久 裕貴				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の③多職種の中での看護の役割を見出し実践する態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 保健・医療・福祉の動向を踏まえ、多職種連携の重要性と看護職の果たす役割について学ぶ。 2) 多職種連携に必要なコンピテンシーについて理解する。 到達目標 1) 多職種連携の現状と課題について考察できる。 2) 多職種連携における専門職それぞれの役割と看護職の役割について記述できる。 3) 保健・医療・福祉の動向を踏まえ多職種連携の重要性を説明できる。 4) 多職種連携において必要なコンピテンシーについて説明できる。				
授業概要	少子高齢化、在院日数の短縮などにより地域包括ケアシステムが進む中、様々な専門職がそれぞれの専門性を活かし、対象者の共有した目標に向けて連携・協働する多職種連携が重要である。多職種連携を進めていくには、自らと異なる専門職の専門性を理解し、お互いに尊重し合い連携・協働することが求められる。本授業では、事例による協同学習で様々な専門職の役割の理解とともに看護職者が果たす役割について考えていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	多職種連携の現状と課題（協同学習）	古村・姫野・渡邊・福浦・藤好・新【演習】	第1回：臨地実習を振り返り、多職種連携についての私見をまとめ授業に臨む	毎回 予習 60分	
第2回 第3回	地域社会の動向と多職種連携の重要性 医看合同グループワーク（協同学習）	古村【講義】 古村・姫野・渡邊・福浦・藤好・新【演習】	第2・3回：事例について病態生理や退院調整に関連する社会資源について予習する。		
第4回	多職種連携において必要なコンピテンシー	古村【講義】			
第5・6回	第5・6回事例（成人・老人・精神・小児） についてグループワーク（協同学習）	古村・姫野・渡邊・福浦・藤好・新【演習】	第5・6回：事例の情報の分析、他職種の役割、看護師の役割について予習しておく。		
第7・8回	発表とまとめ（各事例）	安川・丸山・西村・物部・平塚・栗屋昌樹（久留米地域支援センター）・齋久・姫野・渡邊・福浦・藤好・新・古村【演習】	第1・6・8回終了後は課題を課す		
テキスト	必要時、資料を配布する。事例検討の際、必要な教科書・参考書、資料・文献等を持参し参考にする。				
参考書	田村由美：新しいチーム医療 改訂版 看護とインタープロフェSSIONAL・ワーク入門、看護の科学社、2018				

成績評価	
方法 (割合)	基準
筆記試験 (70%) 受講態度・レポート (30%)	筆記試験：到達目標の達成度を筆記試験の正答率で評価する。 レポート：提出されたレポート（課題 1～3）について、その記述内容の評価を行う。
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題レポート：レポートは採点し返却する。

科目名 ナンバリングコード	最先端の医療と看護 NUS3197MN8	選択科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 松本 悠貴 先進漢方治療センター 恵紙 英昭 総合周産期母子医療センター 木下 正啓 医学部医療検査学科 棚町 千代子 大学病院看護部 杉島 寛、三重野 智志、平塚 奈希				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標到達目標	教育目標 医療・看護・検査技術の新しい知見を得ることにより、先端医療及び医療・看護・検査技術が発展していく中で自らが看護師としての果たすべき役割とは何かを探求し続ける能力を備えるための素地を養う。 到達目標 1) 医療、看護及び検査分野における新しい知見、技術、取り組み等の概要を説明できる。 2) 先端医療及び新しい看護技術、取り組み等に関する文献から得た知見を説明し、看護の目指すべき方向性を思考、グループで共有、プレゼンテーションをすることができる。				
授業概要	各専門分野の教員によるオムニバス形式で行う。 まとめとして医療・看護が発展していく中での看護師の役割に関するグループワーク、プレゼンを行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	検査機械、検査技術の開発	棚町・加藤【講義】	検査機械・検査技術の復習	15分	
第2回	ロボット支援手術の実際	三重野・加藤 【講義・演習】	ロボット支援手術における看護の復習	15分	
第3回	先進漢方治療と看護	恵紙・加藤【講義】	先進漢方治療における看護の復習	15分	
第4回	特定行為にかかわる看護実践	杉島・加藤【講義】	様々な特定行為における看護実践の復習	15分	
第5回	遠隔による新生児蘇生	木下・加藤【講義】	遠隔による新生児蘇生の復習	15分	
第6回	子どもの発達段階に合わせた プレパレーション	平塚・加藤【講義】	子どもの発達段階に合わせた看護の復習 先端医療又は看護の新しい取り組み等の 文献検索、入手し、次回授業時に持参	60分	
第7・8回	医療・看護・検査技術が発展して いく中での看護師の役割 (グループワーク) (プレゼンテーション)	加藤・松本【演習】	授業時に使用したプレゼンテーション資料を修正する	60分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	特になし				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (60%) レポート (40%)	到達目標 1) の達成度は正答率で評価する。 到達目標 2) の達成度はグループ単位での評価とする。先端医療又は看護技術や取り組み等の中での目指すべき看護師の役割を文献及びグループでのディスカッションを元にまとめられているかを評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	採点后、必要に応じてフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	地域看護管理論 PHN3114MN8	選択科目	4年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 小島 一将				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の①看護職及び他職種の機能・役割及び関係を構築する方法を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域で生活している人々の健康と生活をよりよい状態に維持・向上するために、地域のニーズや特性に合わせて、地域の人々や関係者と協働して行う地域保健活動を効果的かつ円滑に遂行するために行う管理機能を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護管理の理念、目的、対象と方法、看護管理の機能について説明することができる。 2) 健康危機管理時に必要な公衆衛生看護管理について説明することができる。 3) 地域ケアの質の保証のための地域の人々や関係者の役割機能について説明できる。 4) 地域ケアシステムと地域ケアコーディネートの必要性と構築活動について事例を踏まえて説明することができる。 				
授業概要	講義とグループ演習（健康危機時の対策や保健活動の検討、支援事例や地区活動の実際の取り組みの評価）を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	公衆衛生看護管理の理念・目的・機能、保健師の役割、統括保健師、マネジメント、リーダーシップ	重松【講義】	シラバスを確認	講義前：テキストを読み（20-30分）、疑問点を明らかにし臨む。終了後：15-20分用語の復習をして知識を確実にする。	
第2回	地区管理・情報管理・組織運営管理・事業業務管理	重松【講義】	公衆衛生看護管理構成要素		
第3回	事例管理、予算編成・予算管理、人事管理人材育成	重松【講義】	公衆衛生看護管理構成要素		
第4回	健康危機管理・リスクコミュニケーション	重松【講義】	防災・災害時の保健活動		
第5回	地域の特性をいかした活動1	重松【講義】	事例検討		
第6回	地域の特性をいかした活動2	重松【講義】	事例検討		
第7回	地域の特性をいかした活動3	重松【講義】	事例検討		
第8回	地域の特性をいかした活動4	重松【講義】	事例検討		
第9回	事例管理の実際：児童虐待のリスクマネジメント	重松【講義】	児童虐待防止		
第10回	事例管理の実際：感染症のリスクマネジメント	重松【講義】	感染症結核感染予防対策		
第11回	事例管理の実際：精神障害者のリスクマネジメント	小島【講義】	精神障害者への地域支援		
第12回	保健所の地域看護管理1	重松【演習】	保健所管轄市町村の特性		
第13回	保健所の地域看護管理2	重松【演習】	保健所管轄市町村の特性		
第14回	保健所の地域看護管理3	重松【演習】	保健所管轄市町村の特性		
第15回	保健所の地域看護管理4	重松【演習】	保健所管轄市町村の特性		
テキスト	なし				
参考書	<p>標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 2022年</p> <p>平野かよ子 編：最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論，メヂカルフレンド社 2011年</p> <p>井伊久美子 編：保健師業務要覧：日本看護協会出版会 2023年</p> <p>岡本玲子 編：公衆衛生看護テキスト 公衆衛生看護活動Ⅰ 医歯薬出版株式会社 2022年</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2023年</p> <p>岡本玲子 編：地域の強みを高める公衆衛生看護技術 医歯薬出版株式会社 2020年</p>				

成績評価	
方法 (割合)	基準
レポート (50%) 受講態度 (50%)	到達目標 1)2) の到達度を正答率と筆記で評価する。 到達目標 2)3)4) の到達度を、健康危機時の状況、取り組みを行う関係者の役割機能、管轄地域の特性をふまえた管理について検討できているか評価する。
課題 (レポート等) に対するフィードバック	第 15 回にレポートの全体的な講評を行い、返却はしない。